

鷺山南遺跡

— B地点の調査—

2022

本庄市教育委員会
株式会社 どりーむ

さぎ やま みなみ い せき
鷺 山 南 遺 跡

— B地点の調査 —

2022

本庄市教育委員会
株式会社 どりーむ

序

埼玉県北部に位置する本庄市は、埼玉県指定史跡「鷲山古墳」をはじめ、原始古代から近代に至るまで数多くの遺跡と歴史的建造物に恵まれた地域として広く知られています。

本書に報告する鷲山南遺跡は、先述の鷲山古墳が立地する鷲山丘陵一帯を内包する遺跡で、丘陵自体は小規模なものですが、縄文時代から中世に至るまで多種多様な文化財が検出されていることから、本庄市の歴史を読み解くうえで、重要な遺跡の一つとして知られています。

本遺跡における発掘調査は、本年度の調査を合わせ2地点で実施されており、昭和58年度に実施されたA地点の調査では、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡、井戸跡、道路跡等、様々な遺構が検出されています。

さて、本書所収の鷲山南遺跡B地点の調査では、飛鳥時代から奈良時代にかけての竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡等が検出されました。

とりわけ、礎板石をもつ大型掘立柱建物跡の第1号掘立柱建物跡は、これまでの調査成果から、中世館跡に関わる建物と考えられ、県下でも数少ない中世館跡の良好な資料として注目されます。

本書は開発工事に先立って実施した発掘調査の成果をまとめたものであり、本庄市の歴史を考えるうえで重要な資料の一つでもあります。今後、本書が学術的な研究の発展に寄与するとともに、地域の歴史や遺跡を理解する一助として、多くの皆様に広く活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行にあたり、ご協力いただきました株式会社どりーむをはじめ、様々なご協力やご教示を賜りました関係諸機関並びに関係者の皆様に対しまして、心から御礼を申し上げます。

令和4年8月

本庄市教育委員会
教育長 下野戸 陽子

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市児玉町下浅見字鷲山 823 - 1、823 - 4の一部、823 - 5、823 - 9に所在する鷲山南遺跡のB地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、住宅型有料老人ホーム建設に伴う事前の記録保存を目的として、令和4年度に調査を実施した。
3. 発掘調査は、株式会社どりーむの委託を受けて、本庄市教育委員会が実施し、福岡佑斗が担当した。現地調査は宮田忠洋（有限会社毛野考古学研究所）が専従した。
4. 発掘調査から報告書作成・刊行に至る経費は、株式会社どりーむが負担した。
5. 発掘調査面積は、222 m²である。
6. 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。
発掘調査 自 令和4年4月11日 至 令和4年6月30日
整理調査 自 令和4年6月27日 至 令和4年8月31日
7. 発掘調査にかかわる基準点測量、遺構測量、空中写真撮影は小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
8. 整理作業・報告書刊行にかかわる業務は、有限会社毛野考古学研究所に委託した。
9. 自然科学分析については、早田勉（有限会社火山灰考古学研究所）に分析いただいた。
10. 本書の執筆は、第I章を本庄市教育委員会事務局、第II章を恋河内昭彦（有限会社毛野考古学研究所）、第IV章を早田、第III・V章を宮田が担当し、編集を福岡と宮田が行った。遺物の実測及び観察表は車崎正彦（有限会社毛野考古学研究所）、遺物写真撮影については、宮田が担当した。
11. 本所に掲載した出土遺物、遺構・遺物の実測図及び写真、その他本報告に関連する資料は本庄市教育委員会で保管している。
12. 本報告にかかる発掘調査、整理作業及び報告書編集・刊行に関する本庄市教育委員会の組織は、下記のとおりである。



鷲山南遺跡B地点発掘調査組織（令和4年度）

主体者	本庄市教育委員会	
	教 育 長	下野戸 陽子
事務局	事 務 局 長	高橋 利征
文化財保護課	課 長	折茂 勝彦
	課 長 補 佐	細野 房保
	課 長 補 佐	山田 修
	埋蔵文化財係長	的野 善行
	主 任	鈴木 まゆみ
	専 門 員	徳山 寿樹
	主 事	福岡 佑斗
	主 事	水野 真那
	会計年度任用職員	中嶋 淳子、矢内 勲、新井 嘉人、栗原 正実、落合 智恵美、 倉林 美紀、黒澤 恵、渋谷 裕子、星野 八重子
	調 査 支 援 員	宮田 忠洋（有限会社毛野考古学研究所）

13. 発掘調査及び本書の作成にあたって、下記の方々、諸調査機関よりご助力・ご協力を賜った。記して感謝いたします。（敬称省略）
浅野 晴樹、池田 匡彦、井上 裕一、江原 昌俊、金子 彰男、北山 直人、外山 政子、中沢 良一、林 道義、丸山 修、山本 良太、児玉郡美里町教育委員会、児玉郡神川町教育委員会、児玉郡上里町教育委員会、埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、早稲田大学考古資料館

凡 例

1. 本書掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は、各挿図中に付すスケールに準拠する。遺構平面図中の北方位は座標北を、断面図の水準線数値は海拔標高を示し、単位はmである。座標は、世界測地系第IX系を用いている。
2. 土層及び土器の色調、土層説明における含有量は、『新版 標準土色帳』（農林水産技術会事務局・財団法人日本色彩研究所監修 2014）を用いた。含有量は、面積割合によって、大量（50%以上）、多量（30～50%）、少量（10～30%）、微量（10%以下）とした。第Ⅱ・Ⅲ章と第Ⅳ章の土層の色調については相違があるが、観察者の所見に従い、そのまま掲載した。
3. 本書で使用した地図は、以下のとおりである。
 - 第1図：本庄市都市計画図 1/2,500（平成25年度、令和3年修正）
 - 第2図：堀口万吉「Ⅱ 埼玉県の地形と地質」『新編埼玉県史自然編』1986
 - 第3図：国土地理院発行 1/25,000「本庄」（平成10年度）
4. 遺構平面図の縮尺は、全体図・掘立柱建物跡配置図を1/120、住居跡カマド・被熱範囲の平面図・断面図を1/30、その他の遺構平面図・断面図を1/60で掲載した。
5. 遺構図中のスクリーントーンは以下のとおりである。

	地山の関東ローム層		被熱範囲
---	-----------	---	------
6. 本文中や土層説明中における火山噴出物は、1783（天明3）年に浅間山から噴出した浅間A軽石をAs-A、1108（天仁元）年に浅間山から噴出した浅間BテフラをAs-B、浅間山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（約1.5～1.65万年前）をAs-YPと表記した。
7. 遺物図の縮尺は、土器完形・復元個体を1/4、遺物破片を1/3、土製品を1/2で掲載した。
8. 遺物番号は、実測図・観察表・写真図版ともに共通である。
9. 出土遺物観察表に記した記号は、以下のとおりである。

A—法量（単位はcm、g）、B—成形、C—整形・調整、D—胎土、材質、E—色調、
F—残存度、G—備考、H—出土層位、位置
10. 本文中及び遺物観察表における（ ）は復元値、[]は残存値を示す。

目 次

序	
例言	
凡例	
第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の地理的・歴史的環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第Ⅲ章 検出された遺構と遺物	5
第1節 遺跡の概要	5
第2節 基本層序	5
第3節 検出された遺構と遺物	8
1. 竪穴住居跡	8
2. 掘立柱建物跡	14
3. 土坑	28
4. 溝跡	31
5. ピット群	33
6. 調査区内出土遺物	47
第Ⅳ章 本庄市鷲山南遺跡B地点の火山灰分析	48
第Ⅴ章 まとめ	58
写真図版	
抄録・奥付	

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図	1	第19図 第2号掘立柱建物跡出土遺物	22
第2図 埼玉県地形	2	第20図 第3号掘立柱建物跡	23
第3図 周辺の主要遺跡	4	第21図 第4号掘立柱建物跡	24
第4図 B地点全体図	6	第22図 第5号掘立柱建物跡	25
第5図 基本層序	7	第23図 第6号掘立柱建物跡(1)	26
第6図 第1号住居跡	8	第24図 第6号掘立柱建物跡(2)	27
第7図 第2号住居跡(1)	9	第25図 第1号土坑出土遺物	28
第8図 第2号住居跡(2)	10	第26図 土坑	30
第9図 第2号住居跡出土遺物	11	第27図 第1・2・3号溝跡	32
第10図 掘立柱建物跡配置図	13	第28図 第2号溝跡出土遺物	32
第11図 第1号掘立柱建物跡(1)	15	第29図 ピット群(1)	33
第12図 第1号掘立柱建物跡(2)	16	第30図 ピット群(2)	34
第13図 第1号掘立柱建物跡(3)	17	第31図 ピット群(3)	35
第14図 第1号掘立柱建物跡(4)	18	第32図 ピット出土遺物	46
第15図 第1号掘立柱建物跡(5)	19	第33図 調査区内出土遺物	47
第16図 第1号掘立柱建物跡出土遺物	20	第34図 基本層序・第6号掘立柱建物跡P14におけるテフラ分析試料の層位(●)	53
第17図 第2号掘立柱建物跡(1)	21	第35図 基本層序・P-109・P-136におけるテフラ分	
第18図 第2号掘立柱建物跡(2)	22		

第 36 図	析試料の層位 (●) 53
	第 1 号掘立柱建物跡 P16 におけるテフラ分析試料の層位 (●) 53
第 37 図	第 1 号掘立柱建物跡 P19 におけるテフラ分析試料の層位 (●) 53
第 38 図	第 1 号掘立柱建物跡 P22 におけるテフラ分析試料の層位 (●) 53

第 39 図	第 2 号掘立柱建物跡 P6 におけるテフラ分析試料の層位 (●) 53
第 40 図	第 2 号掘立柱建物跡 P8 におけるテフラ分析試料の層位 (●) 53
第 41 図	野外調査写真 56
第 42 図	テフラ分析写真 57

表 目 次

第 1 表	第 2 号住居跡出土遺物観察表 12
第 2 表	第 1 号掘立柱建物跡ピット計測表 17
第 3 表	第 1 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 20
第 4 表	第 2 号掘立柱建物跡ピット計測表 22
第 5 表	第 2 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 22
第 6 表	第 3 号掘立柱建物跡ピット計測表 23
第 7 表	第 4 号掘立柱建物跡ピット計測表 24
第 8 表	第 5 号掘立柱建物跡ピット計測表 25
第 9 表	第 6 号掘立柱建物跡ピット計測表 27
第 10 表	第 1 号土坑出土遺物観察表 28
第 11 表	第 2 号溝跡出土遺物観察表 32
第 12 表	ピット計測表 (1) 36
第 13 表	ピット計測表 (2) 37
第 14 表	ピット計測表 (3) 38
第 15 表	ピット計測表 (4) 39

第 16 表	ピット計測表 (5) 40
第 17 表	ピット計測表 (6) 41
第 18 表	ピット計測表 (7) 42
第 19 表	ピット計測表 (8) 43
第 20 表	ピット計測表 (9) 44
第 21 表	ピット計測表 (10) 45
第 22 表	ピット計測表 (11) 46
第 23 表	第 56 号ピット出土遺物観察表 46
第 24 表	第 79 号ピット出土遺物観察表 46
第 25 表	第 192 号ピット出土遺物観察表 46
第 26 表	第 295 号ピット出土遺物観察表 46
第 27 表	第 359 号ピット出土遺物観察表 46
第 28 表	調査区内出土遺物観察表 47
第 29 表	テフラ検出分析結果 (1) 54
第 30 表	テフラ検出分析結果 (2) 55

写 真 目 次

図版 1	鷺山南遺跡 B 地点調査区遠景 (南西より)
	鷺山南遺跡 B 地点調査区遠景 (南東より)
図版 2	鷺山南遺跡 B 地点調査区全景
	第 1 号住居跡
	第 2 号住居跡
	第 2 号住居跡カマド
	第 2 号住居跡遺物出土状況
図版 3	第 2 号住居跡カマド遺物出土状態
	第 2 号住居跡カマド前遺物出土状態
	第 1 号掘立柱建物跡
	第 1 号掘立柱建物跡 (東側)
	第 1 号掘立柱建物跡 (西側)
図版 4	第 1 号掘立柱建物跡 P1
	第 1 号掘立柱建物跡 P1 遺物出土状態
	第 1 号掘立柱建物跡 P2
	第 1 号掘立柱建物跡 P3
	第 1 号掘立柱建物跡 P3 (最下層)
	第 1 号掘立柱建物跡 P4
	第 1 号掘立柱建物跡 P4 (最下層)
	第 1 号掘立柱建物跡 P5
図版 5	第 1 号掘立柱建物跡 P6 土層断面
	第 1 号掘立柱建物跡 P7
	第 1 号掘立柱建物跡 P7 遺物出土状態
	第 1 号掘立柱建物跡 P8
	第 1 号掘立柱建物跡 P9
	第 1 号掘立柱建物跡 P10
	第 1 号掘立柱建物跡 P11
	第 1 号掘立柱建物跡 P11 土層断面
図版 6	第 1 号掘立柱建物跡 P12
	第 1 号掘立柱建物跡 P13
	第 1 号掘立柱建物跡 P16
	第 1 号掘立柱建物跡 P16 土層断面
	第 1 号掘立柱建物跡 P17
	第 1 号掘立柱建物跡 P17 土層断面
	第 1 号掘立柱建物跡 P18
	第 1 号掘立柱建物跡 P19
図版 7	第 1 号掘立柱建物跡 P19 土層断面

	第 1 号掘立柱建物跡 P20
	第 1 号掘立柱建物跡 P21
	第 1 号掘立柱建物跡 P22
	第 1 号掘立柱建物跡 P23
	第 2 号掘立柱建物跡
	第 2 号掘立柱建物跡 P6 土層断面
	第 2 号掘立柱建物跡 P8 土層断面
図版 8	第 3 号掘立柱建物跡
	第 4 号掘立柱建物跡
	第 4・5・6 号掘立柱建物跡
	第 4 号掘立柱建物跡 P1
	第 4 号掘立柱建物跡 P2
図版 9	第 4 号掘立柱建物跡 P5
	第 4 号掘立柱建物跡 P7
	第 5 号掘立柱建物跡
	第 6 号掘立柱建物跡
	第 1・2・3 号土坑
	第 4 号土坑
	第 5 号土坑
	第 6 号土坑
図版 10	第 8 号土坑
	第 9 号土坑
	第 10 号土坑
	第 1・2 号溝跡
	第 3 号溝跡
	調査区南東部ピット群
	調査区南西部ピット群
	P-48
図版 11	第 2 号住居跡出土遺物
図版 12	掘立柱建物跡出土遺物
	土坑出土遺物
	溝跡出土遺物
	ピット出土遺物
	調査区内出土遺物
	第 1 号掘立柱建物跡の礎板石や根固め石に使用された石材

第 I 章 調査に至る経緯

令和3年8月5日（木）、本庄市児玉町下浅見字鷲山 823 - 1、823 - 4の一部、823 - 5、823 - 9において、住宅型有料老人ホーム建設を計画している株式会社どりーむより、同開発予定地に関する『埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて（照会）』の照会文書が、本庄市教育委員会に提出された。

これを受けて、市教育委員会は、埼玉県教育委員会発行の『埼玉県遺跡地図』（令和2年度版）をもとに、同地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しているか照会を行ったところ、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である鷲山南遺跡（埼玉県遺跡番号 No. 54-007）の包蔵地内に所在していることが判明した。

そのため、市教育委員会では、当該事業計画地について遺跡保存のための基礎資料を得るために試掘調査を行うこととし、令和3年10月19日（火）から同月22日（金）にかけて現地調査を実施した。

試掘調査の結果、事業予定地内にて保存対象となる埋蔵文化財として、掘立柱建物跡と土坑、多数の土師器片が検出された。

この試掘調査の結果に基づいて、事業主と開発予定地に所在する埋蔵文化財の保存について協議を実施したが、計画変更等は困難であるため、事業予定地内において、工事により保存されない範囲を発掘調査し、記録保存の措置をとることとなった。

かくして、令和4年3月8日（火）に事業主の株式会社どりーむと本庄市の間で遺跡発掘調査委託契約を締結し、現地における発掘調査を実施する運びとなった。

発掘調査の実施にあたって、株式会社どりーむより文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和3年8月5日付）が、本庄市教育委員会より文化財保護法第99条に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」（令和4年4月5日付本教文発第1号）が、それぞれ埼玉県教育委員会に提出された。

また、埼玉県教育委員会から、開発工事着工前に発掘調査を実施する旨の指示が記された「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」（令和4年2月28日付教文資第4-2171号）が事業主に通知された。

なお、現地における発掘調査は令和4年4月11日（月）から同年6月30日（木）の日程で行われた。

（本庄市教育委員会事務局）



第 1 図 調査区位置図

第Ⅱ章 遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

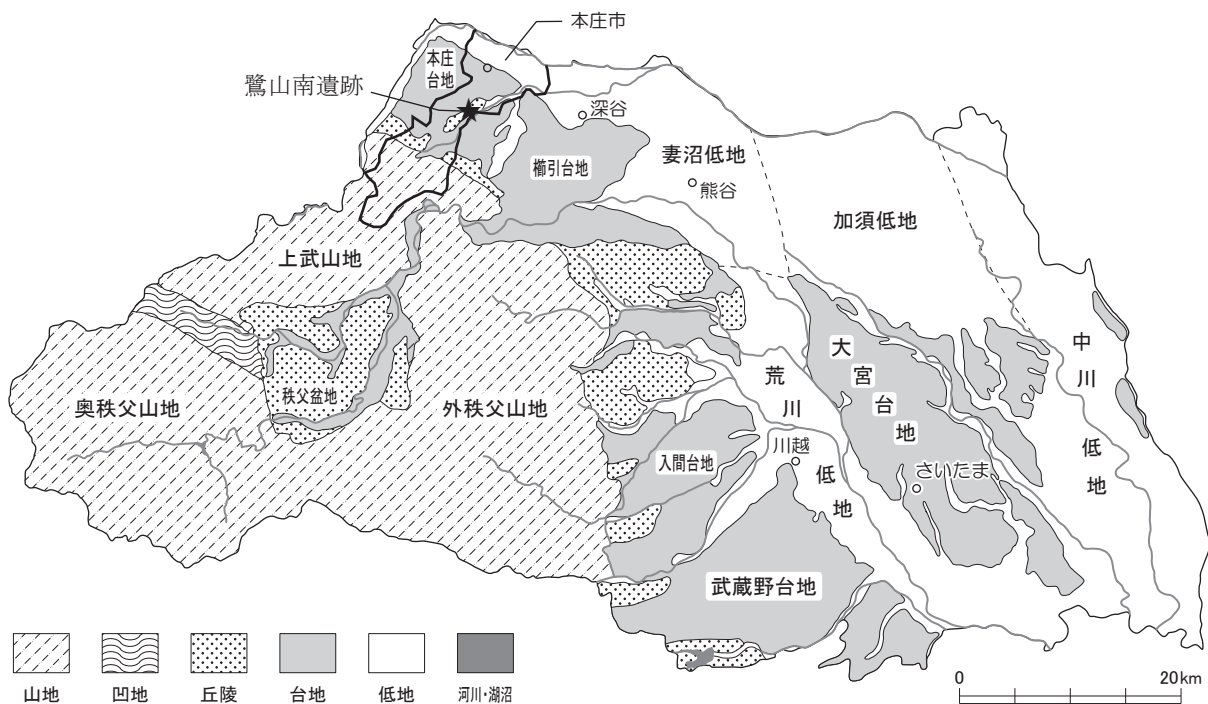
本遺跡は、埼玉県北部の本庄市に所在する（第2図）。この地域は古代の児玉郡に属し、北西側は古代の加美郡（上里町）、東側は古代の榛沢郡（深谷市）と那賀郡（美里町）に接している。また、北側は利根川を挟んで上野国那波郡（群馬県伊勢崎市）と、西側は神流川を挟んで上野国緑野郡（群馬県藤岡市）とも接している。

本遺跡周辺の地形は、市域の南側半分を三波川系結晶片岩帯に相当する上武山地が占め、北西側の八王子―高崎構造線の断層崖を境に丘陵部の児玉丘陵が半島状に幾筋も延びている。さらにその北側には神流川扇状地が展開し、扇端部に位置する深谷断層を境に烏川・利根川右岸の烏川低地が広がっている。

本遺跡が立地する神流川扇状地東側は、児玉丘陵下に低平で広大な本庄台地が広がり、その東側に上武山地内から流れ出る小山川（旧身馴川）、女堀川（上流は旧赤根川、中流は旧九郷堀）、金鑽川などの中小河川によって開析された沖積低地が帯状に広がり、児玉丘陵から分断された生野山、鷲山、大久保山（浅見山、塚本山）の3つの残丘が、小山川（旧身馴川）の左岸に沿って列状に並んでいる。本遺跡はこの残丘列の鷲山に立地しており、今回の調査区のすぐ傍には、当地域で最古の古墳である古墳時代前期の前方後方墳の鷲山古墳（A：墳丘長 60 m）がある。

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺（第3図）では、本庄台地上の古井戸遺跡（13）、将監塚遺跡（15）や塚島遺跡（7）、残丘上の浅見山Ⅰ遺跡（50）や城の内遺跡（65）、自然堤防上の久下東遺跡（40）、久下前遺跡（41）



第2図 埼玉県の地形

などで、先土器時代の石器が少数ながら出土し、その時代から人々が活動していた痕跡が認められるが、女堀川沖積低地周辺に本格的に定住するようになるのは、縄文時代前期後葉以降である。特に本庄台地の東側縁辺部では、中期中頃（勝坂Ⅲ式）になると新宮遺跡（6）、古井戸遺跡、将監塚遺跡、将監塚B遺跡（16）の4つの同時期の小規模な集落が近接して出現し、その中の新宮遺跡、古井戸遺跡、将監塚遺跡の3つの集落が中期後半（加曾利EⅢ式）にかけていずれも大規模な環状集落に発展しながら併存する様相が注目されている。

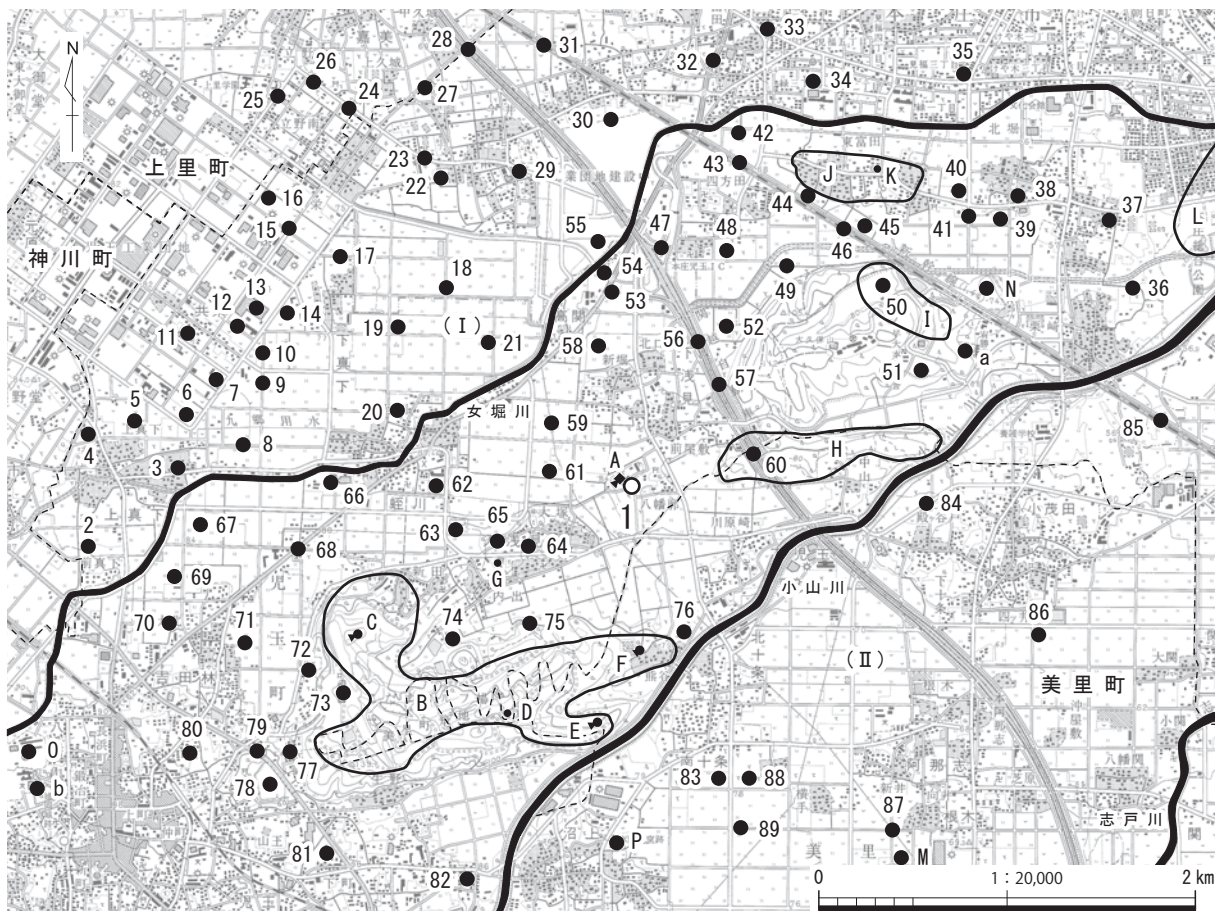
弥生時代の遺跡は比較的少ない。中期には美里町村後遺跡（84）のように低地の開発を志向する集落も出現するが定着せず、後期には樽式土器と吉ヶ谷式土器の2系統の土器を主体に持つ小規模な集落が、丘陵部を主体に併存して少数立地するようになる。これらの該期集落は、その立地傾向から支丘間の細長く伸びる小規模な谷田や丘陵上の畑作を経営基盤にしていたものと思われる。

古墳時代になると当地域では急激に遺跡数が増加するが、その現象は本遺跡が所在する女堀川沖積低地内やその周辺部で顕著に認められる。その背景には、灌排水路の掘削による低地の開発と、後張遺跡（47）、川越田遺跡（54）、久下東遺跡、久下前遺跡、浅見境北遺跡（59）、日延遺跡（63）などのように低地内への集落の積極的な進出が考えられる。中期には女堀川左岸の本庄台地の開発が進行し、中期から後期を通じて遺跡数はさらに増加して、残丘上、自然堤防上、本庄台地縁辺部を主体に、流域の全域に集落が展開するようになる。古墳は、中期には格子目叩きの円筒埴輪を伴う金鑽神社古墳（G）、生野山将軍塚古墳（D）、公卿塚古墳（K）の墳丘長60mを測る3つの首長墓級の大形円墳の造営が注目される。後期には生野山銚子塚古墳（C）などの首長墓級の古墳は前方後円の墳形を採用するようになり、小山川の左岸に沿って長沖古墳群、生野山古墳群（B）、塚本山古墳群（H）、大久保山古墳群（I）、東富田古墳群（J）、西五十子古墳群（L）、東五十子古墳群など、多くの小円墳を主体とする群集墳が形成される。これらの古墳群は、6世紀後葉以降川原石の片岩を使用した模様積みの両袖型胴張石室を採用する地域の特徴が見られ、角閃石安山岩の切り石積みの胴張石室を採用する当地域北側の深谷断層崖上に沿って形成される旭・小島古墳群、塚合古墳群、御堂坂古墳群との違いが注目される。

飛鳥時代（7世紀）後半になると、これまでの低地内の集落の多くは廃絶し、女堀川沖積低地を取り囲むように、西側の本庄台地縁辺部と東側の残丘上及びその斜面下の狭い台地上に集落が移動するようになる。その要因については、中央集権国家の形成を背景とした郡（評）の主導による低地内への条里形地割り（児玉条里遺跡（I））の施工や、神流川から引水する「古九郷用水」やそれから分水して本庄台地上を縦断する「真下大溝」などの新たな灌排水路の掘削に見られる大規模な再開発と連動した計画的な地域的再編成が推測されている。この金佐奈遺跡（2）、辻ノ内遺跡（5）、新宮遺跡、古井戸遺跡、将監塚遺跡、今井原屋敷遺跡（22）、今井遺跡群（23）、北廓遺跡（29）、地神・塔頭遺跡（30）と女堀川中流域の本庄台地縁辺部に帯状に連続する集落群は、概ね平安時代前期の9世紀前半まで継続的に営まれるが、9世紀後半になると急速に衰退する。これに対して、本遺跡、大久保山遺跡（51）、山根遺跡（49）、雷電下遺跡（57）、阿知越遺跡（77）などの残丘列側の集落は、中期の10世紀以降まで継続して営まれ、本庄台地縁辺部に再編成されたいわゆる「計画村落」との性格の違いが窺われる。

中世の遺跡も当地域では比較的多く確認されているが、その性格を明らかにできたものは少ない。本遺跡周辺の女堀川流域は、平安時代末～鎌倉時代初期に活躍した武蔵七党の児玉党の本拠地であり、児玉党諸氏が名字の地とした地名が多く残っている。本遺跡周辺は、大字名の下浅見や入浅見の地名

から児玉党阿佐美氏との関係が深い地域と考えられ、北東側の大久保山残丘の大久保山遺跡、大久保山寺院跡（a）、浅見山 I 遺跡、南西側の生野山残丘の老丁田遺跡（74）や城の内遺跡では、中世前期の13世紀～14世紀の館跡（屋敷跡）や寺院跡が調査されている。中世後期の15世紀中頃には、戦国時代の先駆けとなった享徳の乱で、関東を東西に二分して古河公方足利成氏と敵対した関東管領上杉氏側の一大防衛線の拠点となった五十子陣が、本遺跡の北東側約6kmの女堀川と小山川の合流地点に築かれている。それと同時期の遺跡も当地域では多く検出されているが、残念ながらその関係性について十分な検討はされていない。



1. 鷺山南遺跡 2. 金佐奈遺跡 3. 上真下東遺跡 4. 真下境東遺跡 5. 辻ノ内遺跡 6. 新宮遺跡 7. 塚島遺跡 8. 中下田遺跡
9. 神田遺跡 10. 平塚遺跡 11. 南共和遺跡 12. 古井戸南遺跡 13. 古井戸遺跡 14. 内手遺跡 15. 将監塚遺跡 16. 将監塚B遺跡
17. 将監塚東遺跡 18. 藤塚遺跡 19. 堀向遺跡 20. 左口遺跡 21. 柿島遺跡 22. 今井原屋敷遺跡 23. 今井遺跡群
24. 熊野太神南遺跡 25. 立野南遺跡 26. 八幡太神南遺跡 27. 往来北遺跡 28. 久城前遺跡 29. 北廓遺跡 30. 地神・塔頭遺跡
31. 諏訪遺跡 32. 社具路遺跡 33. 南通り線内遺跡 34. 雌濠遺跡 35. 笠ヶ谷戸遺跡 36. 東本庄遺跡 37. 本田館跡
38. 北堀新田遺跡 39. 北堀新田前遺跡 40. 久下東遺跡 41. 久下前遺跡 42. 西富田前田遺跡 43. 九反田遺跡
44. 東富田観音塚遺跡 45. 七色塚遺跡 46. 下田遺跡 47. 後張遺跡 48. 四方田遺跡 49. 山根遺跡 50. 浅見山 I 遺跡
51. 大久保山遺跡 52. 根田遺跡 53. 梅沢遺跡 54. 川越田遺跡 55. 今井川越田遺跡 56. 飯玉東遺跡 57. 雷電下遺跡
58. 東牧西分遺跡 59. 浅見境北遺跡 60. 塚本山遺跡 61. 東田遺跡 62. 共和小学校校庭遺跡 63. 日延遺跡 64. 新屋敷遺跡
65. 城の内遺跡 66. 蛭川坊田遺跡 67. 石橋遺跡 68. 辻堂・南街道遺跡 69. 樋越遺跡 70. 高縄田遺跡 71. 宮田遺跡
72. 割山遺跡 73. 生野山遺跡 74. 老丁田遺跡 75. 向田遺跡 76. 宮ヶ谷戸遺跡 77. 阿知越遺跡 78. 山王山遺跡
79. 御林下遺跡 80. 女池遺跡 81. 児玉清水遺跡 82. 大久保遺跡 83. 樋ノ口遺跡 84. 村後遺跡 85. 古川端遺跡
86. 日の森遺跡 87. 向居遺跡 88. 新倉館跡 89. 鳥森遺跡

- A. 鷺山古墳 B. 生野山古墳群 C. 生野山銚子塚古墳 D. 生野山將軍塚古墳 E. 生野山16号墳 F. 熊谷後1号墳 G. 金鑽神社古墳
 H. 塚本山古墳群 I. 大久保山古墳群 J. 東富田古墳群 K. 公卿塚古墳 L. 西五十子古墳群 M. 道灌山古墳 N. 宍勝寺裏壇輪窯跡
 O. 八幡山壇輪窯跡 P. 水殿瓦窯跡 a. 東谷中世墳墓址・大久保山寺院跡 b. 雉岡城跡 (I). 児玉条里遺跡 (II). 十条条里遺跡

第3図 周辺の主要遺跡

第Ⅲ章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

鷲山南遺跡は、本庄市児玉町下浅見字鷲山に所在し、児玉丘陵から分断された生野山、鷲山、大久保山（浅見山、塚本山）の三つの残丘の一つである鷲山丘陵に立地している。

本遺跡は、昭和58～59（1983～1984）年に市道拡張工事に先立って、第1次調査（A地点）が行われている（第1図）。A地点の調査では、竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、道路跡2条のほか、溝跡・土坑が検出されている。竪穴住居跡は、古墳時代後期から古代にかけてのものである。掘立柱建物跡は、検出された範囲で南北5間×東西2間の規模を測り、柱穴の底面に礎板石を据えていた。掘立柱建物跡は、本調査で検出された第1号掘立柱建物跡の東側に位置している。また、掘立柱建物跡の南側には、東西に走る溝跡が確認されており、掘立柱建物跡と軸を一にすることから、同時期のものと考察されている。

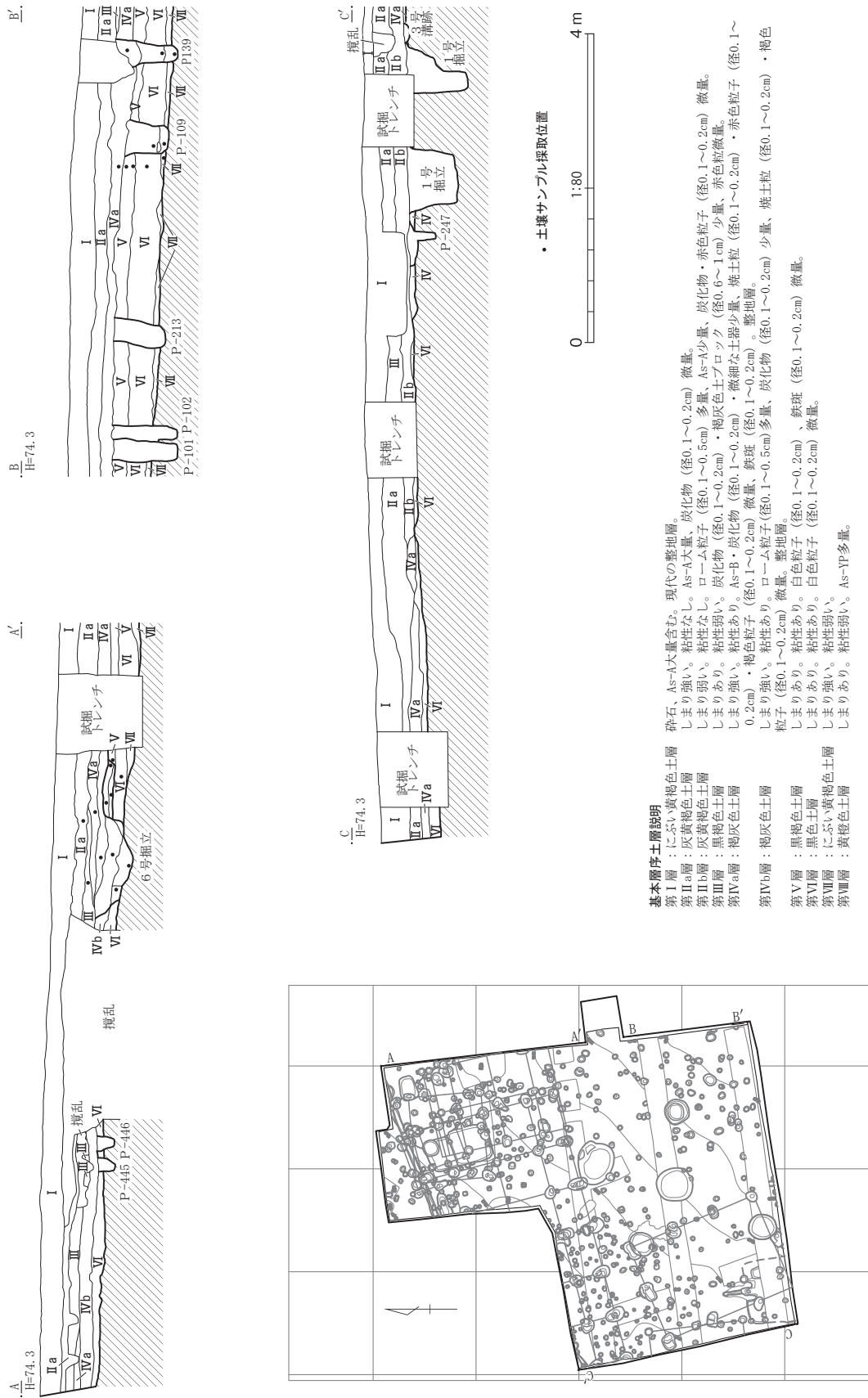
本調査（B地点）では、竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡6棟、溝跡3条、土坑9基、ピット414基が確認された。竪穴住居跡は、調査区北東隅と南西隅に位置している。掘立柱建物跡は、総柱式建物と側柱式建物が検出された。総柱式建物は調査区北側に集中しており、重複が激しい。ピットは調査区全体に配置されており、特に調査区北半の掘立柱建物跡周辺に集中する。

第2節 基本層序

基本土層は、調査区東壁と西壁で確認した。第Ⅰ層は、碎石とAs-Aを含む埋め戻し土である。第Ⅱ層は、As-Aを大量に含む灰黄褐色土が堆積する旧耕作土層である。第Ⅱ層はa・bに分層される。第Ⅱa層は、調査区全体に堆積しているが、第Ⅱb層は、調査区西壁の北端から中央部までの間でのみ確認される層で、第Ⅱa層に比べ、As-Aの混入がやや多い。調査区西側で検出された第1号掘立柱建物跡P22・23や第3号溝跡は、この層に被覆されている。第Ⅲ層は褐色土ブロックや微細な赤色粒子を含む黒褐色土層で、しまりがある。第9号土坑はこの層を掘り込んでいる。第Ⅳ層は褐灰色土で、a・bに分層される。第Ⅳa層はAs-B、炭化物、焼土粒子、褐色粒子とともに、微細な土器片を含む層である。第1号掘立柱建物跡は、この層の上面から掘り込んで構築されており、第2号住居跡や第2号掘立柱建物跡、第1・2号溝跡などについては、この層によって被覆されている。このことから、第Ⅳa層は、第1号掘立柱建物跡を構築するための整地層と想定される。第Ⅳb層は第Ⅳa層に似るが、ローム粒子やロームブロックを多く含む。北東壁から東壁北半でのみ確認されている層で、第6号掘立柱建物跡は、この層を掘り込んで構築され、第Ⅳa層によって埋め立てられている。このことから、第Ⅳb層は第6号掘立柱建物跡を構築する際の整地面である可能性が高い。よって、第Ⅳa・b層は、古代から中世にかけての整地層と想定される。第Ⅴ層は、白色粒子を含む黒褐色土層で、下位の第Ⅵ層より僅かに明るい。僅かに土師器の破片を含む。第2号住居跡はこの層を切っている。第Ⅵ層は白色粒子を含む黒褐色土である。第Ⅶ層はにぶい黄褐色土で、漸移層と考えられる。第Ⅷ層はAs-YPを多量に含む黄褐色土層で、関東ローム層である。遺構確認面は、この第Ⅷ層上面または第Ⅶ層上面とした。



第4図 B地点全体図



第5図 基本層序

第3節 検出された遺構と遺物

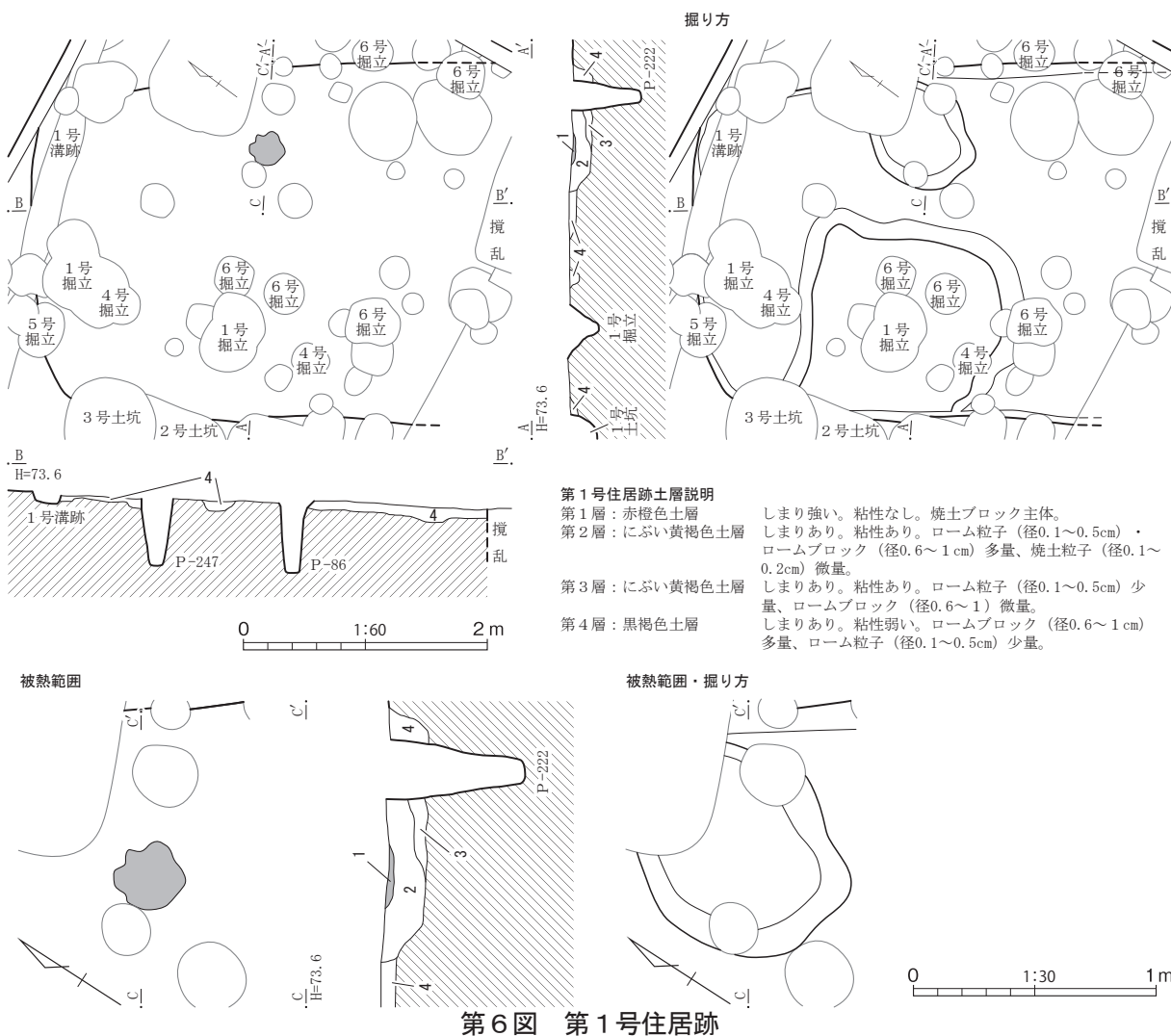
1. 竪穴住居跡

第1号住居跡（第6図、図版2）

調査区北東端に位置する。重複する第1・4・5・6号掘立柱建物跡、第1・2・3号土坑、第1号溝跡、P-9・31・36・56・59・62・64・71・81・86・91・196・208・221～229・233～235・247・248・254・255・445・446に切られている。住居跡の南東部は、攪乱と試掘トレンチにより切られているため、本住居跡の全容は不明である。

平面形は、残存部から推測すると、コーナー部が丸みをもつ隅丸長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が3.70 m以上、東西方向が2.79 mを測る。住居跡の主軸方位は、N-43°-Eを向いている。

確認面では床面のみを検出のため、壁の立ち上がりは不明であるが、調査区北壁面で一部観察でき、壁はほぼ垂直に立ち上がっている様子が窺えた。調査区北壁面で確認できた深さは、13cmである。壁溝は、検出されなかった。床面は、ローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土を平坦に埋め戻した貼床式であるが、締めりは認められなかった。住居掘り方は、中央部から西壁にかけて掘り残し、



第6図 第1号住居跡

周溝状に廻る形態である。ピットは、検出されていない。

カマドや炉跡は確認されていないが、住居中央部から北東壁寄りの床面に、被熱範囲が認められている。被熱範囲下に掘り方がみられることから、住居北東壁側にカマドが付設されていたものと推測される。

遺物は、出土していない。

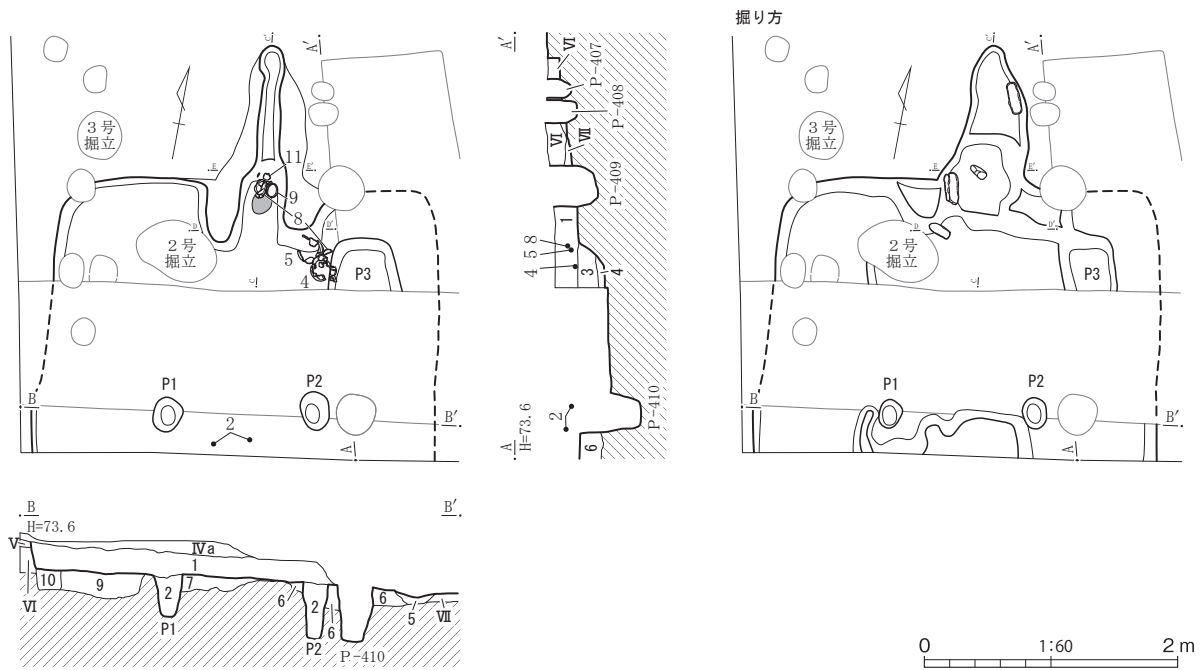
本住居跡の時期は、遺構の重複関係から、古代以前と考えられる。

第2号住居跡（第7～9図、第1表、図版2・3・11）

調査区南西端に位置する。重複する第2号掘立柱建物跡、P-409・410・427・428に切られている。

住居跡の中央部は試掘トレンチにより切れ、南側は調査区外にあるため、本住居跡の全容は不明であるが、残存する部分部分から推測すると、コーナーに丸みをもつ隅丸長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が2.18 m以上、東西方向が3.17 mを測る。住居跡の主軸方位は、N-17°-Wを向いている。

壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、確認面からの深さは、31cmである。壁溝は、検出されなかった。床面は、ローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、カマド周囲と中央部に締まりが認められたが、壁際の周辺はやや軟弱である。ピットは、住居南側と北東隅で、P1～3の3基が検出されている。P1とP2は、住居の中央部に位置していることから、住居の上屋を支える柱穴の可能性が考えられる。形態は、P1が28×24cmの楕円形を呈し、床面からの深さは33cmを測る。

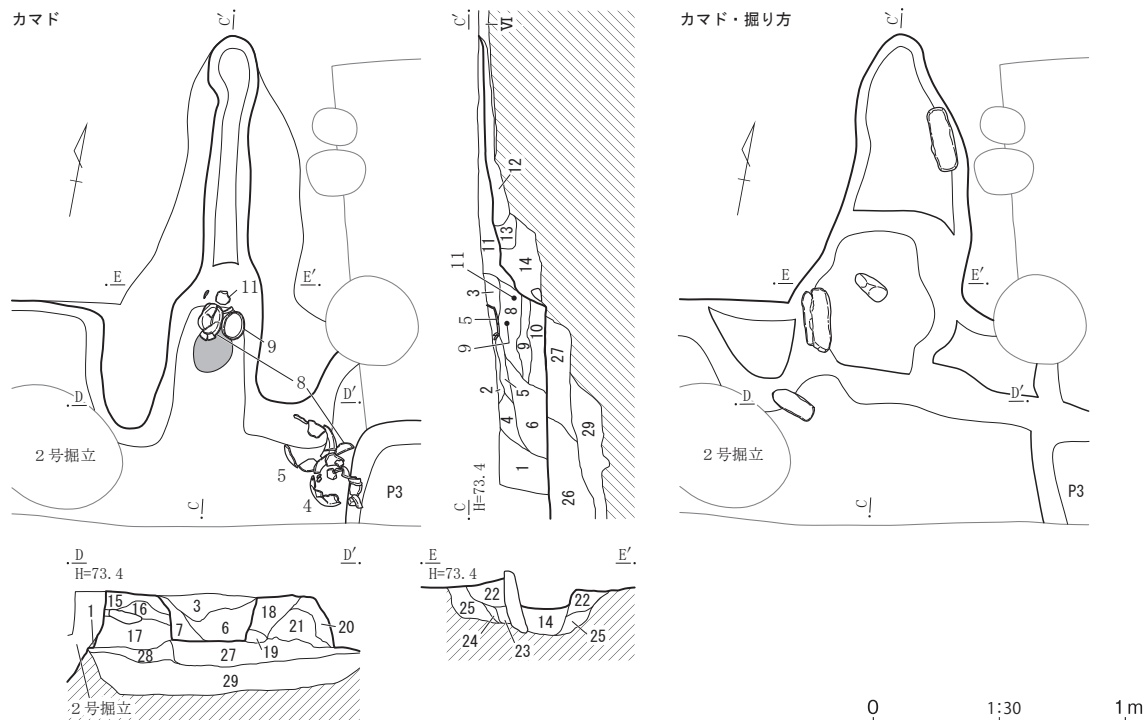


第2号住居跡土層説明

第1層：黒色土層	しまりあり。粘性弱い。	ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～2cm）微量。
第2層：黒色土層	しまりあり。粘性弱い。	ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。P1・2覆土。
第3層：黒色土層	しまり弱い。粘性弱い。	ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）微量。P3覆土。
第4層：黒褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。	ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量。P3覆土。
第5層：黒色土層	しまりあり。粘性弱い。	ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量含む。掘り方覆土。
第6層：黒色土層	しまり弱い。粘性弱い。	ロームブロック（径0.6～1cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。掘り方覆土。
第7層：黒色土層	しまりあり。粘性あり。	ロームブロック（径0.6～1cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。掘り方覆土。
第8層：黒色土層	しまりあり。粘性弱い。	ロームブロック（径0.6～5cm）大量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。掘り方覆土。
第9層：黒色土層	しまりあり。粘性あり。	ロームブロック（径0.6～1cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。掘り方覆土。
第10層：黒色土層	しまりあり。粘性あり。	ローム粒子（径0.1～0.2cm）微量。掘り方覆土。

第7図 第2号住居跡（1）

第三章 検出された遺構と遺物



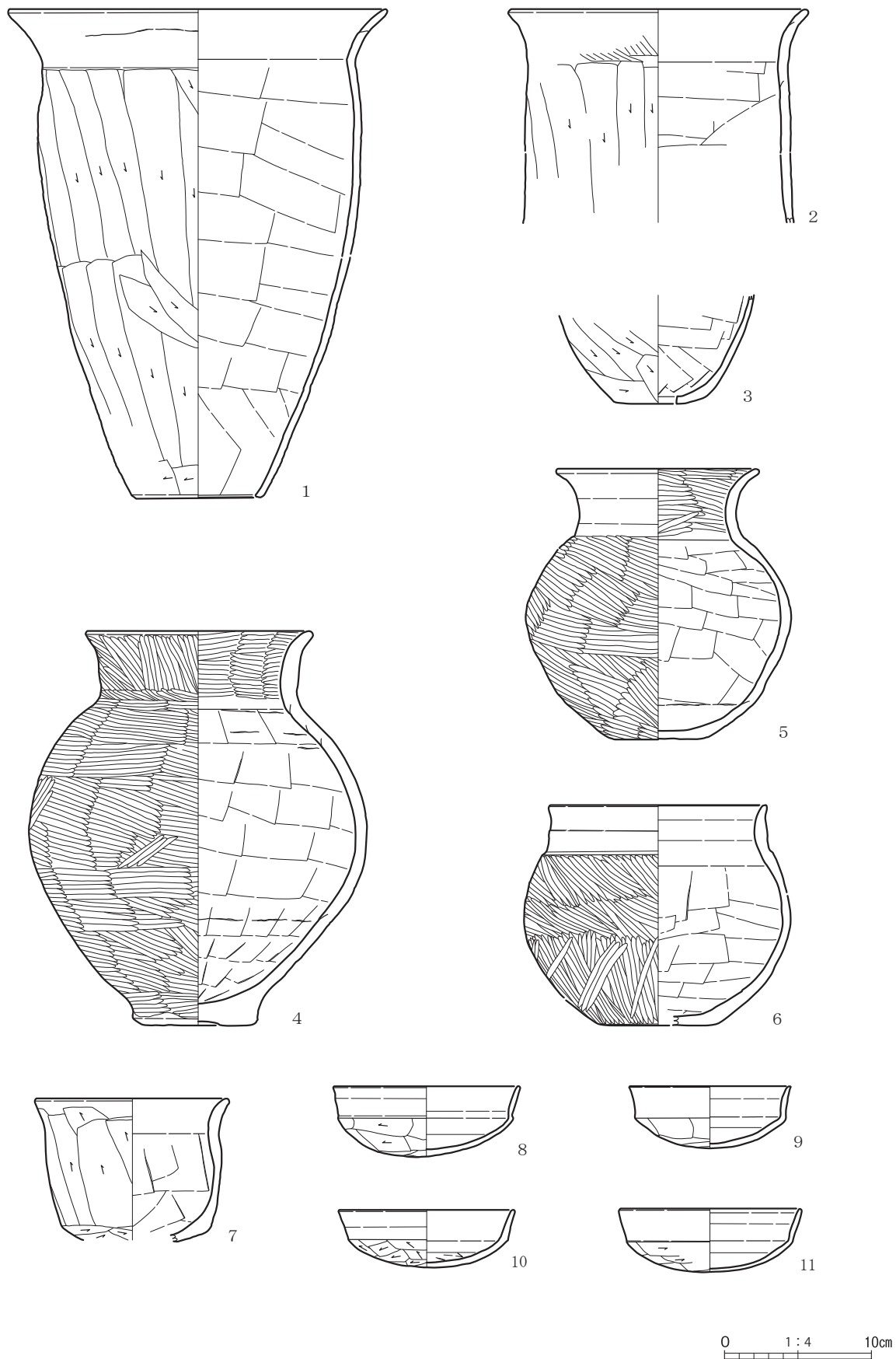
第2号住居跡カマド土層説明

第1層：黒褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。焼土ブロック（径0.6～1cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.2cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第2層：黒褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第3層：黒褐色土層	しまり弱い。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.2cm）・焼土ブロック（径0.6～1cm）微量。
第4層：黒褐色土層	しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第5層：褐灰色土層	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.2cm）・焼土ブロック（径0.6～1cm）微量。
第6層：黒褐色土層	しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.2cm）少量、ロームブロック（径0.6～1cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第7層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第8層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.2cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・焼土ブロック（径0.6～1cm）少量。
第9層：赤褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。焼土粒子（径0.1～0.2cm）・焼土ブロック（径0.6～2cm）多量。
第10層：灰黄褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
第11層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性弱い。焼土ブロック（径0.6～1cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.2cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）・白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
第12層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.2cm）微量。カマド構築土。
第13層：黄橙色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。カマド構築土。
第14層：黒色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。カマド構築土。
第15層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。焼土粒子（径0.1～0.5cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土ブロック（径0.6～1cm）微量。カマド構築土。
第16層：灰黄褐色土層	しまりあり。粘性あり。焼土粒子（径0.1～0.5cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土ブロック（径0.6～1cm）少量。砂混じり。カマド構築土。
第17層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。カマド構築土。
第18層：黒褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・白色粒子（径0.1～0.5cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・礫（1cm）微量。カマド構築土。
第19層：黄橙色土層	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量。カマド構築土。
第20層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.2cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。カマド構築土。
第21層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。カマド構築土。
第22層：灰黄褐色土層	しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・焼土ブロック（径0.6～1cm）少量。カマド構築土。
第23層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。カマド構築土。
第24層：にぶい黄褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。カマド構築土。
第25層：黒色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。カマド構築土。
第26層：黒褐色土層	しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～2cm）・白色粒子（径0.1～0.2cm）微量。掘り方覆土。
第27層：にぶい黄褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。掘り方覆土。
第28層：にぶい黄褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。掘り方覆土。
第29層：にぶい黄褐色土層	しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。掘り方覆土。

第8図 第2号住居跡（2）

P 2は31×23cmの楕円形を呈し、床面からの深さは47cmを測る。P 3は住居北東隅のカマド東側に位置する。いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、57×43cm以上の隅丸長方形を呈し、床面からの深さは、18cmを測る。

カマドは、住居北壁の中央やや東に寄った位置に、住居の壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、残存長166cm、最大幅220cmを測る。焚口部の幅は、32cmを測る。燃烧部は住居内にある。燃烧部底面は、住居床面とほぼ同じ高さで構築され、奥壁から煙道部に向かって、緩やかに傾斜して



第9図 第2号住居跡出土遺物

第三章 検出された遺構と遺物

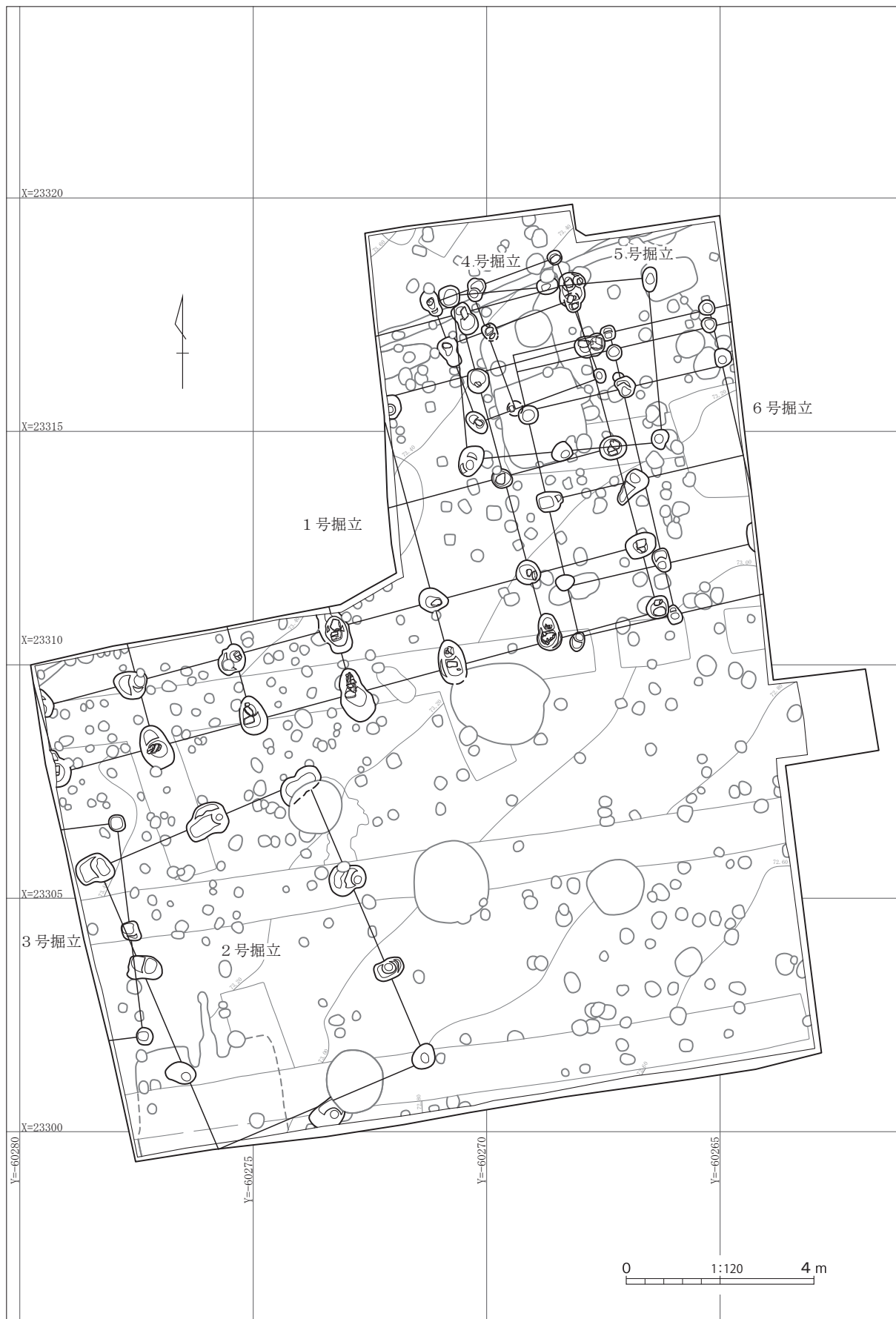
第1表 第2号住居跡出土遺物観察表

1	大形甌	A. 口縁部径 25.5、器高 33.2、底部径 (8.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ヘラナデ。D. 外-にぶい橙色、内-にぶい赤褐色。E. 白色粒、長石、石英、黒色粒。F. 口縁部～胴部上半ほぼ完形、胴部下半 1/2。G. 外面に黒斑あり。H. 試掘トレンチ。
2	長胴甌	A. 口縁部径 (20.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ヘラナデ。D. 内外-橙色。E. 石英、チャート、黒色粒、白色粒。F. 口縁部 1/2。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
3	大形甌	A. 底部径 6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ヘラナデ。底部外面ケズリ。D. 内外-にぶい橙色。E. 白色粒、石英、黒色粒。F. 底部破片。G. 外面に黒斑あり。H. 試掘トレンチ。
4	壺	A. 口縁部径 15.2、器高 26.8、底部径 7.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ・ケズリの後ミガキ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ヘラナデ。D. 内外-橙色。E. 石英、角閃石、黒色粒、白色粒。F. ほぼ完形。G. 外面に黒斑あり。H. 試掘トレンチ。
5	壺	A. 口縁部径 (13.5)、器高 18.5、底部径 5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面ミガキ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ヘラナデ。D. 内外-にぶい橙色。E. 石英、白色粒、黒色粒。F. 3/4。G. 外面に黒斑あり。H. カマド前。
6	小形甌	A. 口縁部径 14.7、器高 15.0、底部径 8.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ヘラナデ。底部外面ナデ。D. 内外-にぶい橙色。E. 石英、白色粒、黒色粒。F. ほぼ完形。G. 外面に黒斑あり。H. カマド前。
7	小形甌	A. 口縁部径 12.9、底部径 10.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ヘラナデ。底部外面ケズリ。D. 内外-にぶい橙色。E. 石英、片岩、白色粒、黒色粒。F. 底部欠損。G. 外面に黒斑あり。H. 試掘トレンチ。
8	坏	A. 口縁部径 12.5、器高 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 外-浅黄橙色、内-黄橙色。E. 石英、黒色粒、白色粒。F. ほぼ完形。G. 外面に黒斑あり。H. カマド内。
9	坏	A. 口縁部径 12.5、器高 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 外-浅黄橙色、内-黄橙色。E. 石英、黒色粒、白色粒。F. ほぼ完形。G. 外面摩耗。H. カマド内。
10	坏	A. 口縁部径 11.8、器高 3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 内外-にぶい橙色。E. 石英、白色粒、黒色粒。F. ほぼ完形。G. 外面に黒斑あり。H. 試掘トレンチ。
11	坏	A. 口縁部径 (12.2)、器高 4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 外-にぶい橙色、内-橙色。E. 石英、黒色粒、白色粒。F. 1/2。G. 外面に黒斑あり。H. カマド内。

立ち上がっている。焚口部から燃焼部奥壁までは、54cmを測る。袖部は、ローム粒子やロームブロック、焼土粒を含む黒褐色土やにぶい黄褐色土を直接貼り付けて構築している。また、袖部の先端や基部には、大形の扁平礫を用いて補強している。袖部の内面は、あまり焼けていない。天井部は残存していないが、被熱を受け赤色化した9層とその上部にある焼土粒を多く含む8層とともに、天井部を構成していたものと推定される。煙道部は、北側へ直線的に延び、先端部は丸く広がり、ほぼ垂直に立ち上がる。煙道部の壁は、袖部と同様に、ローム粒子やロームブロック、焼土粒を含む黒褐色土やにぶい黄褐色土と大形の扁平礫で構築され、緩やかに傾斜して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。煙道部の幅は、15～17cmを測る。燃焼部と煙道部の接続部には、大形の棒状礫を据えている。

遺物は、カマド内やその周辺の床面付近及び住居中央部の覆土中から出土している。第9図1・3・4・7・10は、試掘調査時に本住居跡を切るトレンチ内からまとまって出土したものである。正確な出土位置は定かではないが、当時の出土状況から、本住居のカマド前付近で検出されていること、本住居調査時に出土した破片と接合した個体があることから、すべて本住居出土のものとして扱った。2の土師器長胴甌の口縁部片は、住居中央部の覆土中から出土している。5・6の土師器壺は、カマド袖先端部床面付近で並んで検出された。8・9・11の土師器坏は、カマド内から出土している。覆土最上層でまとまって検出されており、カマド廃絶時に据えられたものと考えられる。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、飛鳥時代(7世紀前半)と考えられる。



第10図 掘立柱建物跡配置図

2. 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第11～16図、第2・3表、図版3～7・12）

調査区北側に位置する。重複する第4号掘立柱建物跡、第8号土坑・P-275・399に切られ、第1号住居跡、第6号掘立柱建物跡、第1号溝跡を切っている。P-9・40・64・65・67・68・201・207・281・289・307・317・384・401・423との新旧関係は、不明である。

建物跡の形態は、建物の西側が調査区外に延びる可能性があるため明確ではないが、桁行方向が6間以上、梁行方向が2間の長方形を呈し、内部に束柱をもつ総柱式建物で、南側と北側に庇を伴っている。柱穴内には礎板石が据えられており、建て替えが行われたためか、側柱であるP1～5・10・12・17・19・21・22には礎板石が複数検出されている。

規模は、身舎部分の桁行方向が13.30m、梁行方向が4.45mで、面積約59.19m²、庇の幅は1.17～1.51mを測り、庇を含めた梁行方向が7.25mで、面積約96.43mを測る。建物の長軸方向は、N-74°-Eを向いている。

柱通りは良く、桁行・梁行方向とも柱穴はほぼ一直線に並んでいるが、P2・7・13ではやや不揃いである。柱間寸法の計測値は、第12図に示した。身舎の柱間は、桁行方向が1間2.02～2.45mで、東端がやや広い。梁行方向は1間2.13～2.29mの間隔で、やや不揃いである。

柱穴の規模は、第2表に示した。平面形は、長さ49～118cmの規模の楕円形や不整円形を呈するものが多く、確認面からの深さは56～82cmを測る。側柱は、建て替えなどによる影響のためか、建物中心部を構成する柱穴に比べて、規模がやや大きい。柱穴掘り方の覆土中には、明確な柱痕がみられ、その周囲や底面に据えられた礎板石の周りをローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土、黒色土で充填し、固く締めている。礎板石は合計27点検出された。石材は、結晶片岩・緑泥石片岩・チャートで、規格性はない。加工痕跡は認められていないが、緑泥石片岩については、柱穴の大きさに合わせ、荒割りされていた。

遺物は、P1・3・4・6・7・16～22からかわらけや須恵器の破片が僅かながら出土している。そのうち3点を図示した（第16図）。1はP7の覆土上層から出土したかわらけの破片、2はP21の覆土中から出土したかわらけの破片、3はP1の覆土上層から出土した常滑窯系大甕の破片である。

本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、中世前半（13世紀前半）と考えられる。

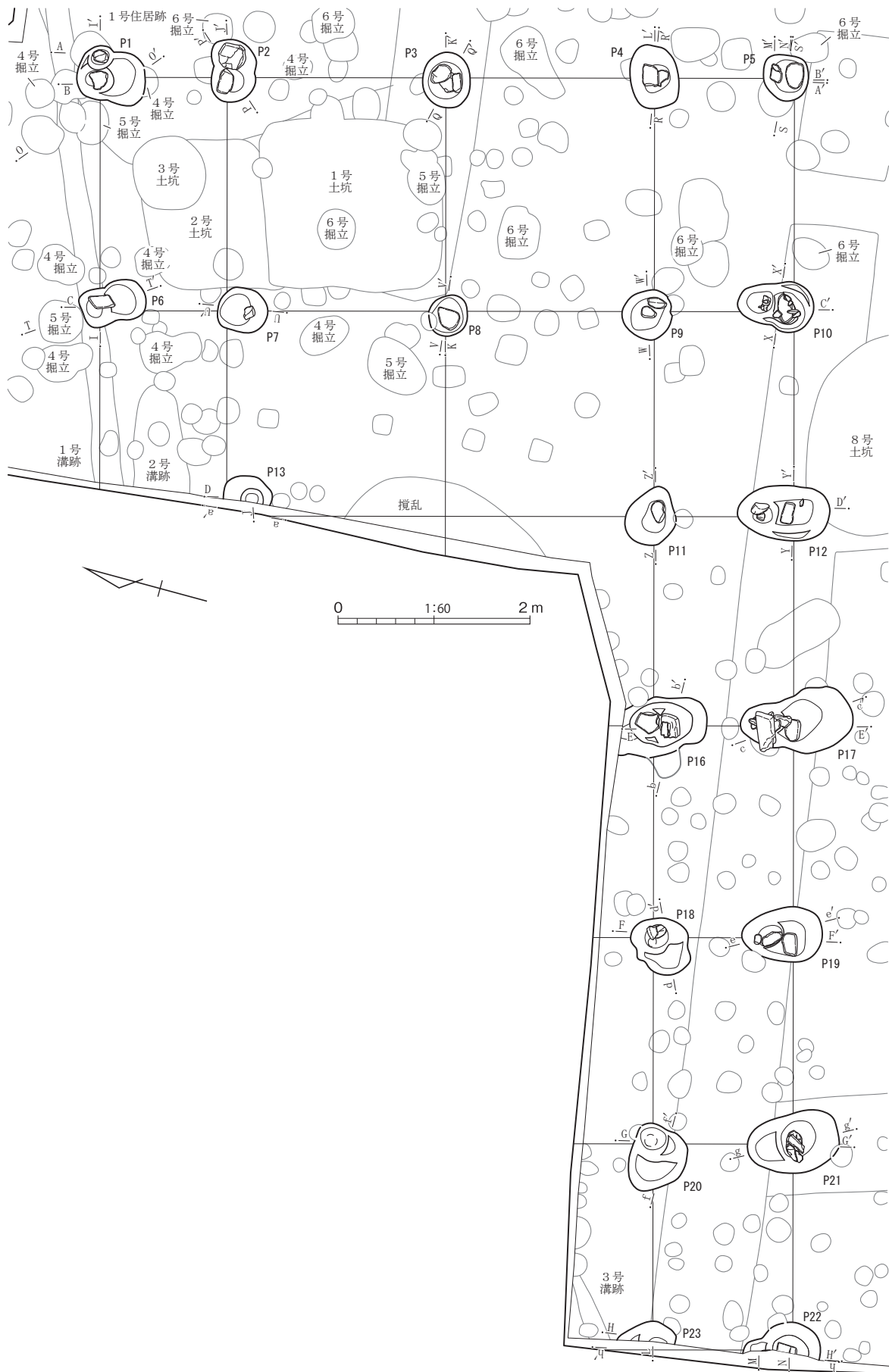
第2号掘立柱建物跡（第17～19図、第4・5表、図版7・12）

調査区南西側に位置する。重複する第9・10号土坑、P-387に切られ、第2号住居跡を切っている。P-359・382・402・436・431との新旧関係は、不明である。

建物跡の形態は、桁行方向3間、梁行方向2間の長方形を呈する側柱式建物である。規模は、桁行方向が6.53m、梁行方向が4.83m、面積約31.53m²を測る。建物の長軸方向は、N-23°-Wに向いている。

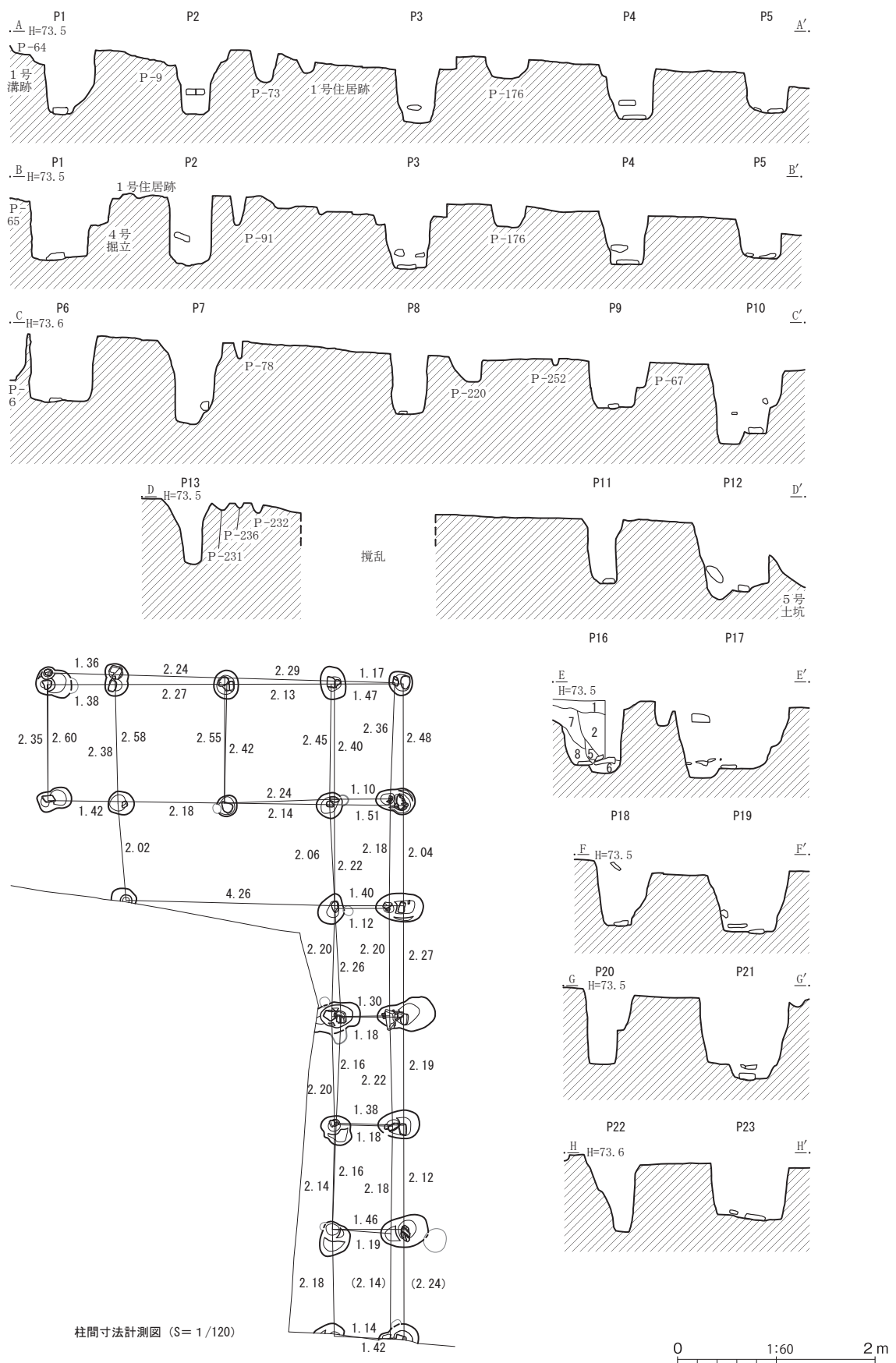
柱通りは良く、桁行方向の柱穴列はともに直線上に配列されている。梁行方向の柱穴列は、北側は直線的に配列されているが、南側はP5が南へ張り出しており、北側と平行しない。柱間寸法の計測値は、第17図に示した。柱間は、桁行方向が1.99～2.52m、梁行方向が2.03～2.71mの間隔を測る。

柱穴の規模は、第2表に示した。平面形は、長さ50～97cmの楕円形や不整円形を呈し、確認面からの深さは、28～73cmを測る。P8掘り方覆土中には柱痕がみられ、柱痕周囲にローム粒子やロ

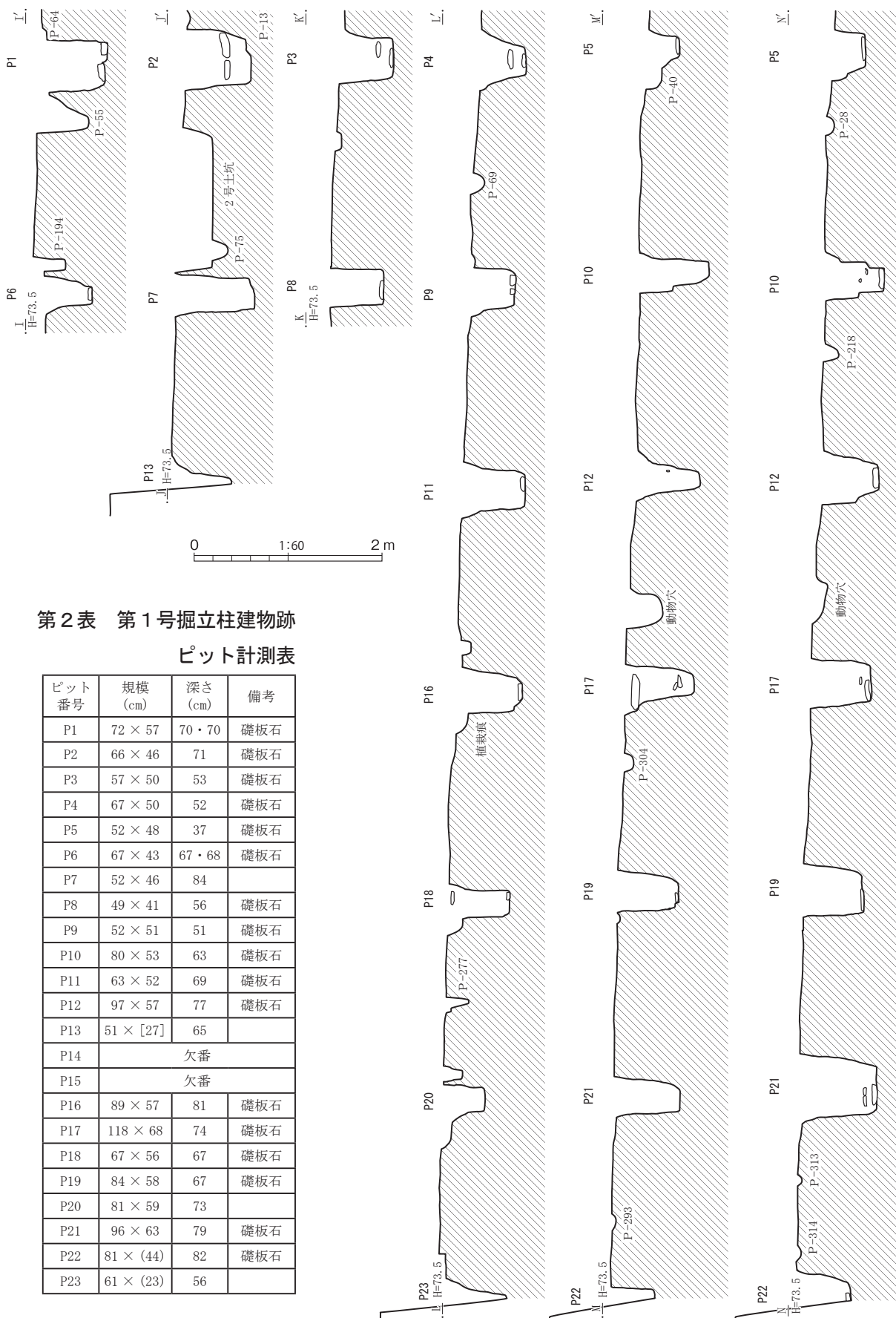


第11図 第1号掘立柱建物跡(1)

第三章 検出された遺構と遺物



第12図 第1号掘立柱建物跡 (2)

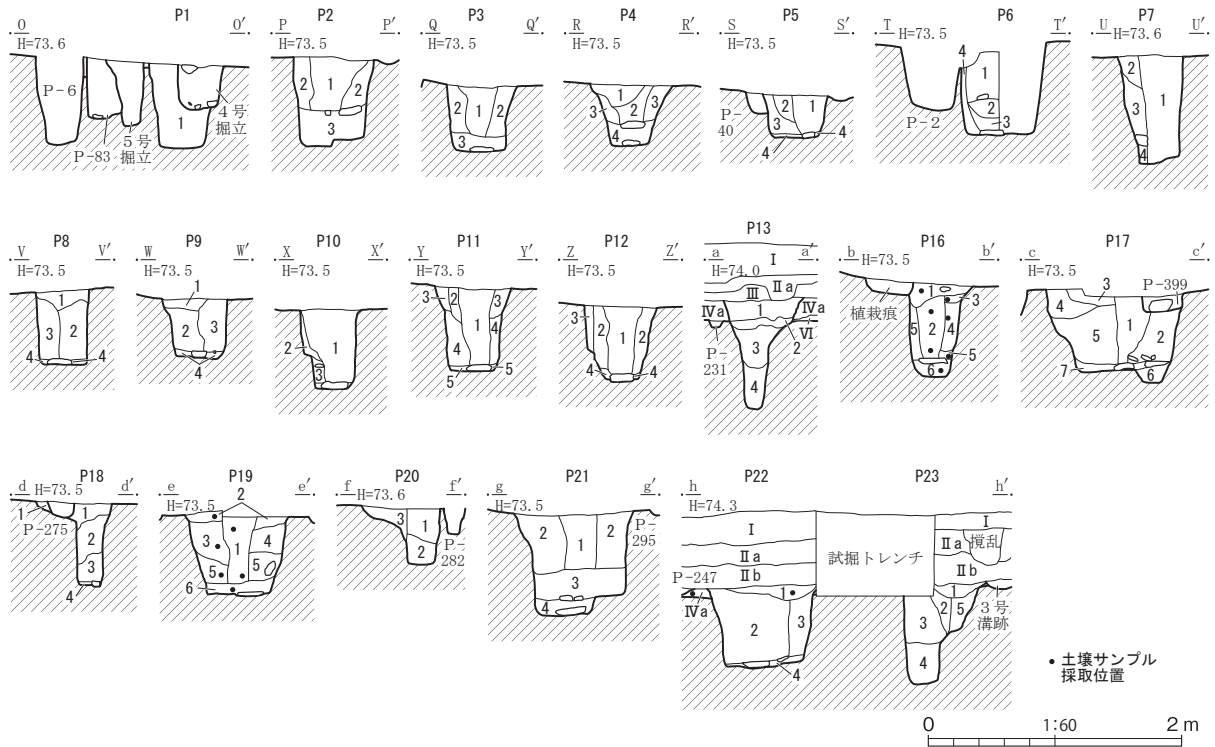


第2表 第1号掘立柱建物跡
ピット計測表

ピット番号	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	72 × 57	70・70	礎板石
P2	66 × 46	71	礎板石
P3	57 × 50	53	礎板石
P4	67 × 50	52	礎板石
P5	52 × 48	37	礎板石
P6	67 × 43	67・68	礎板石
P7	52 × 46	84	
P8	49 × 41	56	礎板石
P9	52 × 51	51	礎板石
P10	80 × 53	63	礎板石
P11	63 × 52	69	礎板石
P12	97 × 57	77	礎板石
P13	51 × [27]	65	
P14	欠番		
P15	欠番		
P16	89 × 57	81	礎板石
P17	118 × 68	74	礎板石
P18	67 × 56	67	礎板石
P19	84 × 58	67	礎板石
P20	81 × 59	73	
P21	96 × 63	79	礎板石
P22	81 × (44)	82	礎板石
P23	61 × (23)	56	

第13図 第1号掘立柱建物跡 (3)

第三章 検出された遺構と遺物



第1号掘立柱建物跡ビット土層説明 P1

第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）微量・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。

第1号掘立柱建物跡ビット土層説明 P2

第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～1cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～3cm）少量。
 第3層：黒色土層 しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

第1号掘立柱建物跡ビット土層説明 P3

第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～1cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～3cm）少量。
 第3層：黒色土層 しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

第1号掘立柱建物跡ビット土層説明 P4

第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。
 第4層：黒色土層 しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

第1号掘立柱建物跡ビット土層説明 P5

第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。
 第3層：黒褐色土層 しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）微量。
 第4層：黒色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～1cm）微量。

第1号掘立柱建物跡ビット土層説明 P6

第1層：灰黄褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
 第2層：暗褐色土層 しまり強い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量。
 第3層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～1cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第4層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）微量。

第1号掘立柱建物跡ビット土層説明 P7

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黄褐色土層 しまり強い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。
 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～1cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。

第1号掘立柱建物跡ビット土層説明 P8

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。
 第2層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～2cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）少量。
 第4層：黒色土層 しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

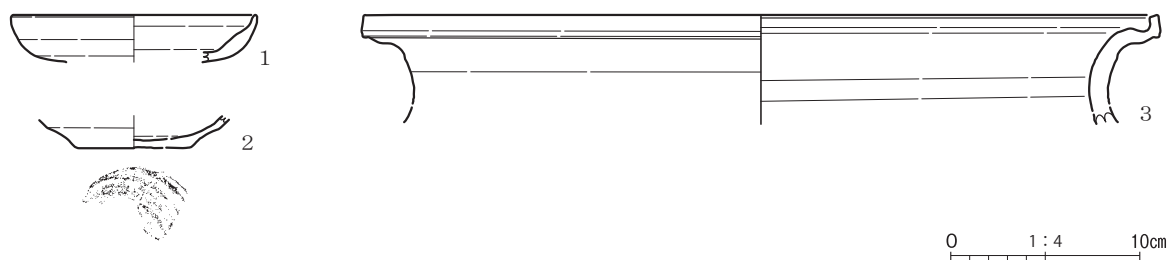
第1号掘立柱建物跡ビット土層説明 P9

第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～1cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～2cm）多量。
 第3層：暗褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。
 第4層：黒色土層 しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

第1号掘立柱建物跡ビット土層説明 P10

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～1cm）・焼土粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまり強い。粘性あり。ロームブロック（径0.6～2cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
 第3層：黒褐色土層 しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～3cm）多量。

第14図 第1号掘立柱建物跡（4）



第 16 図 第 1 号掘立柱建物跡出土遺物

第 3 表 第 1 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径 (12.8)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 内外一にぶい橙色。E. 雲母、石英、黒色粒。F. 口縁部破片。H. P7 覆土上層。
2	かわらけ	A. 底部径 (6.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部回転糸切り離し。D. 内外一橙色。E. 雲母、石英、黒色粒。F. 底部破片。H. P21 覆土中。
3	常滑窯系大甕	A. 口縁部径 (40.1)。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 内外一褐色。E. 長石、石英。F. 口縁部破片。G. 内外面に自然釉。H. P1 覆土上層。

ームブロックを含む黒褐色土で充填し、固く締めている。

遺物は、P 2～4・6～9の覆土中から飛鳥時代から奈良時代の土師器甕及び坏の破片が、少量出土している。そのうちの3点を図示した(第19図)。1～3は、土師器坏の破片で、1はP 3の覆土下層から、2・3はP 8覆土下層からそれぞれ検出された。

本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、飛鳥時代から奈良時代(7世紀後半～8世紀前半)と考えられる。

第3号掘立柱建物跡(第20図、第6表、図版8)

調査区南西側に位置する。第2号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

建物跡の形態は、調査区内では建物の一部しか検出されていないため、全容は不明である。調査区内では、南北軸方向が2間である。規模は、4.60 mを測る。建物跡の南北軸方向は、N - 7° - Wを向いている。柱通りは良く、直線上に配列されている。柱間寸法の計測値は、第20図に示した。柱間は、2.28 m、2.32 mを測る。

柱穴の規模は、第6表に示した。平面形は、長さ36～43cmの円形や不整形円形を呈し、確認面からの深さは、34～58cmを測る。P 3の掘り方覆土中には柱痕がみられ、柱痕周囲にローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土で充填し、固く締めている。

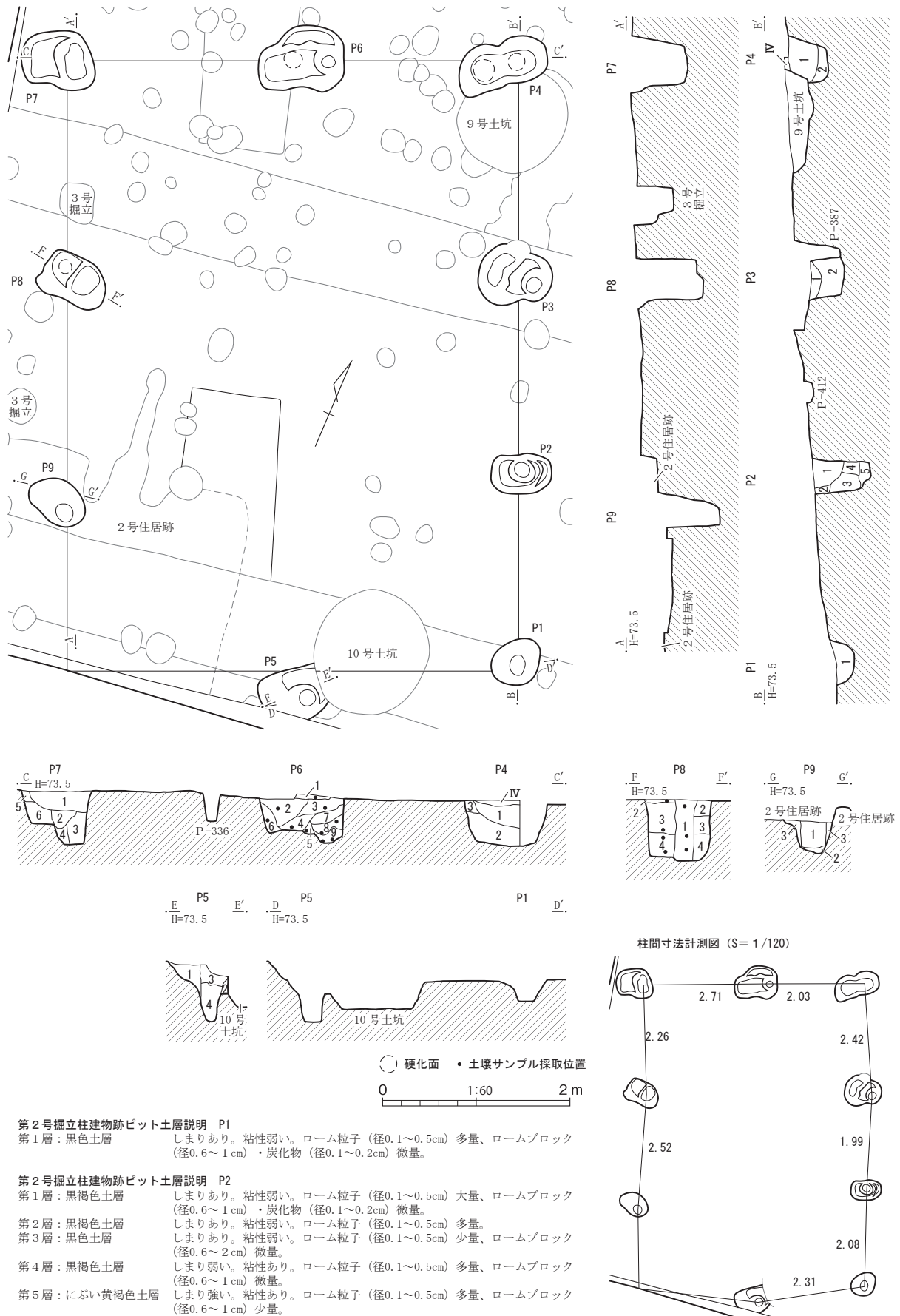
遺物は、P 2・3から土器の破片や小礫が、僅かながら出土している。

本建物跡の時期は、出土遺物に乏しく、不明である。

第4号掘立柱建物跡(第21図、第7表、図版8・9)

調査区北側に位置する。重複する第1号住居跡、第1号掘立柱建物跡、第1・2号土坑、第1号溝跡を切っている。P - 8・65・93・205との重複関係は、不明である。

建物跡の形態は、東西軸方向が1間、南北軸方向が1間で非常に小さい規模の正方形を呈し、北側と西側に庇を伴う建物である。柱穴の底面には、P 4とP 9を除き、礎板石が据えられている。規模は、身舎の東西軸方向が1.93 m、南北軸方向が1.78 m、面積約3.43 m²の長方形を呈する。庇を含



第17図 第2号掘立柱建物跡（1）

第III章 検出された遺構と遺物

第2号掘立柱建物跡ピット土層説明 P3

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

第2号掘立柱建物跡ピット土層説明 P4

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：にぶい黄褐色土層 しまり強い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。
 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。

第2号掘立柱建物跡ピット土層説明 P5

第1層：黒褐色土層 しまり強い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～1cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
 第3層：黒色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。

第2号掘立柱建物跡ピット土層説明 P6

第1層：褐灰色土層 しまり強い。粘性あり。炭化物（径0.1～0.2cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・赤色粒子（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。
 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
 第4層：黄褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）大量。
 第5層：にぶい黄褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。
 第6層：黒色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）微量。
 第7層：にぶい黄褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量。
 第8層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）微量。
 第9層：にぶい黄褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）多量。

第2号掘立柱建物跡ピット土層説明 P7

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。
 第3層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。
 第4層：黄褐色土層 しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～2cm）大量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。
 第5層：灰黄褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.2cm）大量。
 第6層：黄褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量。

第2号掘立柱建物跡ピット土層説明 P8

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。
 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第4層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。

第2号掘立柱建物跡ピット土層説明 P9

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。
 第2層：にぶい黄褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。
 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

第18図 第2号掘立柱建物跡（2）

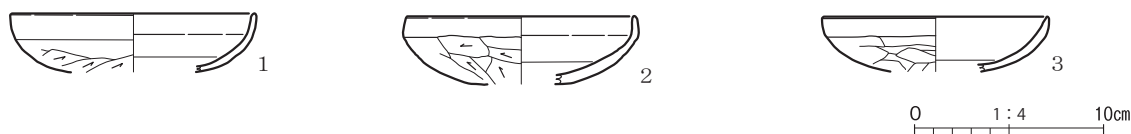
めた東西軸方向は2.78m、南北軸方向は2.74m、面積約7.62㎡を測る。建物跡の南北軸方向は、N-18°-Wを向いている。

柱通りは良く、東西・南北方向ともに直線上に配列されている。柱間寸法の計測値は、第21図に示した。身舎の柱間は、東西軸方向が1.91～1.97m、南北軸方向が1.73～1.75mを測る。

柱穴の規模は、第7表に示した。長さ30～64cmの楕円形あるいは不整円形を呈し、確認面からの深さは、20～49cmを測る。礎板石の石材は、結晶片岩、砂岩である。規格性はなく、加工痕跡も認められなかった。P2・9の覆土中には、柱痕が見られ、その周

第4表 第2号掘立柱建物跡ピット計測表

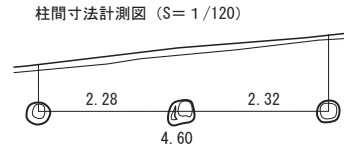
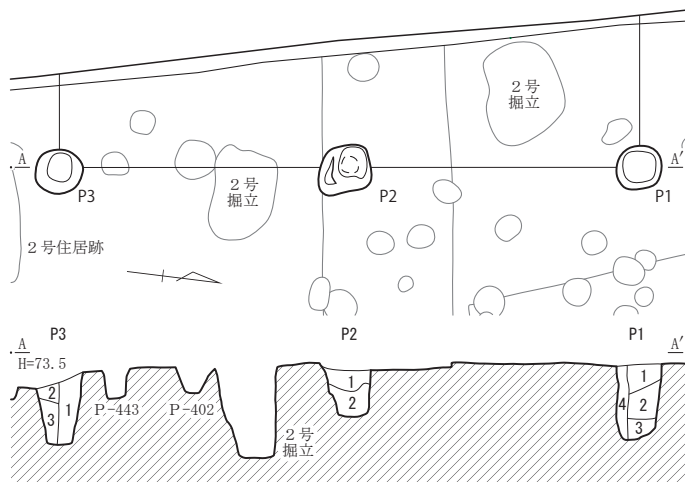
ピット番号	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	50 × 50	28	
P2	64 × 43	67	
P3	78 × 64	53	
P4	97 × 49	45	
P5	(73) × 57	60	
P6	92 × 71	50	
P7	75 × 63	61	
P8	73 × 51	73	
P9	64 × 46	70	



第19図 第2号掘立柱建物跡出土遺物

第5表 第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

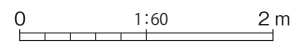
1	坏	A. 口縁部径 (12.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 内外一橙色。E. 石英、角閃石、雲母、黒色粒。F. 口縁部破片。H. P3 覆土下層。
2	坏	A. 口縁部径 (12.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 内外一橙色。E. 石英、角閃石、チャート、黒色粒。F. 口縁部破片。H. P8 覆土下層。
3	坏	A. 口縁部径 (11.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 内外一橙色。E. 石英、黒色粒、白色粒。F. 口縁部破片。H. P8 覆土下層。



第6表 第3号掘立柱建物跡
ピット計測表

ピット番号	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	36 × 34	58	
P2	43 × 36	34	
P3	36 × 35	51	

○ 硬化面



3号掘立柱建物跡ピット土層説明 P1

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：にぶい黄褐色土層 しまりあり。粘性あり。ロームブロック径0.6～2cm）大量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。
 第3層：黒色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）少量。
 第4層：黒褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～1cm）微量。

3号掘立柱建物跡ピット土層説明 P2

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：にぶい黄褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量。

3号掘立柱建物跡ピット土層説明 P3

第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第3層：黒色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量。

第20図 第3号掘立柱建物跡

囲をローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土で充填し、固く締めている。

遺物は、P2・4・5の覆土中から、かわらけの破片が僅かながら出土している。

本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、中世以降と考えられる。

第5号掘立柱建物跡（第22図、第8表、図版8・9）

調査区北側に位置する。重複する第1号住居跡、第1号溝跡を切っている。P-42・49・53・56・217との新旧関係は、不明である。

建物跡の形態は、東西側に延びる可能性があるため明確ではないが、調査区内では東西軸方向2間以上、南北軸方向2間の長方形を呈する側柱建物であると考えられる。規模は、東西軸方向が4.17m以上、南北軸方向が3.52mを測る。建物跡の南北軸方向は、N-5°-Wを向いている。

柱通りは良く、東西・南北方向ともに直線上に配列されている。柱間寸法の計測値は、第22図に示した。柱間は、東西軸方向が2.03～2.18m、南北軸方向が3.46～3.72mを測る。

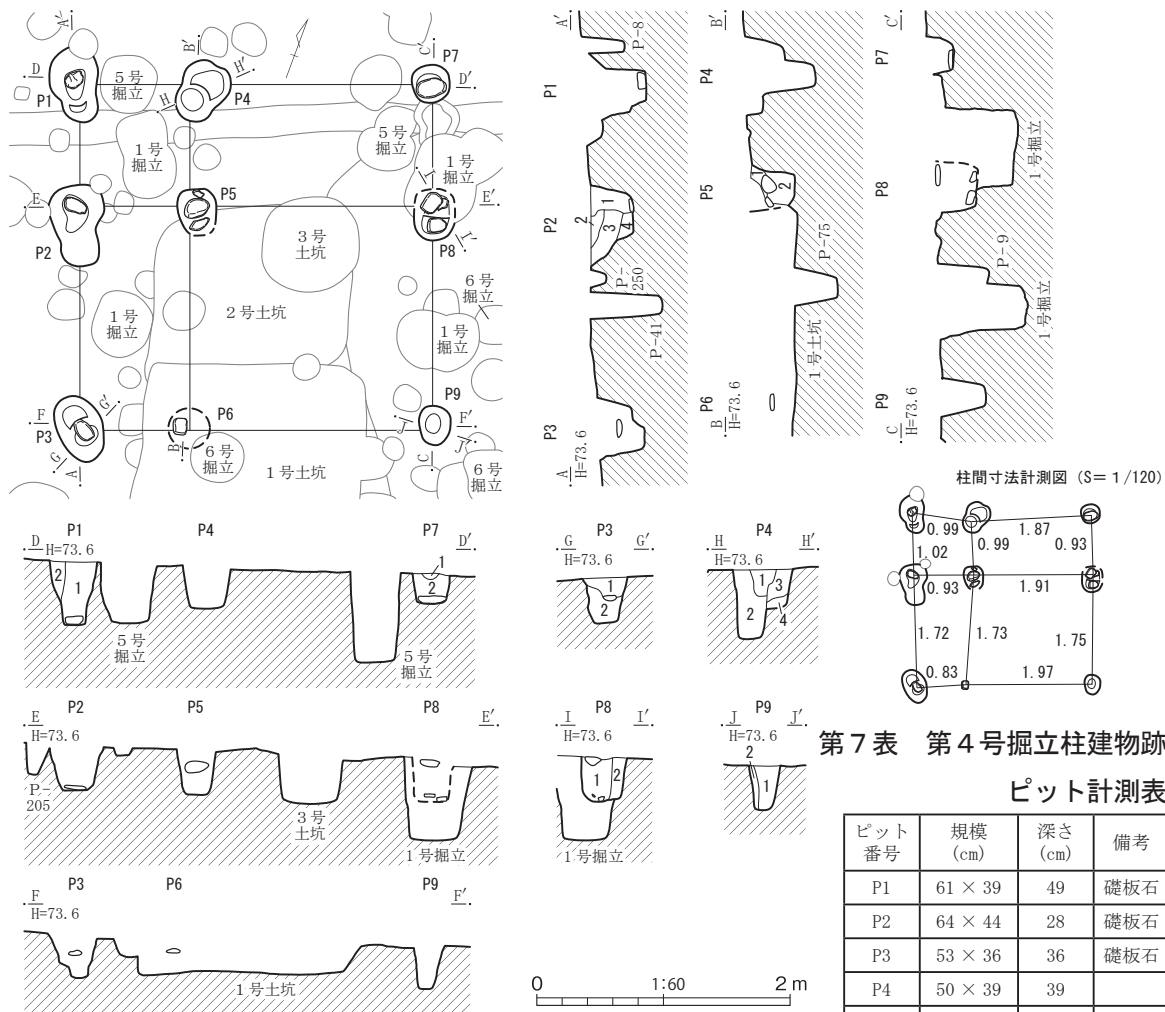
柱穴の規模は、第8表に示した。長さ39～64cmの楕円形あるいは不整形円形を呈し、確認面からの深さは、44～62cmを測る。

遺物は、P5の覆土中から、かわらけの破片が僅かながら出土している。

本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、中世以降と考えられる。

第6号掘立柱建物跡（第23・24図、第9表、図版8・9）

調査区北東側に位置する。重複する第1号掘立柱建物跡に切られ、第1号住居跡、第1号土坑、P



第7表 第4号掘立柱建物跡

ピット計測表

第4号掘立柱建物跡ピット土層説明 P1

第1層：暗褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

第4号掘立柱建物跡ピット土層説明 P2

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：暗褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～1cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第4層：暗褐色土層 しまり強い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量。

第4号掘立柱建物跡ピット土層説明 P3

第1層：黒褐色土層 しまり強い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～1cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

第4号掘立柱建物跡ピット土層説明 P4

第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）・焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：暗褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～2cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量。
 第4層：黄褐色土層 しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～3cm）主体。

第4号掘立柱建物跡ピット土層説明 P5

第1層：暗褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。

第4号掘立柱建物跡ピット土層説明 P7

第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～1cm）微量。

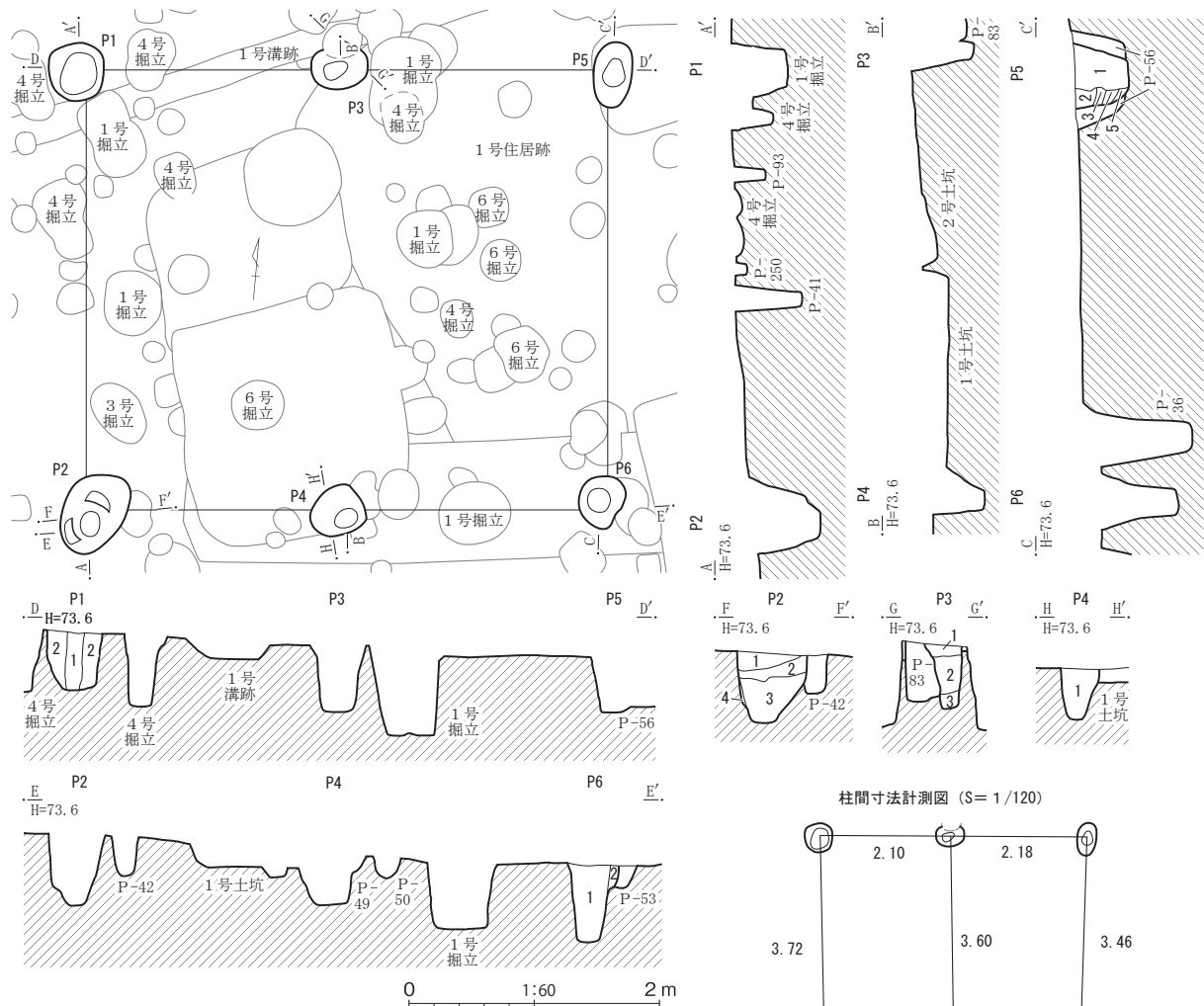
第4号掘立柱建物跡ピット土層説明 P8

第1層：暗褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

第4号掘立柱建物跡ピット土層説明 P9

第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：暗褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。

第21図 第4号掘立柱建物跡



第5号掘立柱建物跡ピット土層説明 P1
 第1層：灰黄褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
 第2層：暗褐色土層 しまり強い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量。

第5号掘立柱建物跡ピット土層説明 P2
 第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～1cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：暗褐色土層 しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第3層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～2cm）少量。

第5号掘立柱建物跡ピット土層説明 P3
 第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、ロームブロック（径0.6～1cm）微量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～2cm）少量、炭化物（径0.1～0.5cm）微量。
 第3層：暗褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。

第5号掘立柱建物跡ピット土層説明 P4
 第1層：黒色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

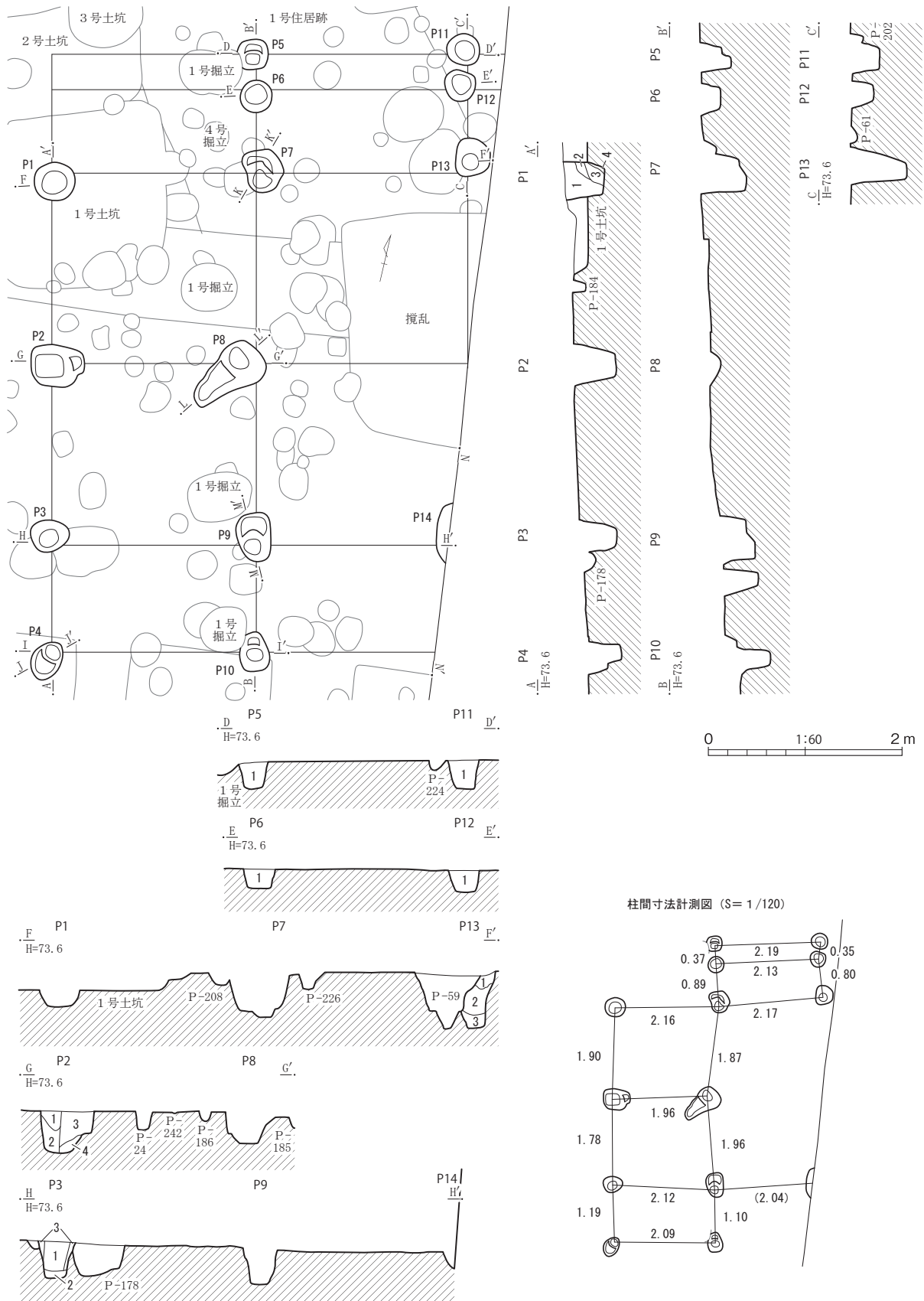
第5号掘立柱建物跡ピット土層説明 P5
 第1層：暗褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）・片岩（径0.1～0.5cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）・炭化物（径0.1～0.5cm）微量。
 第3層：黄褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～2cm）大量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。
 第4層：黒褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第5層：暗褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）少量。

第5号掘立柱建物跡ピット土層説明 P6
 第1層：暗褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。
 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。

第8表 第5号掘立柱建物跡
ピット計測表

ピット番号	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	47 × 45	52	
P2	64 × 48	58	
P3	46 × 32	54	
P4	39 × 39	61	
P5	53 × 31	44	
P6	41 × 34	62	

第22図 第5号掘立柱建物跡

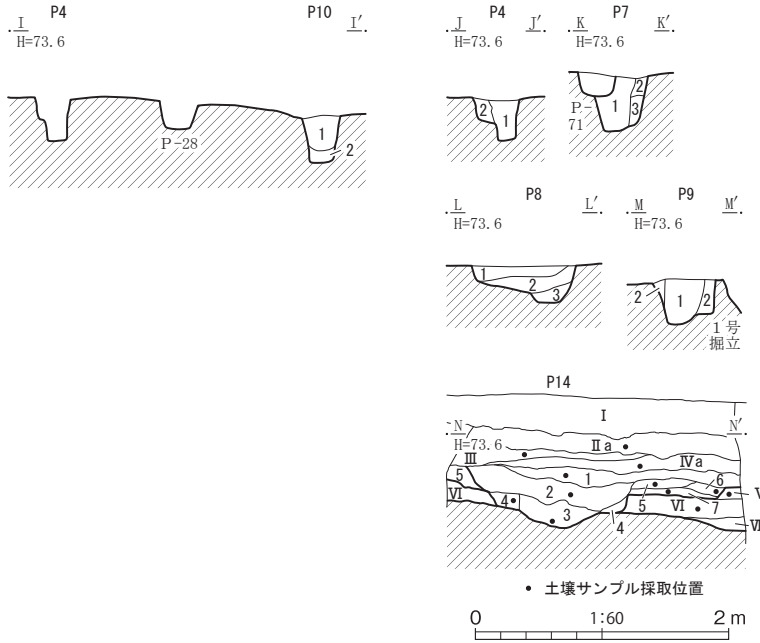


第23図 第6号掘立柱建物跡(1)

第9表 第6号掘立柱建物跡

ピット計測表

ピット番号	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	42 × 40	19	
P2	55 × 44	42	
P3	39 × 34	38	
P4	42 × 31	36	
P5	31 × 32	32	
P6	34 × 34	19	
P7	45 × 45	43	
P8	83 × 48	34	
P9	50 × 35	36	
P10	41 × 30	44	
P11	35 × 32	30	
P12	32 × 32	22	
P13	39 × 35	55	
P14	62 × [13]	34	



第6号掘立柱建物跡ピット土層説明 P1

- 第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 多量、ロームブロック (径0.6~1cm) 少量、焼土粒子 (径0.1~0.2cm) 炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第2層：黄褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 大量、ロームブロック (径0.6~1cm) 多量。
- 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 少量、ロームブロック (径0.6~1cm) 微量。
- 第4層：暗褐色土層 しまり強い。粘性あり。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 大量。

第6号掘立柱建物跡ピット土層説明 P2

- 第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・ロームブロック (径0.6~1cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 少量、ロームブロック (径0.6~1cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.3cm) 少量、ロームブロック (径0.6~1cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第4層：黄褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・ロームブロック (径0.6~2cm) 多量。

第6号掘立柱建物跡ピット土層説明 P3

- 第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 少量、焼土粒子 (径0.1~0.2cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第2層：黒褐色土層 しまり強い。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・ロームブロック (径0.6~1cm) 少量。
- 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。

第6号掘立柱建物跡ピット土層説明 P4

- 第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 少量、ロームブロック (径0.6~1cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。

第6号掘立柱建物跡ピット土層説明 P5・6・11・12

- 第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 多量、ロームブロック (径0.6~1cm) 少量、焼土粒子 (径0.1~0.2cm) 炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。

第6号掘立柱建物跡ピット土層説明 P7

- 第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 多量、炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第2層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 多量、ロームブロック (径0.6~1cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第3層：暗褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・ロームブロック (径0.6~1cm) 多量。

第6号掘立柱建物跡ピット土層説明 P8

- 第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 少量、ロームブロック (径0.6~1cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第3層：暗褐色土層 しまり弱い。粘性あり。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 大量、ロームブロック (径0.6~1cm) 微量。

第6号掘立柱建物跡ピット土層説明 P9

- 第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 少量、ロームブロック (径0.6~1cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 多量、ロームブロック (径0.6~1cm) 少量。

第6号掘立柱建物跡ピット土層説明 P10

- 第1層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 多量、ロームブロック (径0.6~1cm) 微量。
- 第2層：黒色土層 しまり強い。粘性あり。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 多量、ロームブロック (径0.6~1cm) 少量。

第6号掘立柱建物跡ピット土層説明 P13

- 第1層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・ロームブロック (径0.6~1cm) 多量、炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第2層：黒褐色土層 しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・ロームブロック (径0.6~1cm) ・炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第3層：暗褐色土層 しまり強い。粘性あり。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・ロームブロック (径0.6~1cm) 少量、炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。

第6号掘立柱建物跡ピット土層説明 P14

- 第1層：褐灰色土層 しまり強い。粘性なし。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・焼土粒子 (径0.1~0.2cm) 微量、鉄 (径0.1~0.2cm) ・片岩・砂利。砂質。
- 第2層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・ロームブロック (径0.6~1cm) 少量、炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第3層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) ・ロームブロック (径0.6~1cm) 少量、炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第4層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 少量、炭化物 (径0.1~0.2cm) 微量。
- 第5層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 少量。
- 第6層：黒褐色土層 しまりあり。粘性なし。ロームブロック (径0.6~1cm) 多量、ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 少量。
- 第7層：黒褐色土層 しまりあり。粘性弱い。ローム粒子 (径0.1~0.5cm) 微量。

第24図 第6号掘立柱建物跡 (2)

第三章 検出された遺構と遺物

-71・90・178 を切っている。P -59・61・202・445 との新旧関係は、不明である。

建物跡の形態は、建物の東側が調査区外に伸びる可能性があるため明確ではないが、桁行方向が2間以上、梁行方向が2間の長方形を呈する、内部に束柱をもつ総柱式建物で、南北側に庇を伴っている。本建物跡は拡張が行われたためか、北側に柱穴が2基並んでいる。

規模は、身舎部分の桁行方向が4.30 m以上、梁行方向が3.84 mで、面積約16.51 m²以上、庇の幅は1.10～1.23 mを測り、庇を含めた梁行方向が6.18 mで、面積約26.57 m²を測る。建物の長軸方向は、N -76° - Eを向いている。

桁行・梁行方向とも柱穴はほぼ一直線に並んでいるが、P 6・8・12 ではやや不揃いである。柱間寸法の計測値は、第23図に示した。身舎の柱間は桁行方向が1間1.96～2.19 m、梁行方向が1間1.78～1.96 mで、桁行方向が間隔がやや広く、梁行方向が不揃いである。

柱穴の規模は、第9表に示した。平面形は、長さ32～83 cmの規模の楕円形や不整円形、隅丸方形を呈し、確認面からの深さは19～55 cmを測る。側柱は、束柱に比べて規模がやや小さい。柱穴掘り方の覆土中には、ローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土が堆積していたが、明確な柱痕はみられなかった。

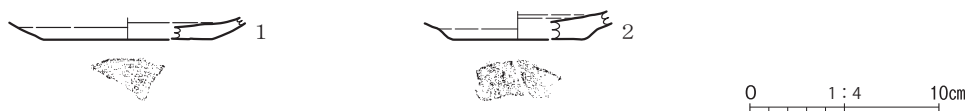
遺物は、P 1・5～8・13 から、土器やかかわらけ、須恵器の破片が僅かながら出土している。

本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、中世以前と考えられる。

3. 土 坑

第1号土坑（第25・26図、第10表、図版9・12）

調査区北側に位置する。重複する第4・5・6号掘立柱建物跡に切られ、第1号住居跡、第2号土坑を切っている。P -43・49・50・76・79・80・184・254・255 との新旧関係は、不明である。形態は、コーナー部に丸みをもつ隅丸方形を呈している。規模は、長軸189cm、短軸181cmを測る。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。確認面からの深さは、36cmである。覆土は、多量のローム粒子やロームブロックと微量な炭化粒子を含む褐色土を主体としている。遺物は、覆土中から、かわらけの破片が17点出土している。そのうちの2点を図示する（第25図）。本土坑の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、中世と推定される。



第25図 第1号土坑出土遺物

第10表 第1号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 底部径(9.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 内外一にぶい橙色。E. 雲母、石英、黒色粒、白色粒。F. 底部破片。H. 覆土中。
2	かわらけ	A. 底部径(7.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 内外一にぶい橙色。E. 石英、雲母、黒色粒、白色粒。F. 底部破片。H. 覆土中。

第2号土坑（第26図、図版9）

調査区北側に位置する。重複する第1号土坑、第4号掘立柱建物跡に切られ、第1号住居跡、第3

号土坑を切っている。P -75・77・84 との新旧関係は、不明である。形態は、コーナー部に丸みを持つ隅丸方形を呈している。規模は、長軸 155cm、短軸は 125cm 以上を測る。壁は、やや傾斜して直線的に立ち上がり、底面は平坦である。確認面からの深さは、39cm である。覆土は、多量のローム粒子やロームブロックと微量な炭化粒子を含む黒褐色土を主体としている。遺物は、出土していない。本土坑の時期は、遺構の重複関係から、中世と推定される。

第3号土坑（第26図、図版9）

調査区北側に位置する。重複する第2号土坑に切られ、第1号住居跡を切っている。形態は、円形を呈している。規模は、長軸 76cm、短軸 74cm を測る。壁は、僅かに傾斜して直線的に立ち上がり、底面は平坦である。確認面からの深さは、41cm である。覆土は、多量のローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土を主体にしている。遺物は、出土していない。本土坑の時期は、遺構の重複関係から、中世と推定される。

第4号土坑（第26図、図版9）

調査区南東側に位置する。形態は、不整円形を呈している。規模は、長軸 117cm、短軸 116cm を測る。壁は、段状を呈し、やや傾斜して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。確認面からの深さは、28cm である。覆土は、上層はローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土、下層はローム粒子とロームブロックを含む黒色土や暗褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から、かわらけの破片が1点出土している。本土坑の時期は、覆土の状況と出土遺物の様相から、中世以降と推定される。

第5号土坑（第26図、図版9）

調査区中央部の南寄りに位置する。重複する P -214・421 との新旧関係は、不明である。形態は、楕円形を呈している。規模は、長軸 168cm、短軸 166cm を測る。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、底面は平坦である。確認面からの深さは、37cm である。覆土は、ローム粒子やロームブロック、炭化粒子を含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から、かわらけの破片5点と小礫が出土している。本土坑の時期は、発掘調査時に基本層序第Ⅲ層上面から掘り込まれていることが確認されていたことや出土遺物の様相から、中世以降と推定される。

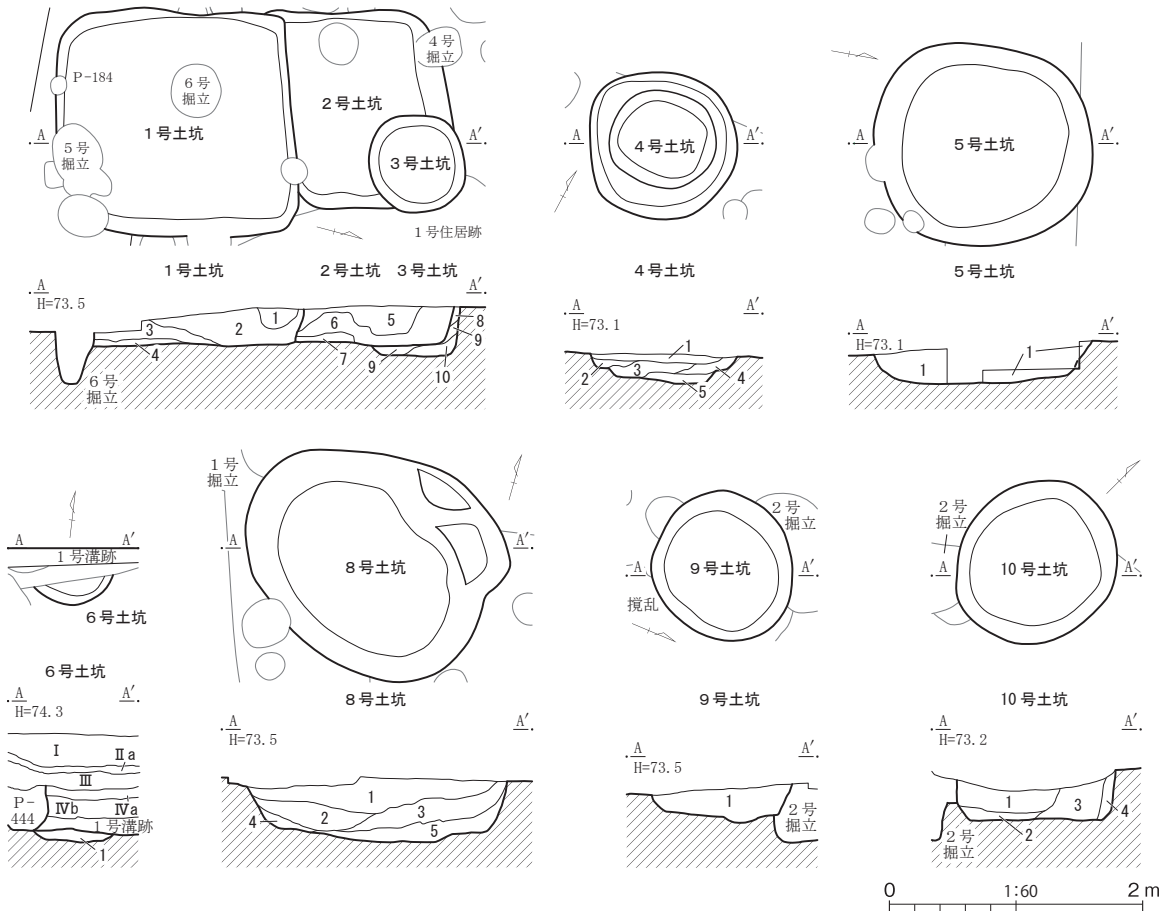
第6号土坑（第26図、図版9）

調査区北東隅に位置する。重複する第1号溝跡に切られている。形態は、北側が調査区外に位置するため、全容は不明である。規模は、長軸 62cm 以上、短軸が 32cm 以上を測る。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、底面は平坦である。確認面からの深さは、12cm である。覆土は、ローム粒子を大量に含むにぶい黄褐色土である。遺物は、出土していない。本土坑の時期は、遺構の重複関係から、中世以前と推定される。

第8号土坑（第26図、図版10）

調査区中央部、やや東寄りに位置する。重複する第1号掘立柱建物跡を切っている。P -160 との新旧関係は、不明である。形態は、北東部部分がやや張り出した、不整楕円形を呈している。規模は、

第三章 検出された遺構と遺物



第1・2・3号土坑土層説明

- | | |
|------------|--|
| 第1層：褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。 |
| 第2層：褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～3cm）多量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。 |
| 第3層：褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～2cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。 |
| 第4層：暗褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。 |
| 第5層：黒褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。 |
| 第6層：黒褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～1cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。 |
| 第7層：暗褐色土層 | しまり弱い。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～1cm）大量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。 |
| 第8層：黒褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）多量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。 |
| 第9層：黒褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ロームブロック（径0.6～1cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。 |
| 第10層：黒褐色土層 | しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）少量。 |
| 第11層：黒色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量。 |

第4号土坑土層説明

- | | |
|-----------|---|
| 第1層：黒褐色土層 | しまり弱い。粘性弱い。鉄（径0.1～0.2cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～2cm）微量。 |
| 第2層：黒褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。鉄（径0.1～0.2cm）少量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～1cm）微量。 |
| 第3層：黒色土層 | しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～2cm）多量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）・鉄（径0.1～0.2cm）少量。 |
| 第4層：暗褐色土層 | しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）・鉄（径0.1～0.2cm）少量。 |
| 第5層：黄褐色土層 | しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～3cm）大量、鉄（径0.1～0.2cm）少量。 |

第5号土層説明

- | | |
|-----------|---|
| 第1層：暗褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～1cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。 |
|-----------|---|

第6号土坑説明

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| 第1層：にぶい黄褐色土層 | しまり弱い。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量。 |
|--------------|---------------------------------|

第8号土坑説明

- | | |
|--------------|--|
| 第1層：黒褐色土層 | しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～2cm）少量、焼土粒子（径0.1～0.2cm）・炭化物（径0.1～0.2cm）微量。 |
| 第2層：にぶい黄褐色土層 | しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量、ロームブロック（径0.6～2cm）多量。 |
| 第3層：黒褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～15cm）少量。 |
| 第4層：黒褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）大量。 |
| 第5層：黒褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～2cm）少量、炭化物（径0.1～0.2cm）微量。 |

第9号土坑説明

- | | |
|--------------|--|
| 第1層：にぶい黄褐色土層 | しまりあり。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量、ロームブロック（径0.6～2cm）少量、炭化物（径0.1～0.5cm）・As-A（径0.1～0.2cm）微量。 |
|--------------|--|

第10号土坑説明

- | | |
|--------------|---|
| 第1層：黒褐色土層 | しまりあり。粘性あり。ローム粒子（径0.1～0.5cm）・ロームブロック（径0.6～2cm）多量、炭化物（径0.1～0.5cm）微量。 |
| 第2層：黒褐色土層 | しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～2cm）大量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）多量。 |
| 第3層：黒色土層 | しまりあり。粘性あり。ロームブロック（径0.6～2cm）大量、ローム粒子（径0.1～0.5cm）少量。 |
| 第4層：にぶい黄褐色土層 | しまり弱い。粘性弱い。ローム粒子（径0.1～0.5cm）微量。 |

第26図 土坑

長軸 209cm、短軸 178cm を測る。壁は、北東壁はやや傾斜して直線的に立ち上がるが、そのほかの壁はやや緩やかな傾斜をもって立ち上がる。底面は平坦であるが、中央が僅かに窪む。確認面からの深さは、50cm である。覆土は、ローム粒子やロームブロック含む黒褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から、かわらけの破片が 3 点出土している。本土坑の時期は、覆土の状況と出土遺物の様相から、中世以降と推定される。

第 9 号土坑（第 26 図、図版 10）

調査区中央部、やや南西寄りに位置する。重複する第 2 号掘立柱建物跡を切っている。P -376 との新旧関係は、不明である。形態は、楕円形を呈している。規模は、長軸 118cm、短軸 110cm を測る。壁は、やや傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面は平坦である。確認面からの深さは、26cm である。覆土は、As-A やローム粒子、ロームブロックを含むにぶい黄褐色土である。遺物は、出土していない。本土坑の時期は、覆土の状況と遺構の重複関係から、近世以降と推定される。

第 10 号土坑（第 26 図、図版 10）

調査区南西側に位置する。重複する第 2 号掘立柱建物跡を切っている。P -436 との新旧関係は、不明である。形態は、楕円形を呈している。規模は、長軸 129cm、短軸 126cm を測る。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。確認面からの深さは、57cm である。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から、土師器の破片が 1 点出土している。本土坑の時期は、遺構の重複関係と出土遺物の様相から、古代以降と推定される。

4. 溝 跡

第 1 号溝跡（第 27 図、図版 10）

調査区北端に位置する。重複する第 1・4・5 号掘立柱建物跡・P -444 に切られ、第 1 号住居跡を切る。P - 6・65・83・192・193・194・195・196・228 との新旧関係は、不明である。溝の方向は、南西から北東方向に向かって直線的に延びており、第 2 号溝跡と並走している。規模は、上幅が 22～30cm、下幅 10～15cm を測り、確認面からの深さは、13～17cm である。断面の形態は、壁がほぼ垂直に立ち上がり、底面が平坦な箱状を呈している。覆土は、ローム粒子を含む黒褐色土を主体としている。遺物は、覆土中から、土器片が 1 点出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係から中世以前と推定される。本遺構の性格については、区画を目的とした溝と考えられる。

第 2 号溝跡（第 27・28 図、第 11 表、図版 10・12）

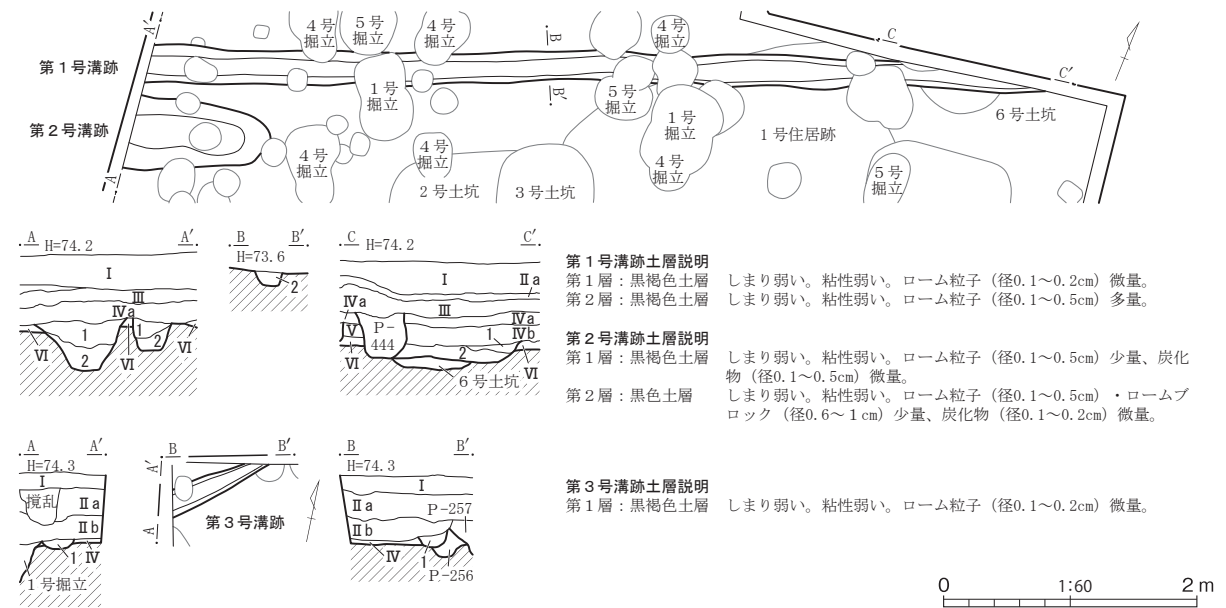
調査区北端に位置する。重複する P -87 に切られているが、P -88・183・205 との新旧関係は、不明である。溝の方向は、南西から北東方向に向かって直線的に延びており、第 1 号溝跡と並走している。本溝跡の東端は、調査区西壁から東へ 111cm ほど延びたところで、立ち上がる。規模は、上幅が 58cm、下幅 27cm を測り、確認面からの深さは、25～35cm である。断面の形態は、壁が傾斜をもって直線的に立ち上がり、底面が平坦な逆台形状を呈している。覆土は、ローム粒子やロームブロック、炭化粒子を含む黒褐色土と黒色土を主体としている。遺物は、覆土中から、かわらけの破片が

第三章 検出された遺構と遺物

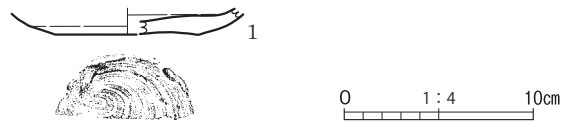
3点出土している。そのうちの1点を図示する(第28図)。本溝跡の時期は、上面を基本層序第IV層で覆われていることから、中世以前と推定される。本遺構の性格については、区画を目的とした溝と考えられる。

第3号溝跡(第27図、図版10)

調査区中央部、西端に位置する。重複するP-256に切られるが、P-284との新旧関係は、不明である。溝の方向は、南西から北東方向に向かって直線的に伸びている。東側の延長は、調査区内では検出されていない。規模は、上幅が11~19cm、下幅6~12cmを測り、確認面からの深さは、6cmである。断面の形態は、壁がやや傾斜して直線的に立ち上がり、底面がやや丸みを帯びた逆台形状を呈している。覆土は、ローム粒子を含む黒褐色土を主体としている。遺物は、出土していない。本溝跡の時期は、上面を基本層序第II層で覆われていることや第1号溝跡と規模や形態、覆土が似ていることから、第1号溝跡と同時期のものであると推定される。本遺構の性格については、第1号溝跡と同様に、区画を目的とした溝と考えられる。



第27図 第1・2・3号溝跡



第28図 第2号溝跡出土遺物

第11表 第2号溝跡出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 底部径(7.5)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面右回転糸切り。D. 内外一にぶい橙色。E. 雲母、石英、黒色粒。F. 底部破片。H. 覆土中。
---	------	---

5. ピット群（第29～32図、第12～27表、図版10・12）

掘立柱建物跡の柱穴を除き、414基のピットを検出した。ピットは調査区に万遍なく位置しているが、北東部、中央西側、南東部で特に集中している。各ピットの規模や重複関係は、第12～22表に示した。ピットの名前については、発掘調査時に付したものをそのまま用い、本報告の際に掘立柱建物跡の柱穴へ変更したものは、欠番とした。反対に、発掘調査時に掘立柱建物跡の柱穴としたものの、のちに単独ピットへ変更したものについては、新たにピット番号を付した。また、規模が大きいP-56やP-132などは、土坑などに名称を変更せず、ピットのままとした。覆土は、肉眼観察によりローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む黒褐色土（覆土A）、ロームブロックを大量に含む暗褐色土（覆土B）、ローム粒を微量含む黒色土（覆土C）、ロームブロックを少量含むにぶい黄褐色土（覆土D）、ロームブロックと焼土ブロックを少量含む黒褐色土（E）に分類した。



第29図 ピット群（1）



第30図 ピット群(2)



第31図 ピット群(3)

第三章 検出された遺構と遺物

第12表 ピット計測表(1)

ピット番号	平面形状	規模 [cm]	深さ (cm)	覆土	出土遺物	備考
P-1	欠番					4掘立P3に変更。
P-2	欠番					5掘立P1に変更。
P-3	楕円形	29×24	18	A		
P-4	欠番					4掘立P4に変更。
P-5	不整形	30×23	14	A	かわらけ片13	
P-6	楕円形	44×38	72	A		1溝と重複。
P-7	隅丸方形	39×32	58	A		P-66と重複。
P-8	楕円形	23×23	34	A	かわらけ片3	4掘立と重複。
P-9	楕円形	24×[20]	41	A		1住、1掘立と重複。
P-10	欠番					1掘立P6に変更。
P-11	欠番					6掘立P11に変更。
P-12	欠番					6掘立P12に変更。
P-13	欠番					6掘立P5に変更。
P-14	欠番					6掘立P6に変更。
P-15	楕円形	22×17	12	A		P-31・36と重複。
P-16	楕円形	28×28	42	A		P-53と重複。礫充填。
P-17	楕円形	31×26	30	A	かわらけ片3	
P-18	楕円形	18×15	11	A		P-19と重複。
P-19	楕円形	23×22	12	A		P-18と重複。
P-20	楕円形	26×23	38	A	かわらけ片2	P-190と重複。
P-21	隅丸方形	34×32	37	A	かわらけ片3、礫	
P-22	楕円形	32×29	38	A		
P-23	欠番					1掘立P6に変更。
P-24	楕円形	21×19	18	A		
P-25	不整形	35×27	18	A		
P-26	楕円形	22×22	25	A	かわらけ片1	
P-27	隅丸方形	22×21	16	A		
P-28	楕円形	36×30	24	A		
P-29	欠番					6掘立P4に変更。
P-30	欠番					6掘立P10に変更。
P-31	円形	34×29	35	A	かわらけ片1	1住、P-15・36と重複。
P-32	楕円形	37×36	50	A	かわらけ片5	P-185と重複。
P-33	楕円形	38×31	51	A		P-190・191と重複。
P-34	楕円形	37×31	33	A		P-48と重複。
P-35	楕円形	44×40	30	A		
P-36	楕円形	51×[39]	73	A		1住、P-15・31と重複。
P-37	不整形	35×34	53	A		P-191と重複。
P-38	楕円形	35×27	19	A		
P-39	楕円形	35×31	32	A		
P-40	楕円形	41×[30]	24	A		1掘立と重複。
P-41	楕円形	29×25	58	A		
P-42	楕円形	37×25	36	A		5掘立と重複。
P-43	楕円形	24×18	7	A		1土と重複。
P-44	隅丸方形	31×26	37	A		P-45と重複。

第13表 ピット計測表(2)

ピット番号	平面形状	規模 [cm]	深さ (cm)	覆土	出土遺物	備考
P-45	隅丸方形	21 × 20	13	A		P-44 と重複。
P-46	隅丸方形	31 × 30	38	A	かわらけ片 1	
P-47	欠番					5 掘立 P2 に変更。
P-48	楕円形	38 × 33	61	A	かわらけ片 1	P-34 と重複。礫充填。
P-49	不整形	38 × [22]	30	A		5 掘立、1 土、P-50・217 と重複。
P-50	楕円形	40 × 32	49	A	かわらけ片 1	1 土、P-49 と重複。
P-51	欠番					5 掘立 P4 に変更。
P-52	欠番					5 掘立 P6 に変更。
P-53	楕円形	47 × [27]	23	A		5 掘立、P-16 と重複。
P-54	欠番					1 掘立 P1 に変更。
P-55	欠番					5 掘立 P3 に変更。
P-56	隅丸長方形	113 × 76	44	A	かわらけ片 2	1 住、5 掘立と重複。
P-57	欠番					5 掘立 P5 に変更。
P-58	欠番					4 掘立 P1 に変更。
P-59	楕円形	70 × 56	54	A		1 住、6 掘立と重複。
P-60	欠番					6 掘立 P13 に変更。
P-61	楕円形	35 × 30	18	A		1 住、6 掘立と重複。
P-62	楕円形	22 × [13]	9	A		1 住と重複。
P-63	欠番					1 掘立 P1 に変更。
P-64	楕円形	40 × [35]	12	A	かわらけ片 2	1 住、1 掘立、1 溝と重複。
P-65	不整形	36 × [35]	12	B		1 住、1・4 掘立、1 溝と重複。
P-66	楕円形	32 × 25	32	B		P-7 と重複。
P-67	楕円形	21 × [13]	18	A		1 掘立と重複。
P-68	楕円形	34 × 28	17	A		1 掘立と重複。
P-69	楕円形	38 × 29	39	A		
P-70	楕円形	20 × 19	22	A		
P-71	隅丸方形	34 × [25]	41	A	かわらけ片 3	1 住、6 掘立、P-208 と重複。
P-72	欠番					6 掘立 P7 に変更。
P-73	欠番					4 掘立 P9 に変更。
P-74	欠番					4 掘立 P5 に変更。
P-75	楕円形	34 × 31	35	A		2 土と重複。
P-76	欠番					6 掘立 P1 に変更。
P-77	楕円形	[22] × 19	17	A	かわらけ片 1	2 土と重複。
P-78	楕円形	18 × 16	18	A		
P-79	隅丸方形	26 × [19]	21	A		1 土と重複。
P-80	楕円形	23 × [13]	5	A		1 土と重複。
P-81	楕円形	64 × 55	56	B		1 住、P-59 と重複。
P-82	楕円形	21 × 20	22	A		
P-83	楕円形	31 × 28	43	A		5 掘立、1 溝、P-65 と重複。 礎板石。
P-84	楕円形	22 × 20	18	A		1・2 土と重複。
P-85	欠番					6 掘立 P3 に変更。
P-86	楕円形	36 × 29	57	A	かわらけ片 1	1 住と重複。
P-87	円形	23 × 23	5	A		2 溝と重複。

第Ⅲ章 検出された遺構と遺物

第14表 ピット計測表(3)

ピット番号	平面形状	規模 [cm]	深さ (cm)	覆土	出土遺物	備考
P-88	楕円形	36 × 28	26	A		2溝、P-89と重複。
P-89	楕円形	24 × 20	26	B		P-88と重複。
P-90	楕円形	46 × 42	34	A		6掘立、P-178と重複。
P-91	楕円形	24 × 20	31	A		1住と重複。
P-92	欠番					4掘立P8に変更。
P-93	楕円形	17 × 16	23	A		4掘立と重複。
P-94	欠番					4掘立P2に変更。
P-95	楕円形	16 × 14	9	C		
P-96	隅丸長方形	36 × 28	14	A		
P-97	楕円形	57 × 29	17	A		
P-98	楕円形	27 × 23	14	A		
P-99	楕円形	27 × 22	17	C		
P-100	楕円形	32 × 25	36	A		
P-101	楕円形	25 × [12]	32	A		P-102と重複。
P-102	楕円形	23 × [12]	35	D		P-101と重複。
P-103	楕円形	32 × 29	18	A		
P-104	楕円形	28 × 27	11	A	かわらけ片1	
P-105	隅丸長方形	29 × 25	9	A		
P-106	楕円形	34 × 29	12	D		
P-107	楕円形	46 × 38	9	A		P-108と重複。
P-108	楕円形	16 × 14	12	A		P-107と重複。
P-109	楕円形	37 × [26]	5	A		
P-110	楕円形	36 × 26	15	D		
P-111	楕円形	26 × 23	33	C		
P-112	楕円形	19 × 18	21	C		
P-113	楕円形	18 × 18	17	A		
P-114	楕円形	19 × 21	23	C	かわらけ片1	
P-115	楕円形	23 × 20	9	C		
P-116	隅丸長方形	23 × 19	6	A		
P-117	楕円形	34 × 31	34	A		
P-118	楕円形	22 × 18	20	A		
P-119	隅丸長方形	34 × 30	23	A		
P-120	楕円形	20 × 20	15	C		
P-121	楕円形	28 × 21	6	A		
P-122	楕円形	34 × 24	22	A		
P-123	楕円形	29 × 25	23	A		
P-124	楕円形	26 × 24	23	A		
P-125	楕円形	27 × 26	24	A		
P-126	楕円形	22 × 20	24	C		
P-127	楕円形	23 × 20	10	A		
P-128	隅丸長方形	[22] × 22	8	A		
P-129	楕円形	39 × 29	23	A	かわらけ片1	P-166と重複。
P-130	不整形	28 × 26	15	A		
P-131	楕円形	27 × 26	16	A		

第15表 ピット計測表(4)

ピット番号	平面形状	規模 [cm]	深さ (cm)	覆土	出土遺物	備 考
P-132	楕円形	63 × 50	19	A		
P-133	楕円形	27 × 22	17	A		
P-134	楕円形	35 × 30	18	A		
P-135	楕円形	36 × 35	16	A		
P-136	楕円形	22 × [17]	12	A		
P-137	楕円形	28 × 26	16	D		
P-138	楕円形	23 × 20	23	A		
P-139	楕円形	19 × 16	14	A		
P-140	楕円形	24 × 22	16	A		
P-141	楕円形	24 × 19	15	A		
P-142	楕円形	27 × 23	23	A		
P-143	楕円形	32 × 32	22	C		
P-144	楕円形	21 × 20	25	A		
P-145	楕円形	21 × 18	15	C		
P-146	楕円形	26 × 23	18	A		
P-147	楕円形	31 × [25]	33	A		P-170 と重複。
P-148	楕円形	26 × 22	23	A		
P-149	楕円形	28 × 23	12	D		
P-150	楕円形	32 × 22	10	A		
P-151	楕円形	24 × 22	20	A		
P-152	楕円形	24 × 20	38	A		
P-153	楕円形	26 × 21	21	A		
P-154	楕円形	33 × 26	21	A		
P-155	楕円形	37 × 36	16	A	土師器片 3	P-169 と重複。
P-156	楕円形	28 × 28	19	A		P-172 と重複。
P-157	楕円形	31 × 28	37	A	かわらけ片 1	P-171 と重複。
P-158	楕円形	34 × 33	39	A	かわらけ片 1	P-175 と重複。
P-159	楕円形	17 × 15	16	A		
P-160	楕円形	40 × 36	52	A		8 土と重複。
P-161	隅丸長方形	24 × 20	17	A		
P-162	楕円形	28 × 26	24	A		
P-163	楕円形	27 × 20	30	C		
P-164	楕円形	44 × 31	18	D		
P-165	隅丸方形	21 × 18	13	D		
P-166	楕円形	23 × 19	20	A		P-129 と重複。
P-167	楕円形	23 × 21	28	A		
P-168	楕円形	34 × [20]	27	A	緑泥石片岩 1	
P-169	楕円形	25 × 20	21	A		P-155 と重複。
P-170	楕円形	30 × [28]	45	D		P-147・173 と重複。
P-171	楕円形	29 × [19]	20	A		P-157 と重複。
P-172	楕円形	22 × [19]	18	A		P-156 と重複。
P-173	楕円形	28 × [12]	21	A		P-170 と重複。
P-174	楕円形	31 × [16]	14	A		5 土と重複。
P-175	楕円形	30 × [27]	26	A		P-158 と重複。

第三章 検出された遺構と遺物

第16表 ピット計測表(5)

ピット番号	平面形状	規模 [cm]	深さ (cm)	覆土	出土遺物	備考
P-176			欠番			6掘立P8に変更。
P-177			欠番			6掘立P2に変更。
P-178	隅丸長方形	67×51	34	A	かわらけ片1	6掘立、P-90と重複。
P-179			欠番			6掘立P9に変更。
P-180	楕円形	30×23	20	A		P-181と重複。
P-181	楕円形	30×21	27	D		P-180と重複。
P-182	楕円形	28×26	29	A		
P-183	楕円形	19×16	23	A		2溝と重複。
P-184	楕円形	16×13	14	A		1土と重複。
P-185	楕円形	21×[19]	12	A		P-32と重複。
P-186	楕円形	21×19	16	A		
P-187	楕円形	20×18	25	C		
P-188	隅丸方形	22×16	14	A		
P-189	楕円形	22×18	13	A		
P-190	楕円形	[26]×18	20	A		P-20・33と重複。
P-191	楕円形	13×12	21	A		P-33・37と重複。
P-192	楕円形	27×19	25	A		1溝と重複。
P-193	楕円形	18×16	23	A		1溝と重複。
P-194	楕円形	18×17	34	A		1溝と重複。
P-195	楕円形	23×19	72	C	かわらけ片1	
P-196	楕円形	21×20	76	A	かわらけ片1	
P-197	隅丸長方形	25×21	19	A		
P-198	隅丸方形	23×23	14	A		
P-199	楕円形	27×25	44	A		
P-200	不整形	25×23	20	A		
P-201	楕円形	22×[10]	19	A		1掘立と重複。
P-202	隅丸方形	17×[8]	14	A		
P-203	隅丸長方形	18×15	11	C		
P-204	円形	17×17	9	A		
P-205	楕円形	22×19	35	A		4掘立、2溝と重複。
P-206	隅丸方形	18×18	8	A		
P-207	楕円形	[21]×18	9	A		1掘立と重複。
P-208	楕円形	[22]×20	14	A		1住、P-714と重複。
P-209	隅丸方形	20×20	37	E		
P-210	隅丸長方形	34×23	26	E		
P-211	隅丸方形	23×22	26	E		
P-212	隅丸方形	22×19	37	A	かわらけ片1	
P-213	不明	[28]×[10]	7	A		
P-214	楕円形	24×19	7	D		5土と重複。
P-215	楕円形	17×16	33	C		
P-216	楕円形	21×19	12	A		
P-217	隅丸方形	21×[15]	5	A		5掘立、P-49と重複。
P-218	隅丸方形	20×17	20	A		
P-219	楕円形	19×18	12	A		

第17表 ピット計測表(6)

ピット番号	平面形状	規模 [cm]	深さ (cm)	覆土	出土遺物	備考
P-220	楕円形	34 × 28	29	A		
P-221	円形	15 × 15	15	A		1住と重複。
P-222	楕円形	26 × 24	56	A		1住と重複。
P-223	円形	16 × 14	14	A		1住と重複。
P-224	楕円形	21 × 17	17	A		1住と重複。
P-225	隅丸方形	16 × 15	16	A		1住と重複。
P-226	楕円形	27 × 24	63	A		1住と重複。
P-227	円形	17 × 17	26	A		1住と重複。
P-228	楕円形	53 × 50	66	A	かわらけ片2	
P-229	楕円形	20 × 17	26	A		1住、P-254と重複。
P-230	楕円形	27 × 24	37	A		P-249と重複。
P-231	楕円形	18 × [15]	9	C		1掘立と重複。
P-232	楕円形	17 × 16	16	C		
P-233	楕円形	15 × 14	69	A		1住と重複。
P-234	楕円形	21 × [14]	14	A		1住、6掘立と重複。
P-235	楕円形	17 × 16	16	A		1住と重複。
P-236	楕円形	18 × 16	9	A		
P-237	隅丸長方形	31 × 22	23	A		
P-238	隅丸方形	22 × 21	29	A		
P-239	隅丸方形	26 × 26	24	C		
P-240	楕円形	23 × 22	16	D		
P-241	楕円形	29 × 23	20	C		
P-242	隅丸方形	21 × 20	16	A		
P-243	隅丸方形	18 × 16	8	A		P-244と重複。
P-244	隅丸方形	19 × 16	13	A		P-243と重複。
P-245	隅丸方形	20 × 17	17	A		
P-246	隅丸長方形	31 × 18	31	B	かわらけ片1	
P-247	楕円形	30 × 27	52	A		
P-248	楕円形	22 × 19	57	A		1住と重複。
P-249	楕円形	28 × [25]	29	A	かわらけ片4	P-230・253と重複。
P-250	不整形	21 × 15	10	A		
P-251	楕円形	18 × 15	11	A		
P-252	隅丸方形	21 × 20	7	C		
P-253	楕円形	21 × 21	40	B		P-249と重複。
P-254	楕円形	36 × [28]	15	A		1住、1土、P-229と重複。
P-255	楕円形	[33] × 29	14	A		1住、1土と重複。
P-256	楕円形	24 × [14]	10	A		3溝と重複。
P-257	楕円形	35 × [15]	7	A		
P-258	楕円形	15 × [9]	6	A		
P-259	楕円形	[11] × 10	8	A		
P-260	楕円形	[18] × 14	7	A		
P-261	楕円形	16 × [9]	7	A		
P-262	楕円形	18 × 14	11	A		
P-263	楕円形	26 × 19	27	C		P-264と重複。

第三章 検出された遺構と遺物

第18表 ピット計測表(7)

ピット番号	平面形状	規模 [cm]	深さ (cm)	覆土	出土遺物	備考
P-264	楕円形	23 × 20	20	A		P-263 と重複。
P-265	楕円形	[23] × 17	27	B		
P-266	楕円形	18 × [12]	12	A		
P-267	楕円形	20 × [11]	14	A		
P-268	楕円形	21 × [12]	14	A		
P-269	隅丸方形	17 × 15	6	A		
P-270	楕円形	20 × 16	70	A		1 掘立と重複。
P-271	楕円形	21 × 20	19	A		
P-272	楕円形	18 × 17	10	A		
P-273	楕円形	21 × 20	9	A		
P-274	楕円形	22 × 21	23	A		
P-275	楕円形	23 × [21]	17	A		1 掘立と重複。
P-276	楕円形	20 × 17	23	A		
P-277	楕円形	24 × 20	25	A		
P-278	楕円形	18 × 18	14	A		
P-279	楕円形	30 × 23	15	A		
P-280	楕円形	19 × 16	15	A		
P-281	円形	18 × 17	11	A		1 掘立と重複。
P-282	楕円形	19 × 18	17	A		
P-283	楕円形	14 × 13	7	A		
P-284	楕円形	20 × 14	10	D		3 溝と重複。
P-285	楕円形	17 × 14	10	A		
P-286	楕円形	18 × 14	13	A		
P-287	楕円形	16 × 12	7	A		
P-288	楕円形	21 × 19	13	A		
P-289	楕円形	21 × [15]	9	A		1 掘立と重複。
P-290	楕円形	21 × 15	13	C		P-291 と重複。
P-291	楕円形	31 × 21	34	A	かわらけ片 1	P-290 と重複。
P-292	円形	17 × 17	4	A		
P-293	楕円形	18 × 14	8	A		
P-294	楕円形	22 × 22	24	A		
P-295	楕円形	20 × 20	7	A	かわらけ片 1	
P-296	楕円形	27 × 22	12	A		
P-297	楕円形	22 × 21	24	C		
P-298	楕円形	22 × 19	13	C		
P-299	楕円形	19 × 17	12	C		
P-300	楕円形	24 × 20	24	C		
P-301	楕円形	23 × 17	25	A		
P-302	楕円形	22 × 21	32	A		
P-303	楕円形	26 × 21	35	C		
P-304	隅丸長方形	24 × 18	10	A		
P-305	楕円形	14 × 13	14	C		
P-306	楕円形	13 × 12	5	A		
P-307	楕円形	26 × 20	9	A		

第19表 ピット計測表(8)

ピット番号	平面形状	規模 [cm]	深さ (cm)	覆土	出土遺物	備 考
P -308	楕円形	24 × 17	27	C	土師器片 4	
P -309	楕円形	19 × 15	13	A		
P -310	楕円形	21 × 21	11	A		
P -311	楕円形	17 × 12	12	A		P -441 と重複。
P -312	楕円形	26 × 18	11	B		
P -313	楕円形	26 × 24	16	A		
P -314	楕円形	22 × [21]	7	A		P -423 と重複。
P -315	楕円形	19 × 16	5	C		
P -316	楕円形	22 × 18	7	C		
P -317	楕円形	24 × 23	9	A	かわらけ片 2、礫	1 掘立と重複。
P -318	楕円形	15 × 14	40	A		
P -319	楕円形	20 × 19	4	A		
P -320	楕円形	21 × 19	21	C		
P -321	楕円形	15 × 15	21	A		
P -322	楕円形	12 × 12	23	A		
P -323	楕円形	16 × 14	9	A		
P -324	楕円形	20 × 19	5	A		
P -325	楕円形	15 × 13	22	C	かわらけ片 1	
P -326	楕円形	19 × 17	9	A		
P -327	楕円形	14 × 12	18	A		
P -328	楕円形	26 × 16	8	C		
P -329	楕円形	25 × 21	12	A		P -358 と重複。
P -330	楕円形	26 × 25	22	A		
P -331	楕円形	13 × 12	26	C		
P -332	楕円形	17 × 17	23	C		
P -333	隅丸長方形	31 × 29	36	A		
P -334	楕円形	20 × 19	11	A		
P -335	楕円形	26 × 24	33	A		P -374 と重複。
P -336	楕円形	23 × 22	33	A		P -386 と重複。
P -337	楕円形	25 × 24	7	C		P -351 と重複。
P -338	楕円形	22 × 17	14	A		
P -339	楕円形	21 × 20	47	C		
P -340	隅丸方形	20 × 19	17	A		
P -341	楕円形	20 × 15	14	C		
P -342	楕円形	22 × 20	22	A		
P -343	楕円形	21 × 18	23	A		
P -344	楕円形	17 × 15	9	A		
P -345	楕円形	25 × 23	31	A		
P -346	楕円形	16 × 14	12	A		
P -347	楕円形	13 × 13	39	A		
P -348	隅丸方形	22 × 20	39	A		
P -349	楕円形	25 × 17	26	A		
P -350	隅丸長方形	37 × 27	9	A		P -351 と重複。
P -351	楕円形	16 × 14	22	B		P -337・350 と重複。

第三章 検出された遺構と遺物

第20表 ピット計測表(9)

ピット番号	平面形状	規模 [cm]	深さ (cm)	覆土	出土遺物	備考
P-352	楕円形	13 × 11	12	A		
P-353	隅丸方形	28 × 25	15	A		P-354 と重複。
P-354	楕円形	26 × 16	17	B		P-353 と重複。
P-355	楕円形	22 × 18	11	A		
P-356	楕円形	22 × 18	22	A		
P-357	楕円形	24 × 17	48	A		
P-358	楕円形	16 × 15	13	B		P-329 と重複。
P-359	楕円形	23 × 19	6	A	かわらけ片 14	2 掘立と重複。
P-360	楕円形	23 × 18	20	A		
P-361	楕円形	23 × 21	30	A		P-386 と重複。
P-362	楕円形	21 × 14	11	A		
P-363	楕円形	15 × 14	11	A		
P-364	楕円形	27 × 25	25	A		
P-365	楕円形	21 × 21	31	A		
P-366	楕円形	26 × 24	28	A		1 掘立と重複。
P-367	楕円形	18 × 16	22	A		
P-368	楕円形	20 × 18	27	A		
P-369	楕円形	21 × 18	8	A		
P-370	楕円形	11 × 10	6	A		
P-371	楕円形	20 × 19	20	A		
P-372	楕円形	21 × 17	11	A		
P-373	楕円形	34 × 26	21	A	かわらけ片 1	
P-374	楕円形	24 × 19	19	B		P-335 と重複。
P-375	楕円形	25 × 22	20	A		
P-376	楕円形	[39] × 33	26	A		9 土と重複。
P-377	楕円形	19 × 16	4	A		P-379・380 と重複。
P-378	楕円形	25 × 23	23	A		P-380 と重複。
P-379	隅丸長方形	25 × 19	31	B		P-377 と重複。
P-380	楕円形	28 × [21]	23	B		P-377・378 と重複。
P-381	隅丸方形	13 × 12	27	A		
P-382	楕円形	18 × 16	10	A		2 掘立と重複。
P-383	楕円形	24 × 22	21	A		
P-384	隅丸方形	21 × 20	9	A		1 掘立と重複。
P-385	楕円形	19 × 18	9	A		
P-386	隅丸方形	20 × [12]	12	C		P-336 と重複。
P-387	楕円形	28 × 22	47	A		2 掘立と重複。
P-388	楕円形	18 × 14	18	A		
P-389	楕円形	15 × 13	9	A		
P-390	隅丸方形	21 × 20	22	A		P-391 と重複。
P-391	楕円形	16 × 13	18	B		P-390 と重複。
P-392	楕円形	26 × 21	5	A	かわらけ片 2	
P-393	楕円形	41 × 24	33	A	かわらけ片 4、須恵器片 1、礫	
P-394	隅丸方形	24 × 23	40	A		

第21表 ピット計測表(10)

ピット番号	平面形状	規模 [cm]	深さ (cm)	覆土	出土遺物	備 考
P -395	楕円形	27 × 27	30	A		
P -396	欠番					3 掘立 P2 に変更。
P -397	欠番					3 掘立 P1 に変更。
P -398	楕円形	32 × 25	47	A	かわらけ片 2	
P -399	楕円形	53 × 31	71	A	かわらけ片 4	1 掘立と重複。
P -400	楕円形	20 × 16	12	A		
P -401	楕円形	21 × 19	24	A		1 掘立と重複。
P -402	楕円形	31 × 31	16	A		2 掘立と重複。
P -403	欠番					3 掘立 P3 に変更。
P -404	楕円形	19 × 15	50	A		
P -405	不整形	27 × 25	26	A		
P -406	楕円形	36 × 26	14	A	かわらけ片 1	
P -407	楕円形	18 × 14	18	A		
P -408	楕円形	23 × 18	24	A		
P -409	楕円形	37 × 35	34	A		2 住と重複。
P -410	楕円形	32 × 31	47	A		2 住と重複。
P -411	隅丸方形	13 × 13	21	A		
P -412	楕円形	24 × 17	13	A		
P -413	楕円形	28 × 23	13	A		
P -414	楕円形	25 × 22	24	A		2 住と重複。
P -415	楕円形	21 × 17	38	A		
P -416	楕円形	22 × 20	7	A		
P -417	楕円形	32 × 23	11	A		
P -418	楕円形	19 × 16	10	A		
P -419	楕円形	21 × 18	32	A		
P -420	楕円形	18 × 15	16	A		
P -421	楕円形	23 × 19	11	A		5 土と重複。
P -422	隅丸方形	19 × 19	33	A		
P -423	隅丸方形	21 × [13]	19	B		1 掘立、P -314 と重複。
P -424	楕円形	24 × 22	18	A		
P -425	楕円形	21 × 19	18	A		
P -426	楕円形	21 × 19	10	A		2 住と重複。
P -427	楕円形	27 × 19	37	A		2 住と重複。
P -428	楕円形	22 × [21]	18	A		2 住と重複。
P -429	楕円形	16 × 14	18	A		
P -430	楕円形	19 × 13	8	A		
P -431	楕円形	17 × [10]	27	A		2 掘立と重複。
P -432	楕円形	19 × [10]	9	A		
P -433	楕円形	21 × [15]	17	A		
P -434	楕円形	[28] × 26	12	A		
P -435	楕円形	25 × [10]	10	A		
P -436	不明	[30] × [19]	22	A		2 掘立と重複。
P -437	楕円形	19 × 13	30	A	かわらけ片 2	
P -438	楕円形	26 × 25	25	A		

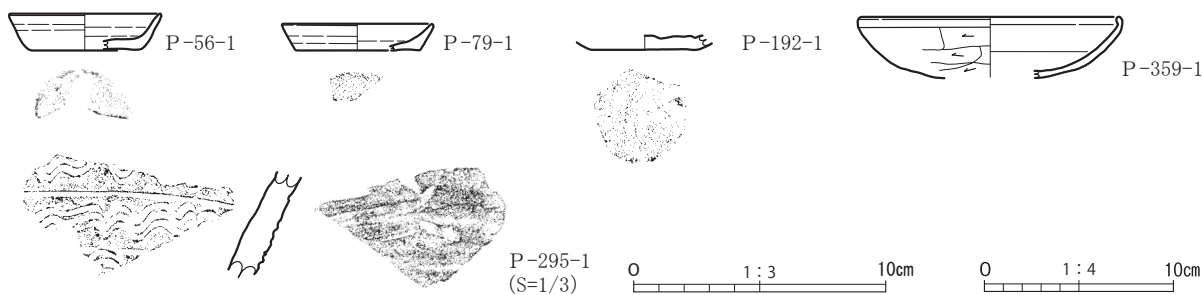
第三章 検出された遺構と遺物

第22表 ピット計測表 (11)

ピット番号	平面形状	規模 [cm]	深さ (cm)	覆土	出土遺物	備考
P-439	楕円形	23 × 21	23	A		
P-440	楕円形	33 × 22	19	A		
P-441	楕円形	17 × 14	13	A		P-311 と重複。
P-442	楕円形	32 × 26	13	A		
P-443	楕円形	23 × 19	51	A		
P-444	楕円形	[32] × [5]	30	A		1 溝と重複。
P-445	楕円形	[17] × [6]	21	B		P-60 と重複。
P-446	楕円形	[17] × [8]	22	A		1 住と重複。
P-447	楕円形	27 × [22]	44	A		1 掘立 P14 から変更。
P-448	楕円形	32 × 24	45	A		1 掘立 P15 から変更。

これらのピットの中には、今回確認された掘立柱建物跡とは別に、複数の掘立柱建物跡や柵列として組めるものがあると考えられるが、限られた調査面積の制約もあり、十分な検討ができていない。

遺物は、僅かではあるが、土師器や須恵器の破片やかかわらけの破片が各ピットから検出されている。そのうちの5点を図示する（第32図）。



第32図 ピット出土遺物

第23表 第56号ピット出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径 (8.0)、底部径 (5.8)、器高 1.9。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り、内面指頭痕。D. 内外一橙色。E. 雲母、石英、白色粒。F. 1/4。H. 覆土中。
---	------	---

第24表 第79号ピット出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径 (8.0)、底部径 (6.5)、器高 1.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 内外一橙色。E. 雲母、石英。F. 1/8。H. 覆土中。
---	------	---

第25表 第192号ピット出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 底部径 (5.5)、器高 [0.8]。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 内外一橙色。E. 雲母、石英、黒色粒。F. 底部破片。H. 覆土中。
---	------	---

第26表 第295号ピット出土遺物観察表

1	須恵器 大甕	B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 内外面回転ナデの後、外面に凹線と櫛描波状文を3段以上施す。D. 内外一橙色。E. 白色粒、黒色粒。F. 口縁破片。H. 覆土中。
---	-----------	--

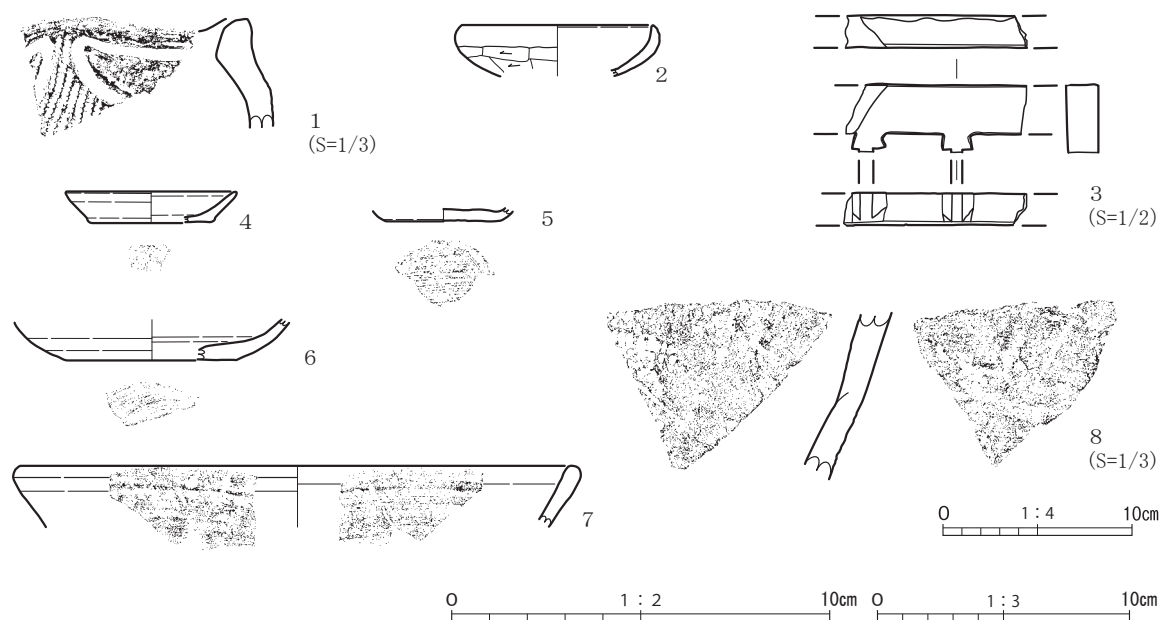
第27表 第359号ピット出土遺物観察表

1	坏	A. 口縁部径 (13.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 内外一橙色。E. 石英、黒色粒。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
---	---	--

6. 調査区内出土遺物（第33図、第28表、図版12）

調査区内出土遺物として、8点を図示した（第33図）。いずれも、検出された遺構の外から出土したものである。

1は、試掘トレンチで検出された。縄文土器の口縁部片で、中期後葉に属するものである。2は土師器坏で、口縁部がやや内湾する形態や調整方法から、7世紀後半から8世紀前半に属すると考えられる。3は瓦塔の破片で、高欄部分と想定される。4・5・6は、かわらけの破片で、4・6の外表面底部に回転糸切り痕跡、5には、静止糸切り痕がみられる。それぞれ、中世前半頃と考えられる。7は片口鉢の口縁部片、8は常滑窯系大甕の胴部片で外面に押印文が施されている。



第33図 調査区内出土遺物

第28表 調査区内出土遺物観察表

1	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 波状口縁。外面単節LR縄文施文後、口縁部に楕円文、文様内磨消。内面ナデ。D. 外-にぶい赤褐色、内-にぶい褐色。E. 白色粒・長石・石英。F. 口縁部破片。G. 縄文中期加曾利EⅢ式。H. 試掘トレンチ。
2	坏	A. 口縁部径(10.1)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ヘラナデ。D. 内外-明赤褐色。E. 石英、白色粒。F. 口縁部1/4。H. IV層。
3	瓦塔	A. 残存高1.8、残存幅4.8、厚さ0.85。B. 粘土板切り取り。C. 表面ナデ。裏面ケズリ。D. 表-灰オリーブ色、裏-灰色。E. 石英、白色粒。F. 破片。G. 高欄か。H. 一括。
4	かわらけ	A. 口縁部径(9.0)、底部径(6.4)、器高1.7。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 内外-にぶい橙色。E. 石英、雲母、黒色粒、白色粒。F. 口縁部～底部破片。H. 一括。
5	かわらけ	A. 底部径(6.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面静止糸切り。D. 内外-橙色。E. 石英、雲母、黒色粒、白色粒。F. 底部破片。H. IV層。
6	かわらけ	A. 底部径(9.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 内外-にぶい橙色。E. 石英、雲母、黒色粒、白色粒。F. 底部破片。H. 一括。
7	在地産片口鉢	A. 口縁部径(30.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転コナデ。D. 外-浅黄色、内-オリーブ黄色。E. 白色粒、黒色粒。F. 口縁部破片。G. 軟質陶器。H. 一括。
8	常滑窯系大甕	B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 胴部外面ヘラナデ後、押印文、内外ヘラナデ。D. 内外-灰色。E. 長石、石英。F. 胴部破片。H. 一括。

第IV章 本庄市鷲山南遺跡B地点の火山灰分析

1. はじめに

北関東地方西部に位置する埼玉県本庄市とその周辺には、浅間や榛名など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方、さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物、火砕物、いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代、さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（たとえば町田・新井，2011）などに収録されており、考古遺跡でテフラに関する調査分析を行って、年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、遺物包含層や遺構の年代などに関する情報を得られるようになっている。

本庄市鷲山南遺跡の発掘調査においても、層位や年代が不明な土層が検出されたことから、野外調査（地質調査）を実施して、土層やテフラ層の層序把握ならびに高純度での分析試料の採取を行った。さらに、実験室内でテフラ分析（テフラ検出分析）を行って、指標テフラの検出同定を実施した。調査分析の対象は、基本土層断面・第6号掘立柱建物跡P14、基本土層断面・P-109・P-136、第1号掘立柱建物跡P16、第1号掘立柱建物跡P19、第1号掘立柱建物跡P22、第2号掘立柱建物跡P6、第2号掘立柱建物跡P8の7地点である。

2. 調査地点の土層層序

(1) 基本土層断面・第6号掘立柱建物跡P14

基本土層断面・第6号掘立柱建物跡P14では、下位より黄色軽石質粗粒火山灰混じり黄灰色土（層厚10cm以上）、黄色土粒子混じり黒灰褐色土（層厚6cm）、黒灰褐色土（層厚8cm、VI層）、暗灰褐色土（層厚10cm、V層）、暗灰褐色土（層厚4cm、7層）、黄白色粗粒火山灰を多く含む黄色土ブロック混じり暗灰褐色土（層厚10cm、6層）、やや暗い灰褐色土（層厚5cm、5層）、黒灰褐色土（層厚7cm、4層）、黄色土ブロック混じり暗灰色土（層厚17cm、3層）、黄色土ブロックをわずかに含む暗灰褐色土（層厚16cm、2層）、土器片混じりでやや暗い灰褐色土（層厚9cm、1層）が認められた（第34図）。

その上位には、ややしまった灰褐色土（層厚12cm、整地層、IV a層）、炭化物混じりでやや暗い灰色土（層厚10cm、III層）、白色粗粒火山灰を多く含む黄灰色砂質土（層厚15cm、II a層）、炭化物混じり黄灰色土（層厚7cm）、盛土（層厚15cm、以上I層）が認められる。

(2) 基本土層断面・P-109・P-136

P-109の基盤は、下位より灰色粗粒火山灰混じりにぶい暗灰色土（層厚5cm以上、VII層）、黒色土（層厚31cm、VI層）、黒灰色土（層厚18cm）からなる（第35図）。P-109の覆土は、下位より黄色土ブロック混じりでややしまった暗灰色土（層厚7cm）、黄色土ブロック混じり黒灰色土（層厚41cm、1層）からなり、その上位に暗灰色土（層厚14cm、整地層、IV a層）、白色粗粒火山灰を多く含む灰色土（層厚21cm、II a層）、盛土（層厚29cm、I層）が形成されている。また、P-136の覆土は、下位より黄灰色～暗灰色土ブロック層（層厚14cm、3層）、砂混じり黒灰色土（層厚31cm、2層）、暗灰色土（層

厚 22cm、1層) からなる。

(3) 第1号掘立柱建物跡 P16

中世と推定されている第1号掘立柱建物跡 P16 の覆土は、下位よりややしまった褐色土ブロック混じり暗灰褐色土 (層厚 6 cm、6層)、褐色土ブロック混じり暗灰褐色土 (層厚 21cm、5層)、褐色土ブロック混じり暗灰褐色土 (層厚 10cm、4層)、褐色土粒子を多く含む灰色土 (層厚 3 cm、3層)、灰色土ブロック混じり黒灰褐色土 (層厚 36cm、2層)、円礫を含む砂混じり灰色土 (層厚 12cm、1層) からなる (第 36 図)。

(4) 第1号掘立柱建物跡 P19

本遺構の覆土は、下位よりやや褐色がかった灰色土 (層厚 7 cm、6層)、褐色土ブロック混じり灰褐色土 (層厚 14cm、5層)、褐色土粒子を多く含む灰褐色土 (層厚 22cm、4層)、褐色土粒子を多く含む灰褐色土 (層厚 29cm、3層)、褐色土粒子混じり灰褐色土 (層厚 10cm、2層)、そして柱穴部の褐色土粒子を多く含む灰褐色土 (層厚 50cm、1層) からなる (第 37 図)。

(5) 第1号掘立柱建物跡 P22

本遺構の基盤は、下位より褐色土粒子と砂を含む褐色がかった灰色土 (層厚 11cm、IV a 層) などからなる (第 38 図)。それらを切ってつくられた P22 の覆土は、とくに粗粒の褐色土ブロックを多く含むやや褐色がかった灰色土 (層厚 40cm、3層)、褐色土ブロックを多く含むやや褐色がかった灰色土 (層厚 46cm、2層)、砂混じり灰褐色土 (層厚 8 cm、1層) からなり、さらにその上位に、やや灰色がかった白色細粒軽石を含むやや褐色がかった灰色土 (層厚 16cm、II b 層)、やや灰色がかった白色細粒軽石を多く含む褐色をおびた灰色土 (層厚 14cm、II a 層)、角礫混じり灰褐色盛土 (層厚 18cm、I 層) が認められる。

(6) 第2号掘立柱建物跡 P6

7～8世紀頃の可能性が考えられている第2号掘立柱建物跡 P6 の覆土は、下位より褐色土ブロックを多く含む灰褐色土 (層厚 9 cm、9層)、暗灰色土 (層厚 7 cm)、褐色土ブロック混じり黒色土 (以上 8層)、暗灰褐色土ブロックを少し含む黄褐色土ブロック層 (層厚 12cm、7層)、褐色土ブロックを多く含む暗灰褐色土 (層厚 7 cm、5層)、褐色土ブロック混じり暗灰褐色土 (層厚 17cm)、褐色土粒子を含む暗灰褐色土 (層厚 30cm) からなる (第 39 図)。

(7) 第2号掘立柱建物跡 P8

第2号掘立柱建物跡 P8 の覆土は、下位より褐色土ブロック混じりでやや褐色がかった暗灰色土 (層厚 29cm、4層)、褐色土ブロックを多く含む暗灰褐色土 (層厚 25cm、3層)、暗灰褐色土 (層厚 4 cm、2層)、そして柱穴部の褐色土粒子を少量含むやや褐色がかった暗灰色土 (層厚 58cm、1層) からなる (第 40 図)。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

上述7地点で採取されたテフラ分析用試料のうちの42点を対象に、テフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行って、指標テフラの検出同定を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 砂分の含有率に応じて試料6～8gを電子天秤で秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第29・30表に示す。テフラ検出分析の結果、おもに次の6種類の軽石や火山ガラスを検出できた。

タイプa：無色透明のバブル型ガラスや繊維束状軽石型ガラス。

タイプb：淡褐色および無色透明の分厚い中間型（以降、中間型）や、無色透明の繊維束状軽石型ガラス。

タイプc：スポンジ状に良く発泡した灰白色のスポンジ状軽石型ガラス。

タイプd：さほど発泡が良くない白色のスポンジ状軽石型ガラス。産出層準では角閃石が認められる。

タイプe：比較的発泡の良い淡灰色、淡褐色、褐色の軽石（最大径2.6mm）や、スポンジ状軽石型ガラス。産出層準では、おもな重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められる。

タイプf：わずかに灰色をおびた白色の軽石（最大径3.1mm）やスポンジ状軽石型ガラスで、光沢をもつものが認められる。産出層準のおもな重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

基本土層断面・第6号掘立柱建物跡P14覆土試料のほとんどからタイプeの火山ガラスが、また、4層、1層、IVa層からタイプeの軽石が検出された。さらに、IIa層にはタイプfの軽石や火山ガラスが多く含まれている。VII層からV層上部にかけては、タイプaやタイプbの火山ガラスを検出できた。これらのうち、V層上部以上には、タイプeの火山ガラスが含まれている。

P-109およびP-136の覆土では、覆土上部の試料でタイプeの火山ガラスを認めることができた。

第1号掘立柱建物跡P16では、いずれの試料からもタイプeの火山ガラスが少量ずつ、また2層と1層ではタイプeの軽石が少量ずつ検出された。さらに、いずれの試料でもタイプbの、6層でタイプa、2層でタイプd、そして1層でタイプcの火山ガラスをわずかずつ認めることができた。P19でも、いずれの試料からもタイプeの火山ガラスが少量ずつ検出された。また、いずれの試料でもタイプbの火山ガラスが認められた。第1号掘立柱建物跡P22のIV層および1層のいずれからも、タイプeとタイプfのテフラ粒子が検出された。とくに、1層には比較的多くのタイプfの軽石や火山ガラスが含まれている。

第2号掘立柱建物跡P6では、多くの試料からタイプbの火山ガラスが検出された。8層と2～1層でタイプeの火山ガラスが認められたものの、8層に含まれるこのタイプの火山ガラスはごく少量

である。P8でも、いずれの試料からもタイプbの火山ガラスが、また最下位の4層と最上位の1層上部からタイプcの火山ガラスがわずかに検出された。1層上部には、ほかにタイプeの火山ガラスが含まれている。

4. 考察

(1) テフラ粒子の由来

テフラ検出分析で認められたテフラ粒子のうち、タイプaの火山ガラスは、その岩相から始良Tn火山灰(AT、約2.8～3万年前、町田・新井、1976・2011など)に由来すると考えられる。また、タイプbの火山ガラスは、特徴などから約2万年前に浅間火山から噴出した浅間大窪沢軽石群(As-Ok Group、中沢ほか、1984、町田・新井、2011、早田、2019など)や、約1.5～1.65万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP、新井、1962、町田・新井、2011など)など、浅間火山軽石流期(荒牧、1968)のテフラに由来すると考えられる。とくに本遺跡では、As-YPに由来する可能性の高い黄色の軽石質粗粒火山灰が散見されることから、タイプbの多くはAs-YPに由来すると推定される。

タイプcの火山ガラスは、特徴や含まれる重鉱物の組み合わせから、3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C、荒牧、1968、新井、1979、坂口、2010、町田・新井、2011)の可能性がある。また、タイプdの火山ガラスは、岩相や検出層準の重鉱物に角閃石が認められること、さらにテフラの分布と本遺跡の位置との関係から、6世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA、新井、1979、坂口、1986、早田、1989、町田・新井、2011など)と推定される。

さらに、タイプeとタイプfの軽石や火山ガラスは、岩相や重鉱物の組み合わせから、それぞれ1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B、荒牧、1968、新井、1979)と、1783(天明3)年に浅間火山から噴出した浅間A軽石(As-A、荒牧、1968、新井、1979)と考えられる。

(2) 指標テフラとの層位関係からみた遺構の年代

第6号掘立柱建物跡P14では、覆土試料のいずれかにもタイプe(As-B)の火山ガラスが検出されたことから、その層位はAs-BとAs-Aの間に層位があると考えられる。P-109およびP-136では、覆土上部の試料でAs-Bが認められたものの、覆土下位の試料は、基盤の古い土層を多く含むこと、またAs-Bを含むV層より遺構が上位であることから、これらの遺構についてもAs-BとAs-Aの間に層位があると推定される。

第1号掘立柱建物跡P16とP19では、いずれの試料からもタイプe(As-B)の火山ガラスが検出されたことから、いずれの層位もAs-BとAs-Aの間と推定される。P22については、基盤の土層からタイプf(As-A)の火山ガラスが検出され、As-Aより上位の新しい土坑の可能性が指摘される。しかしながら、柱穴の配列状況から、本遺構付近にAs-BとAs-Aの間に層位をもつ柱穴の存在が期待される。また、覆土中には、上位で見られるようなAs-A由来の軽石や粗粒火山灰は認められなかった。したがって、発掘調査時に基盤と推定された土層(IV a層)に関しては、何らかの作用により後代に攪乱を受けた土層のように思われる。

発掘調査の際に7～8世紀頃の可能性が指摘された第2号掘立柱建物跡P6やP8では、多くの試料からタイプb(浅間火山軽石流期に由来する可能性が高い火山ガラス)が検出された。P6において、

第IV章 本庄市鷲山南遺跡B地点の火山灰分析

As-Bは8層と2～1層で認められたものの、8層に含まれるこのタイプの火山ガラスはごく少量であった。また、P8では1層上部でタイプe (As-B) が検出された。ここでは、最下位の4層からタイプc (As-C) に由来する可能性がある火山ガラスが認められたことから、P8の層位はAs-Bより下位で、As-Cより上位と推定される。以上のことから、第2号掘立柱建物跡の層位はAs-Bより下位と考えられる。このことは、発掘調査による第2号掘立柱建物跡の推定時期と矛盾しない。

5. まとめ

本庄市鷲山南遺跡において、野外調査（地質調査）とテフラ分析（テフラ検出分析）を実施した。その結果、下位より始良 Tn 火山灰（AT、約2.8～3万年前）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP、約1.5～1.65万年前）で代表される浅間火山軽石流期のテフラ、浅間C軽石（As-C、3世紀後半）、榛名二ツ岳洪川テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）、浅間Bテフラ（As-B、1108年）、浅間A軽石（As-A、1783年）などに由来するテフラ粒子を認めることができた。調査分析対象遺構のうち、第6号掘立柱建物跡P14、P-109、P-136、第1号掘立柱建物跡の層位は、As-Bより上位で、As-Aより下位にあり、中世とする発掘調査による推定時期と矛盾しない。また、第2号掘立柱建物跡の層位については、As-Bより下位で、As-Cより上位と推定される。

文献

- 新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編、10、p. 1-79.
- 新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル、No. 53、p. 41-52.
- 荒牧重雄（1968）浅間火山の地質．地団研専報、No. 14、p. 1-45.
- 町田 洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義．科学、46、p. 339-347.
- 町田 洋・新井房夫（2011）「新編火山灰アトラス—日本列島とその周辺（第2刷）」．東京大学出版会、336p.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦（1984）浅間火山、黒班～前掛期のテフラ層序．日本第四紀学会講演要旨集、No. 14、p. 69-70.
- 坂口 一（1986）榛名二ツ岳起源 FA・FP 層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」、p. 103-119.
- 坂口 一（2010）高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向—中居町一丁目遺跡 H22 の水田耕作地と周辺集落との関係—．群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」、p. 17-22.
- 早田 勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害．第四紀研究、27、p. 297-312.
- 早田 勉（1990）群馬県の自然と風土．群馬県史編さん委員会編「群馬県史通史編1 原始古代1」、p. 37-129.
- 早田 勉（2019）北関東地方西部における旧石器時代の火山噴火と環境変化．令和元年度岩宿フォーラム講演要旨集、p. 19-25.

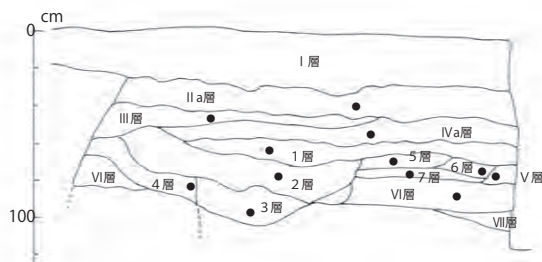
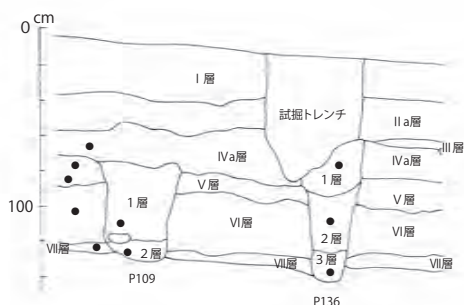
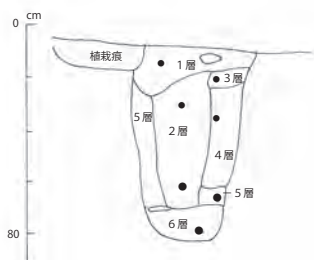


図34 基本層序・第6号掘立柱建物跡P14におけるテフラ分析試料の層位(●)



第35図 基本層序・P-109・P-136におけるテフラ分析試料の層位(●)



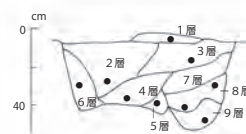
第36図 第1号掘立柱建物跡P16におけるテフラ分析試料の層位(●)



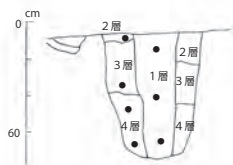
第38図 第1号掘立柱建物跡P22におけるテフラ分析試料の層位(●)



第37図 第1号掘立柱建物跡P19におけるテフラ分析試料の層位(●)



第39図 第2号掘立柱建物跡P6におけるテフラ分析試料の層位(●)



第40図 第2号掘立柱建物跡P8におけるテフラ分析試料の層位(●)

表 29 表 テフラ検出分析結果 (1)

地点	軽石・スコリア			火山ガラス		おもな重鉱物 (不透明鉱物以外)
	量	色調	最大径	量	形態	
基本層序・ 第6号掘立柱建物 跡・P14	II a層 *	(灰) 白	2.1mm	***	pm(sp), md	(灰) 白, 淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx
	III層			**	pm(sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx
	IV a層	(*) 淡灰	3.2mm	**	pm(sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx
	V層			*	md, pm(sp)	淡灰, 無色透明, 淡褐, 褐 opx, cpx
	VI層			*	md	淡灰, 無色透明 opx, cpx
	1層	(*) 淡灰	2.0mm	**	pm(sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx
	2層			**	pm(sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx
	3層			**	pm(sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx
	4層	(*) 淡褐	2.1mm	*	md, pm(sp)	淡灰, 無色透明, 淡褐, 褐 opx, cpx
	5層			*	md, pm(sp)	淡灰, 無色透明, 淡褐, 褐 opx, cpx
	6層			*	md, pm(sp)	淡灰, 無色透明, 淡褐, 褐 opx, cpx
	7層			*	md, pm(sp)	淡灰, 無色透明, 淡褐, 褐 opx, cpx
基本層序・ P-109・P-136	IV a層	(*) 淡灰	2.0mm	**	pm(sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx
	V上層			*	md, pm(sp)	淡灰, 無色透明, 淡褐, 褐 opx, cpx
	V下層			*	md	淡灰, 無色透明 opx, cpx
	VI層			*	md, pm(sp)	淡灰, 無色透明 opx, cpx
	VII層			**	md > bw	淡灰, 無色透明 opx, cpx
	P-109-1層	* 淡灰, 淡褐	2.6mm, 2.4mm	***	pm(sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx
	P-109-2層			*	md	淡灰, 無色透明 opx, cpx
	P-136-1層			*	pm(sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx, (am)
	P-136-2層			**	md, pm(sp)	淡灰, 無色透明, 淡褐, 褐 opx, cpx
	P-136-3層			**	md	淡灰, 無色透明 opx, cpx

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, (*): 非常に少ない. bw: バブル型, pm: 軽石型, sp: スポンジ状, md: 中間型,

opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石. 重鉱物の () は量が少ないことを示す.

第30表 テフラ検出分析結果(2)

地点	軽石・スコリア		火山ガラス		おもな重鉱物 (不透明鉱物以外)
	量	色調	最大径	形態	
第1号掘立柱建物 跡・P16	1層	(*) 淡灰	2.1mm	* pm (sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明, 灰白 opx, cpx
	2層	(*) 褐	2.0mm	* pm (sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明, 白 opx, cpx, (am)
	5層			* pm (sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx
	6層			* pm (sp), md, bw	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx, (am)
第1号掘立柱建物 跡・P19	1層上			* pm (sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx, (am)
	2層			* pm (sp), md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx
	3層			* pm (sp) > md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx, (am)
	6層			* pm (sp) > md	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明 opx, cpx, (am)
第1号掘立柱建物 跡・P22	1層	** (灰) 白 > 淡褐	3.1mm, 2.2mm	** pm (sp)	(灰) 白 > 淡灰, 淡褐, 褐 opx, cpx
	IVa層	* (灰) 白	2.2mm	** pm (sp)	(灰) 白 > 淡灰, 淡褐, 褐 opx, cpx
	1層			** pm (sp)	淡灰, 無色透明, 淡褐, 褐 opx, cpx
	2層			** pm (sp)	淡灰, 無色透明 opx, cpx
第2号掘立柱建物 跡・P6	4層			** md	淡灰, 無色透明 opx, cpx
	5層			** md > pm(fb)	淡灰, 無色透明 opx, cpx, am
	8層			* md > pm (sp)	淡灰, 無色透明, 淡褐, 褐 opx, cpx
	9層			* md	淡灰, 無色透明 opx, cpx
第2号掘立柱建物 跡・P8	1層上			** md, pm (sp), bw	淡灰, 淡褐, 褐, 無色透明, 灰白 opx, cpx
	1層下			** md	淡灰, 無色透明 opx, cpx, (am)
	3層			** md > bw	淡灰, 無色透明 opx, cpx
	4層			* md, pm (sp)	淡灰, 無色透明, 灰白 opx, cpx

**** : とくに多い, *** : 多い, ** : 中程度, * : 少ない, (*) : 非常に少ない, bw : バブル型, pm : 軽石型, sp : スポンジ状, md : 中間型,

opx : 斜方輝石, cpx : 単斜輝石, am : 角閃石, 重鉱物の () : 量が少ないことを示す。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7

- 写真1：基本層序・第6号掘立柱建物跡 P14
- 写真2：基本層序・P-109・P-136
- 写真3：第1号掘立柱建物跡 P16
- 写真4：第1号掘立柱建物跡 P19
- 写真5：第1号掘立柱建物跡 P22
- 写真6：第2号掘立柱建物跡 P6
- 写真7：第2号掘立柱建物跡 P8

第41図 野外調査写真

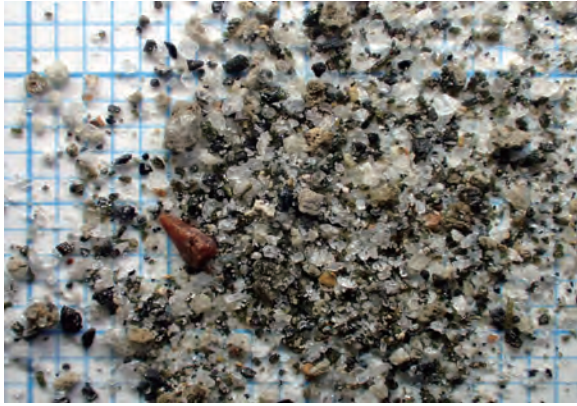


写真8

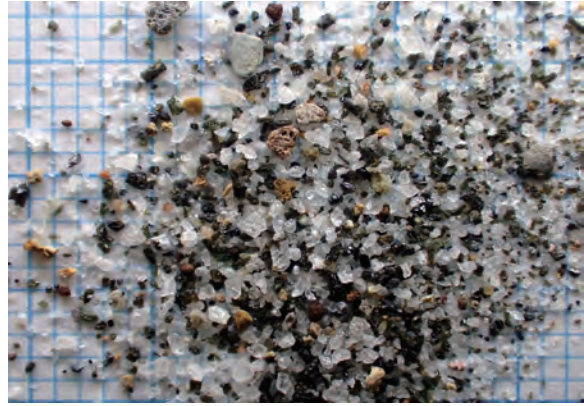


写真9

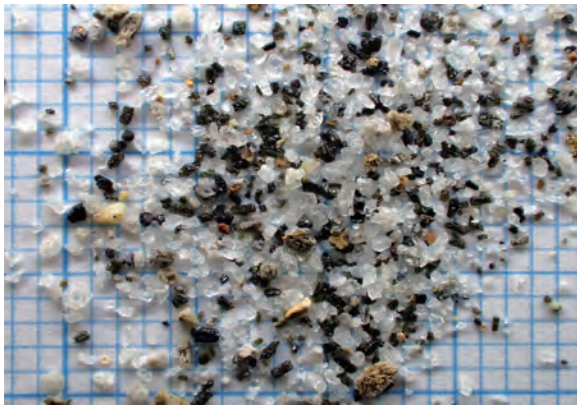


写真10

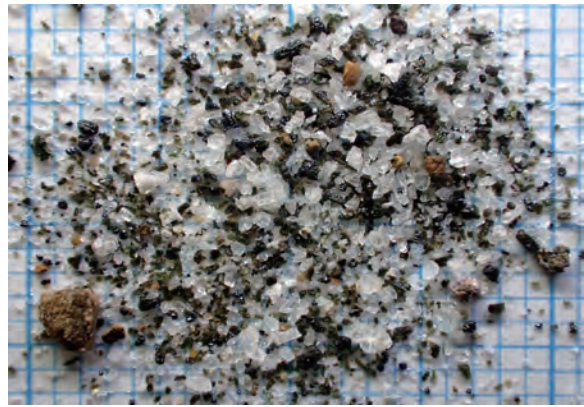


写真11

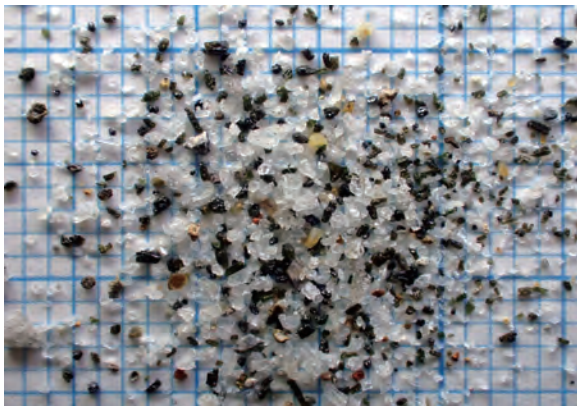


写真12

写真1 : P-109・1層 (As-B 混在)

写真2 : 第1号掘立柱建物跡 P16・6層
(As-B 混在)

写真3 : 第1号掘立柱建物跡 P19・6層
(As-B 混在)

写真4 : 第2号掘立柱建物跡 P6・9層
(As-B 混在)

写真7 : 第2号掘立柱建物跡 P8・7層
(As-B 混在)

いずれも落射光下で撮影、背後は1mmメッシュ。

第42図 テフラ分析写真

第V章 まとめ

今回の調査では、竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡6棟、土坑9基、溝跡3条、ピット414基が検出された。

古代の遺構は、第2号住居跡と第2号掘立柱建物跡がある。第2号住居跡は、出土土器の特徴から飛鳥時代（7世紀前半）に位置づけられる。第2号掘立柱建物跡は、中世の整地層（基本層序第IV層）下で検出された。柱穴覆土中にAs-Bを含まないことが確認され（第IV章）、北武蔵型坏が出土していることから飛鳥時代から奈良時代（7世紀末葉から8世紀前半）に位置づけた。

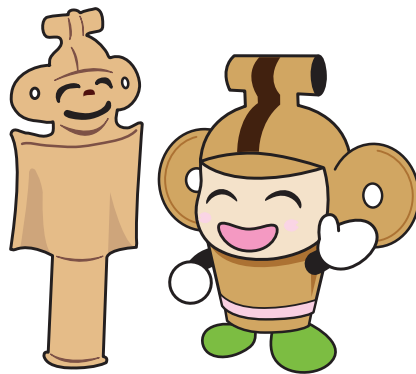
中世の遺構は、掘立柱建物跡5棟が検出され、2面の整地層（基本層序第IV a層・第IV b層）に構築されている。もっとも規模の大きい第1号掘立柱建物跡は、新しい整地面（第IV a層）に構築され、南北2間、東西6間以上で、北側と南側に庇を持つ。柱穴の底面には礎板石が据えられ、東側と南側の側柱には複数の礎板石が据えられており、建て替えまたは拡張が行われたようである。柱穴覆土にはAs-Bが含まれている。古い整地面（第IV b層）に建てられている第6号掘立柱建物跡も同様の柱間の建物と推定されるが、規模がやや小さく、礎板石もない。第1号掘立柱建物跡の時期は、僅かな出土遺物から推測される。P7出土のかわらけは、口径12cm以上の大型のロクロ製品で、白い胎土、やや内彎気味の口縁部と深い体部で、おそらく厚い底部が付く。P1出土の常滑窯系大甕の口縁部片は、常滑窯編年（中野 2012）の4型式期～5型式期の「肩から直立ないし内傾気味に立ち上がった頸部の先が水平方向に屈曲して開き口縁部を形成し」「先端は上部に摘み上げるようにして拡張し、断面はLを逆時計方向に90度倒したような形の受け口状になる」特徴を持つ。このことから第1号掘立柱建物跡は、13世紀前半と考えられる。また、第6号掘立柱建物跡は新旧関係から13世紀以前、第1号掘立柱建物跡を切る第4号掘立柱建物跡は13世紀以降、重複関係になく、時期の判別できる出土遺物がない第3・5号掘立柱建物跡については、中世以降と想定しておく。なお、詳細は不明であるが、A地点の調査で検出された溝跡と、礎板石を持ち、第1号掘立柱建物跡と長軸方位がほぼ直交している掘立柱建物跡とは第1号掘立柱建物跡と同時期と推定しておく。なお、調査区内には400基を超えるピットがある。今回は調査面積の制約もあって確定には至らなかったが、その中には直線的に並ぶものも散見され、建物跡や柵列などが想定される。

本遺跡の東西に連なる残丘には、武蔵七党の児玉党庄氏や浅見氏の居館や屋敷跡と想定される大久保山遺跡Ⅲc区や壺丁田遺跡などが立地している。両遺跡に挟まれた本遺跡は地名が示すとおり、浅見氏に関連した屋敷跡であったと推定され、児玉地域における中世前期の様相を知るうえで、新しい成果が得られたといえる。

【参考文献】

- 浅野晴樹 2017 「武士の本拠の成立について—考古学的資料をとおして—」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第10号 埼玉県立史跡の博物館
- 荒川正夫 1998 『大久保山VI』早稲田大学本庄校地文化財調査報告6 早稲田大学
- 荒川正夫 2002 「中世前期の在土器—北武蔵児玉地方を中心に—」『在地土器土器検討会—北武蔵のカワラケ—』記録集 中世を歩く会
- 恋河内昭彦 1998 『向田A・向田B・壺丁田遺跡』児玉町文化財調査報告書 第27集
- 中野晴久ほか 2012 『愛知県史 別編 中世・近世 常滑系』愛知県
- 中野晴久 2014 『中世常滑窯の研究』
- 野口泰宣 2018 『本庄市の地名②—児玉地域編—』本庄市郷土叢書第7集 本庄市教育委員会文化財保護課

写真図版



本庄市マスコット

はにぽん



鷺山南遺跡B地点調査区遠景（南西より）



鷺山南遺跡B地点調査区遠景（南東より）



鷲山南遺跡B 地点調査区全景



第1号住居跡



第2号住居跡



第2号住居跡カマド



第2号住居跡遺物出土状態



第2号住居跡カマド遺物出土状態



第2号住居跡カマド前遺物出土状態



第1号掘立柱建物跡



第1号掘立柱建物跡（東側）



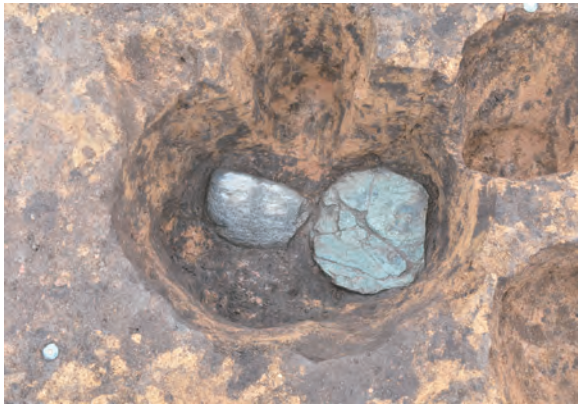
第1号掘立柱建物跡（西側）



第 1 号掘立柱建物跡 P1



第 1 号掘立柱建物跡 P1 遺物出土状态



第 1 号掘立柱建物跡 P2



第 1 号掘立柱建物跡 P3



第 1 号掘立柱建物跡 P3 (最下層)



第 1 号掘立柱建物跡 P4



第 1 号掘立柱建物跡 P4 (最下層)



第 1 号掘立柱建物跡 P5



第 1 号掘立柱建物跡 P6 土層断面



第 1 号掘立柱建物跡 P7



第 1 号掘立柱建物跡 P7 遺物出土狀態



第 1 号掘立柱建物跡 P8



第 1 号掘立柱建物跡 P9



第 1 号掘立柱建物跡 P10



第 1 号掘立柱建物跡 P11



第 1 号掘立柱建物跡 P11 土層断面



第 1 号掘立柱建物跡 P12



第 1 号掘立柱建物跡 P13



第 1 号掘立柱建物跡 P16



第 1 号掘立柱建物跡 P16 土层断面



第 1 号掘立柱建物跡 P17



第 1 号掘立柱建物跡 P17 土层断面



第 1 号掘立柱建物跡 P18



第 1 号掘立柱建物跡 P19



第 1 号掘立柱建物跡 P19 土層断面



第 1 号掘立柱建物跡 P20



第 1 号掘立柱建物跡 P21



第 1 号掘立柱建物跡 P22



第 1 号掘立柱建物跡 P23



第 2 号掘立柱建物跡



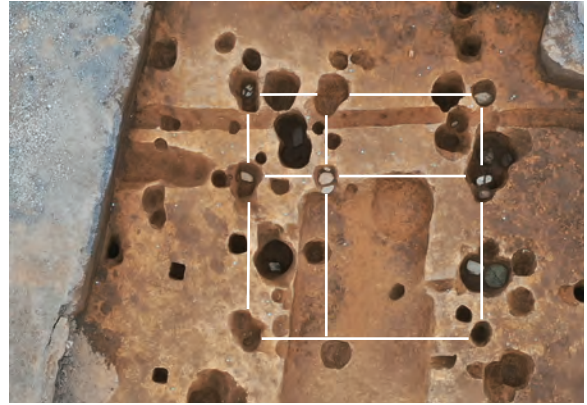
第 2 号掘立柱建物跡 P6 土層断面



第 2 号掘立柱建物跡 P8 土層断面



第3号掘立柱建物跡



第4号掘立柱建物跡



第4・5・6号掘立柱建物跡



第4号掘立柱建物跡 P1



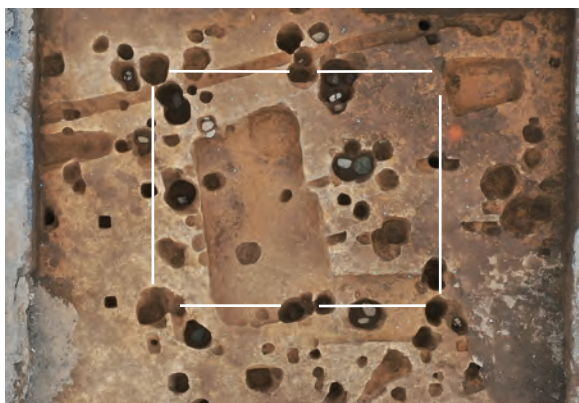
第4号掘立柱建物跡 P2



第 4 号掘立柱建物跡 P5



第 4 号掘立柱建物跡 P7



第 5 号掘立柱建物跡



第 6 号掘立柱建物跡



第 1 · 2 · 3 号土坑



第 4 号土坑



第 5 号土坑



第 6 号土坑



第 8 号土坑



第 9 号土坑



第 10 号土坑



第 1・2 号溝跡



第 3 号溝跡



調査区南東部ピット群



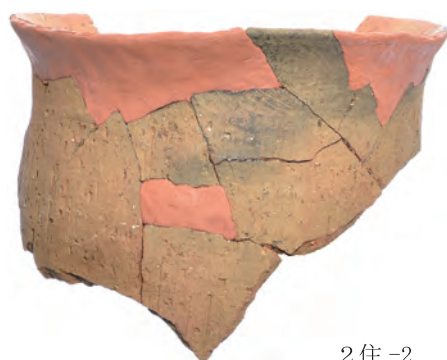
調査区南西部ピット群



P -48



2住-1



2住-2



2住-3



2住-4



2住-5



2住-6



2住-7



2住-8



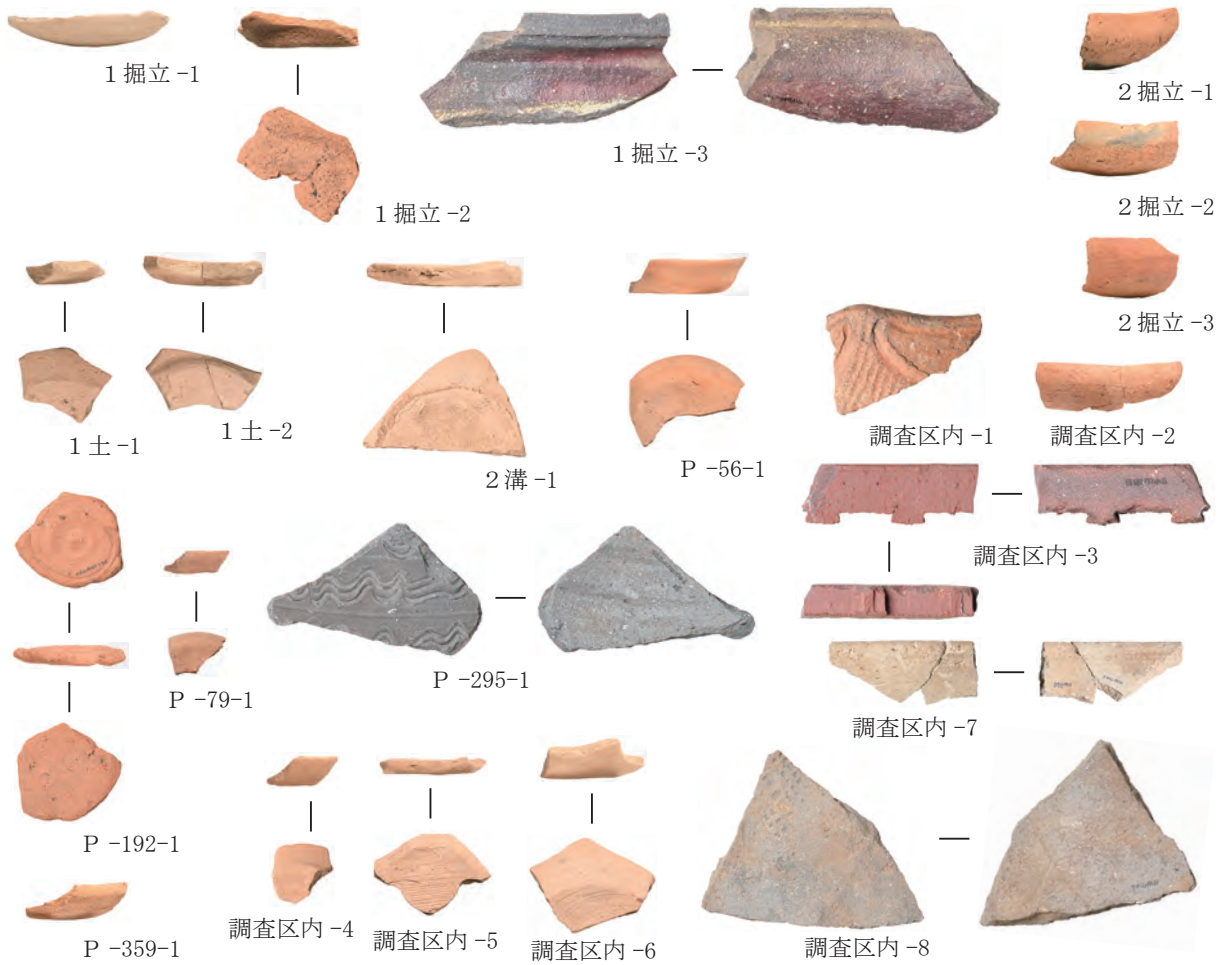
2住-9



2住-10



2住-11



第1号掘立柱建物跡の礎板石や根固め石に使用された石材

報 告 書 抄 録

フリガナ	サギヤマミナマイセキ - Bチテンノチョウサー							
書 名	鷺山南遺跡 - B地点の調査-							
副 書 名								
シリーズ名	本庄市埋蔵文化財調査報告書					巻 次	第 71 集	
編著者名	福岡佑斗・宮田忠洋・車崎正彦・恋河内昭彦・早田勉							
編集機関	本庄市教育委員会							
所 在 地	〒 367-8501 埼玉県本庄市本庄 3 丁目 5 番 3 号 TEL 0495-25-1185							
発 行 日	西暦 2022 年 (令和 4 年) 8 月 31 日							
フリガナ	フリガナ	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡	(° ' ")	(° ' ")			
サギヤマミナマイセキ 鷺山南遺跡 チテン B地点	サイタマケンホンジョウウシヨダマチョウ 埼玉県本庄市児玉町 シホアザミアサギヤマ 下浅見字鷺山 イチブ 823-1、823-4 の一部、 823-5、823-9	112119	54-007	36° 20' 82"	139° 16' 30"	20220411 ～ 20220630	222 m ²	住宅型 有料老人 ホーム 建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集 落	縄 文 飛 鳥 奈 良	住居跡	1 軒	縄文土器 (加曾利EⅢ式)	飛鳥時代 (7 世紀) ~ 奈良時代 (8 世紀前半) の竪穴住居跡と掘立柱 建物跡を検出した。 鎌倉時代 (13 世紀前半) 以降の掘立柱建物跡を 検出した。第 1 号は桁 行 6 間以上、梁行 2 間 の大型掘立柱建物跡で、 北側と南側に庇を持つ。 柱穴底面には礎板石を 据えている。		
	屋 敷	鎌 倉 時期不明	掘立柱建物跡	1 棟	土師器 (長胴甕・甑・壺・坏)、 須恵器 (坏・蓋・甕)、土製 品 (瓦塔)、鉄製品 (器種不明)			
			掘立柱建物跡	5 棟	かわらけ、在地産片口鉢、 常滑窯系大甕			
			住居跡	1 軒				
			土坑	9 基				
			溝跡	3 条				
			ピット	414 基				

本庄市埋蔵文化財調査報告書第71集
鷺山南遺跡
－B地点の調査－

令和4年 8月 23日 印刷

令和4年 8月 31日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

印刷／朝日印刷工業株式会社

群馬県前橋市元総社町67番地